RICOH

IPSiO Color 8150

使用説明書
〈ファクス機能 基本編〉



ご使用の前に必ずこの「使用説明書」をお読みの上、正しくお使いください。
本書をすぐに利用できるように保管してください。

■ はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

株式会社リコー

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず「安全上のご注意」をお読みください。

■ 商標

- Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- その他の製品名、名称は、各社の商標または登録商標です。
- 本書では、NTTグループ各社の総称をNTTと表記しています。

オプションの名称とマークについて

おもなオプションの名称について

オプションの名称は次のように表しています。

- IPSiO ドキュメントフィーダー タイプ8100→自動原稿送り装置(ADF)
- IPSiO 圧板 タイプ8100→原稿カバー
- IPSiO 2000枚フィニッシャー タイプ8000→フィニッシャー
- IPSiO サイド排紙トレイ タイプ8100→サイド排紙トレイ
- IPSiO 両面ユニット タイプ8000→両面ユニット
- IPSiO 2000枚給紙テーブル タイプ8000→給紙テーブル
- IPSiO スキャナーユニット タイプ8100→スキャナーユニット
- 拡張HDD タイプCⅡ→拡張HDD(40GB)
- SDRAMモジュール32MB→32MBメモリー
- imagio FAXメモリータイプN2→FAXメモリー
- imagio FAX機能拡張キットタイプL→FAX機能拡張キット
- imagio ハンドセット タイプ9→ハンドセット
- IPSiO 増設G3ユニット タイプ8100→増設G3ユニット
- IPSiO 増設G4ユニット タイプ8100→G4ユニット
- IPSiO FAXユニット タイプ8100→FAXユニット

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。「安全上のご注意」にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。「安全上のご注意」にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

※以上は、安全上のご注意についての説明です。

重要

誤って操作すると、紙づまり、原稿破損、データ消失の原因になることがあります。必ず、お読みください。

操作の前に

操作をする前に知っておいていただきたいこと、あらかじめ準備していただきたいことなどを説明しています。

補足

操作するときに気を付けることや、操作を誤ったときの対処方法などを説明しています。

制限

数値の制限や組み合わせできない機能、機能が使用できない状態を説明しています。

参照

参照先を示します。

［　］

画面のキーの名称を示します。

【　】

操作部（画面を除く）のキーの名称を示します。

目次

使用説明書の分冊紹介

ファクス機能についての使用説明書には「ファクス機能 基本編（本書）」と「ファクス機能 応用編（CD-ROMに収録）」の2冊があります。お使いになる目的に応じて、必要な項目をお読みください。

ファクス機能 基本編（本書）

ファクスを使うときに必要な基本事項を説明しています。すぐ手にできるよう本機の近くに保管してください。

ファクス機能 応用編（スキャナーユニットに付属のCD-ROMに収録）

ファクスをより使いこなすための事項を説明しています。また、管理ご担当者向けに各種設定項目などを説明しています。

❖ **第1章　拡張送信を使う**
都合の良い時間に原稿を送信したり、通話料金を節約したりする機能について知ることができます。

❖ **第2章　送信待機中・送信中文書を確認/中止する**
送信を取り消したり、相手が話し中などで届かなかった文書を再送信する機能について知ることができます。

❖ **第3章　通信情報を使う**
通信結果をレポートとして印刷したり、送受信の結果を画面に表示させて確認する機能について知ることができます。

❖ **第4章　送信機能を活用する**
ファクスの送信に役に立つ機能を説明しています。相手先を簡単に指定したいとき、宛名をつけて送信したいときなど、そのときの状況に合った送信方法を知ることができます。

❖ **第5章　受信機能を活用する**
ファクスの受信のしかたを説明しています。電話がかかってきた相手先に応じて自動的に電話とファクスを切り替えたり、受信した2ページ分の原稿を1枚の用紙に印刷するなど、確実に受信するための機能や、使いやすい形で受信するさまざまな機能について知ることができます。

❖ **第6章　操作を簡単にする**
一定の操作をキーに登録するプログラム機能や文書をドキュメントボックスに蓄積して何回でも送信することができる文書蓄積について知ることができます。

❖ **第7章　ファクス初期設定を使う**
送信や受信のときに設定する機能や、各種レポートやリストを印刷する機能を知ることができます。

❖ **第8章　管理者の方へ**
管理者の方が操作する機能をまとめてあります。接続した電話回線の選択など本機の設定を使用状況に合わせて変更したり、ポーリング送信、親展送信、封筒受信に必要なIDを登録できます。

❖ **第9章　パソコンからファクス機能を使う**

パソコンから直接ファクスを送信するPC FAXドライバーなどパソコンからファクス機能を使う機能について知ることができます。

❖ **第10章　困ったときには**

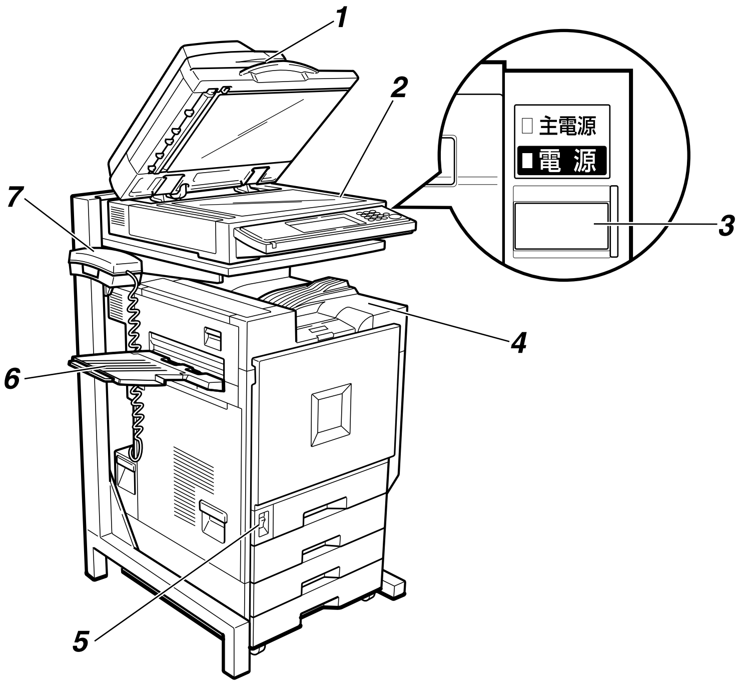
トナーがなくなったときの送信方法などを説明しています。レポートが印刷されたときは印字内容を確認して適切な対処をしてください。

❖ **第11章　付録**

消耗品やオプションの種類を知りたいときは、この章で確認できます。
また、ファクスで利用できる通信網を紹介しています。

本体各部の名称とはたらき

全体図



ZFLH010J

1. **自動原稿送り装置**(ADF)<**オプション**>/**原稿カバー** <**オプション**>

   一度にセットした複数枚の原稿を1枚ずつ自動的に読みとります。原稿ガラスにセットした原稿を押さえます。

   イラストは自動原稿送り装置(ADF)装着時のものです。

2. **原稿ガラス**

   左奥のセット基準に合わせて原稿をセットします。

3. **【電源】キー**

   通常使用できる状態とスリープモードを切り替えるときに使用します。キーを押して電源ランプを点灯させると、通常の使用ができる状態になります。消灯させるとスリープモードになります。

   ⇒ファクス機能 応用編「第10章 電源を切る/切れたとき」

   補足

   - ❒ 電源ランプが消えていても、主電源スイッチが「On」であれば、ファクスを受信します。
   - ❒ **【電源】**キーを押しても電源が入らないときは主電源スイッチが「On」になっているか確認してください。「Off」になっているときは「On」にしてください。

4. **本体排紙トレイ**

   受信紙が排出されます。

   ⇒システム設定編2スキャナーユニットタイプ8100対応版「基本設定－排紙先:ファクス」

***5.* 主電源スイッチ**

「Off」にすると「主電源」のランプが消灯し、完全に電源が切れます。通常は手を触れないでください。

重要

- ❒ 主電源スイッチを「Off」にしているときは、ファクス受信できません。

補足

- ❒ 主電源スイッチを「Off」にしたまま約1時間経過すると、ファクスのメモリーに蓄積されている内容が消去されます。⇒ファクス機能 応用編「第10章 電源を切る/切れたとき」

***6.* 本体左上トレイ**

ファクス用の排紙先として設定し、コピーなど他の印刷物と区別することもできます。

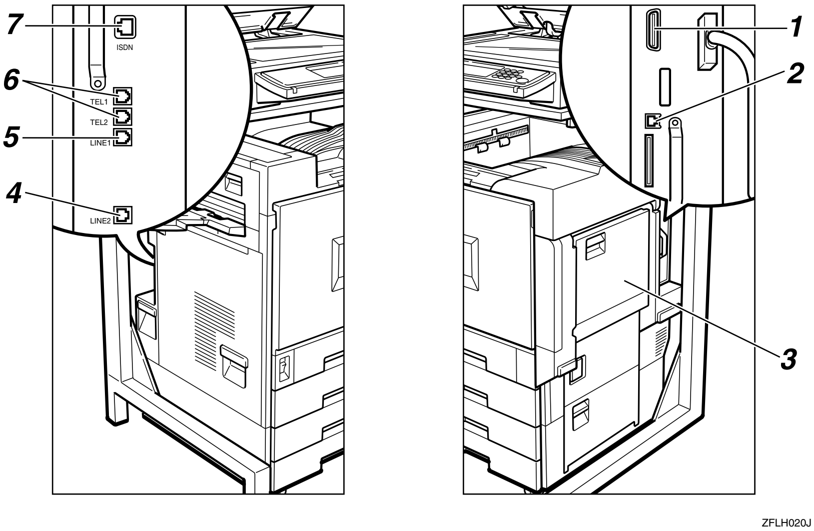
⇒システム設定編2スキャナーユニットタイプ8100対応版「基本設定－排紙先:ファクス」

***7.* ハンドセット（オプション）**

受話器として使えます。

本体の左奥に設置します。

側面図



***1.* パラレルインターフェースコネクター**

パソコンと接続するためのパラレルインターフェースケーブルを差し込むコネクターです。

***2.* イーサネットケーブルインターフェースコネクター**

100BASE-TXまたは10BASE-Tのケーブルを差し込むコネクターです。ネットワーク接続するときに使います。

***3.* 手差しトレイ**

規格サイズ以外の用紙に受信するときはこのトレイにセットします。

⇒ファクス機能 応用編「第5章 手差しトレイの用紙に受信する」

***4.* 増設G3回線接続端子（オプション）**

⇒ファクス機能 応用編「第11章 電話回線および電話機との接続」

***5.* G3回線接続端子**

⇒ファクス機能 応用編「第11章 電話回線および電話機との接続」

6. **ハンドセット・外付け電話機接続端子**

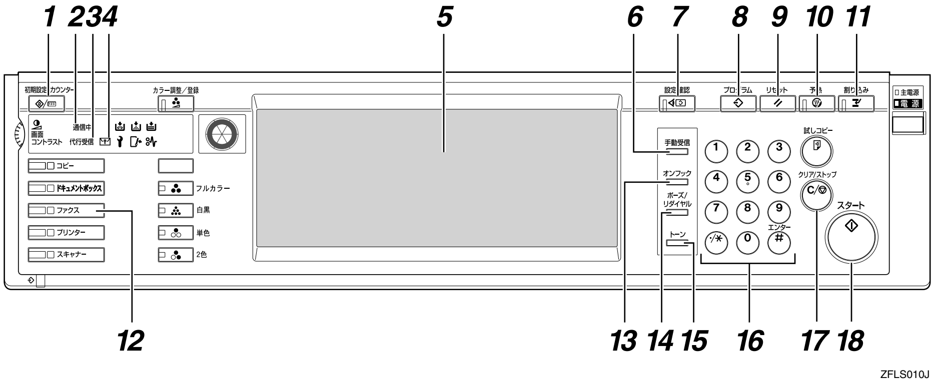
⇒ファクス機能 応用編「第11章 電話回線および電話機との接続」

7. G4**回線接続端子（オプション）**

⇒ファクス機能 応用編「第11章 ISDNと接続する」

操作部の名称とはたらき

イラストはオプション装着時のものです。



1.【初期設定/カウンター】キー

- 初期設定
  使用条件に合わせて、初期設定値や操作条件を変更します。
  ⇒ファクス機能 応用編「第7章 ファクス初期設定を使う」
- カウンター
  印刷した用紙の合計枚数を表示、印刷します。

2. 通信中ランプ

送信中、受信中に点灯します。

3. 代行受信ランプ

親展受信または封筒受信以外にファクスのメモリーに受信文書を蓄積すると点灯します。

⇒ファクス機能 応用編「第5章 代行受信」

4. 親展受信ランプ

親展受信したときに点灯します。

⇒ファクス機能 応用編「第3章 親展受信印刷」

封筒受信したときは点滅します。

⇒ファクス機能 応用編「第3章 封筒受信印刷」

5. 画面

各機能の操作をするためのキーが表示されます。また、操作の状態やメッセージが表示されます。⇒ P.15 「画面について」

6.【手動受信】キー

手動受信をするときや、ファクス情報サービスを利用するときに押します。⇒ P.81「ファクス情報サービスを利用する」

7.【設定確認】キー

操作内容が確認できます。

8.【プログラム】キー

プログラムを使用するときに押します。

⇒ファクス機能 応用編「第6章 プログラムを使う」

9.【リセット】キー

設定した内容を取り消し、ファクス初期画面に戻ります。

10.【予熱】キー

予熱状態になります。

11.【割り込み】キー

ファクスに割り込んでコピーの操作をします。

12.【ファクス】キー

ファクスを使用するときに押します。⇒ P.14

ランプは次のように点灯します。

- 黄色に点灯しているときは、ファクス機能が選択されていることを示します。
- 緑色に点灯しているときは、ファクス機能を使用して、受信文書やレポート／リストを印刷中であることを示します。

- 赤色に点灯しているときは、ファクス機能が中断していることを示します。表示されている指示に従って対処してください。⇒ P.85 「**【ファクス】**キーが赤く点灯したとき」

13. 【オンフック】キー

ハンドセット（受話器）を上げたときと同じ状態でダイヤルできます。

⇒ファクス機能 応用編「第4章 オンフックダイヤル（オンフックを使った送信）」

14. 【ポーズ/リダイヤル】キー

- ポーズ
  ファクス番号の間に待ち時間を入れるときに押します。1桁目には入力できません。⇒ P.41 「ポーズを入力する」
- リダイヤル
  最近ダイヤルした相手先を指定できます。
  ⇒ファクス機能 応用編「第4章 リダイヤルで指定する」

15. 【トーン】キー

ダイヤル回線でプッシュ信号を送出するときに押します。⇒ P.41「トーン信号に切り替える」

16. テンキー

ファクス番号など数字を入力するときに押します。

17. 【クリア/ストップ】キー

- クリア
  入力した文字や数字を 1 文字分だけ削除するときに押します。
- ストップ
  メモリー送信の原稿読み取り、直接送信、レポートなどの印刷を中止するときに押します。

18. 【スタート】キー

送信を始めるときやレポートなどを印刷するときに押します。

機械の立ち上げ

機械を始動するときは**【電源】**キーを押して、電源ランプを点灯させます。

本機には**【電源】**キーと主電源スイッチの2つの電源があります。

補足

- ❒ 本機は電源ランプが点灯した状態で一定時間使用しないと自動的に予熱の状態になったり、電源を切る機能を搭載しています。⇒システム設定編2スキャナーユニット対応版「時刻タイマー設定－予熱移行時間設定」、「時刻タイマー設定－オートオフ時間設定」

❖ **【電源】キー（操作部右側）**
本機を動作させるときに押し、ランプを点灯させると電源が入ります。ウォームアップ終了後コピーやファクスなどの操作ができます。

❖ **主電源スイッチ（本体正面左側）**
「Off」にすると「主電源」のランプが消灯し、完全に電源が切れます。
通常は手を触れないでください。

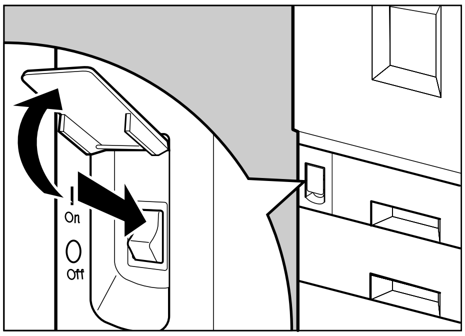
重要

- ❒ 主電源スイッチを「Off」にしたまま約1時間経過すると、ファクスのメモリーに蓄積されている内容が消去されます。⇒ファクス機能 応用編「第10章 電源を切る/切れたとき」

電源の入れかた

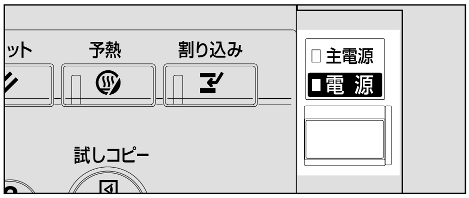
1 **電源プラグが確実にコンセントに差し込まれているか確認します。**

2 **本体正面左側の主電源スイッチが「On」になっているか確認します。**



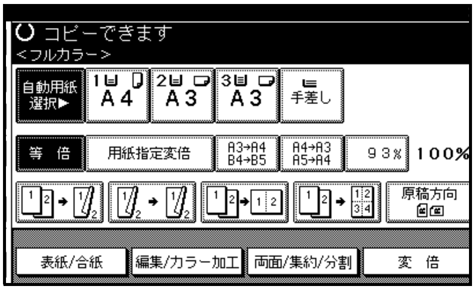
ZFNH051J

3 **操作部の右側にある【電源】キーを押し、ランプを点灯させます。**



ZFLS020J

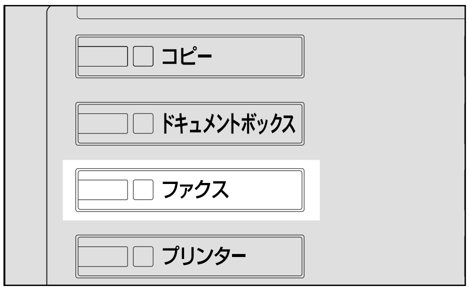
コピー画面が表示されます。



補足

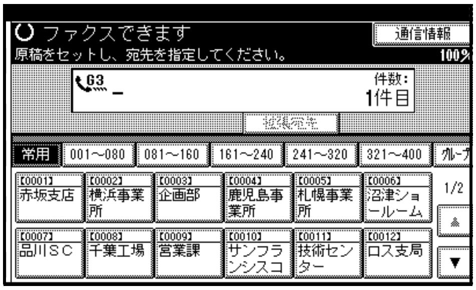
- ❒ 主電源を入れてから119秒以下でコピーが使用できる状態になります。
- ❒ “コピーできます”が表示されないときはコピー機能基本編「基本的なコピーのとりかた」を参照してください。
- ❒ 電源を入れた直後やシステムリセットされたときに、ファクス機能の画面を表示するよう設定することができます。⇒システム設定編2スキャナーユニットタイプ8100対応版「基本設定－優先機能」「時刻タイマー設定－システムリセット時間設定」

4 **【ファクス】キーを押します。**



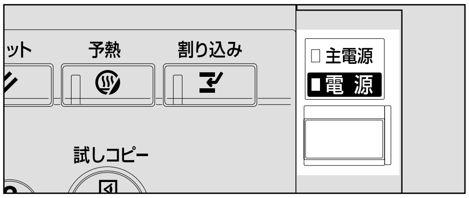
ZFLS030J

ファクス画面が表示されます。



電源の切りかた

1 操作部の右側にある【電源】キーを押し、ランプを消灯させます。



ZFLS020J

補足

- ❒ **【電源】**キーを押しても、次のときは電源ランプは消灯せず、点滅します。
  - 自動原稿送り装置 (ADF)< オプション>/原稿カバー <オプション>が開いているとき
  - 外部の機器と通信中のとき
  - ハードディスクが動作しているとき
  - ダイヤルイン機能を使用しているとき

主電源を切るときは

ファクス機能をお使いのときに主電源スイッチを「Off」にすると、送信待機中の文書や印刷待機中の文書が消去されることがあります。また、相手先からファクスを送信されても、受信できなくなります。やむをえず主電源スイッチを「Off」にするときは、次の手順で操作してください。

重要

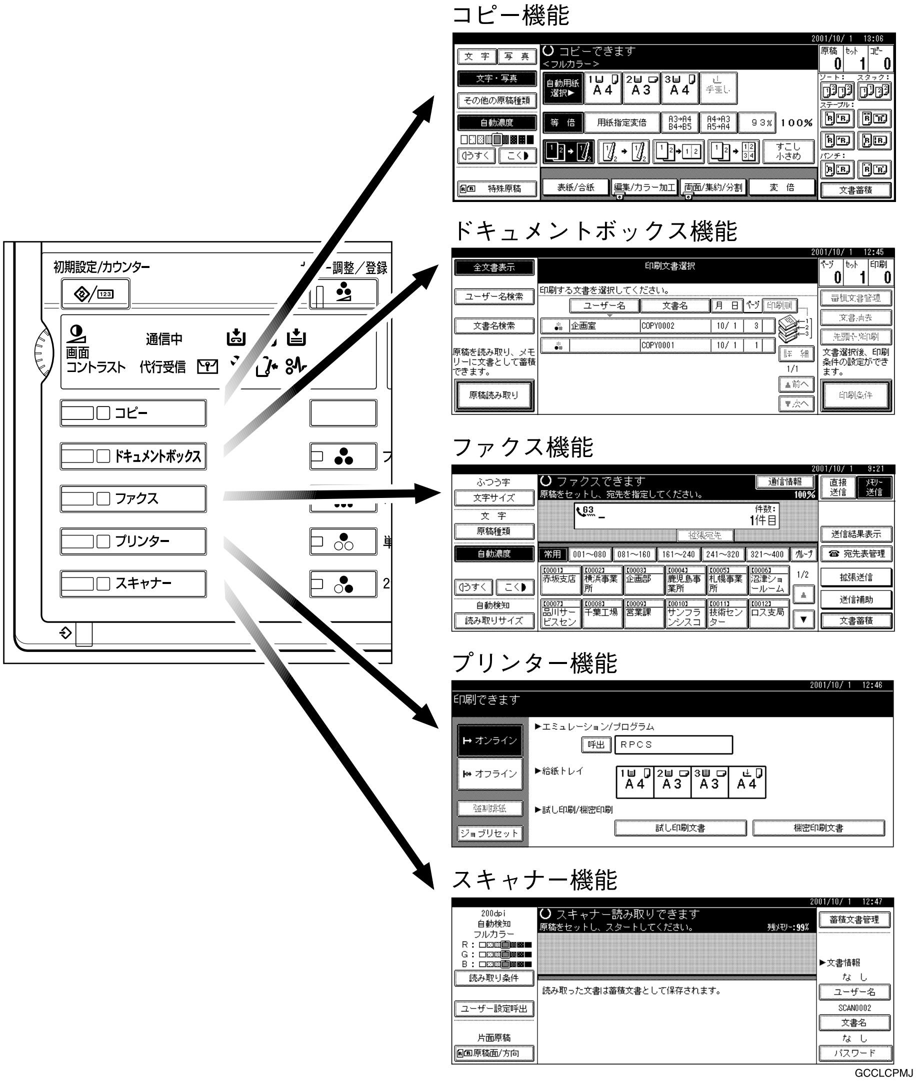
- ❒ 電源ランプが点灯、点滅しているときは主電源スイッチを「Off」にしないでください。ハードディスクやメモリーが破損したり、故障の原因となることがあります。
- ❒ 主電源スイッチを「Off」にしたり、電源プラグを抜くときは、ファクス機能の画面でメモリー残量の表示が100%であることを確認してください。主電源スイッチを「Off」にしたり、電源プラグを抜いて約1時間経過すると、ファクスのメモリーに蓄積されている内容が消去されます。⇒ファクス機能 応用編「第10章 電源を切る/切れたとき」
- ❒ 電源プラグは、主電源スイッチを「Off」にしてから抜いてください。ハードディスクやメモリーが破損したり、故障の原因になることがあります。
- ❒ ダイヤルイン機能を使用しているときは、【電源】キーを押しても電源ランプは、点滅したままで消灯しません。そのときは、次の項目を確認してから主電源スイッチを「Off」にしてください。
  - 自動原稿送り装置(ADF)/原稿カバー(オプション)が閉じている
  - パソコンから本機への操作が行われていない

1 電源ランプが消灯していることを確認します。

2 主電源スイッチを「Off」にし、主電源ランプを消灯させます。

機能を切り替える

本機はコピーのほかにファクスとしても利用できます。電源を入れたときには、通常コピーの画面が表示されるのでそのままコピーの操作をしてください。ファクス機能を使いたいときは、操作部左にある **【ファクス】** キーを押します。



制限

- ❒ 次のとき、機能の切り替えはできません。
    - ファクスの原稿読み取り中
    - 直接送信中
    - 初期設定中
    - 割り込みコピー中
    - オンフック中
    - 予熱モード中

画面について

画面には、機能のメニューや操作の状態、メッセージが表示されます。

重要

- ❒ 画面に強い衝撃や約30N [*1]（約3kgf [*2]）以上の力を加えないでください。また、シャープペンシルやボールペンなど先のとがったもので押さないでください。破損の原因になります。

[*1] N＝ニュートン

[*2] kgf＝重量キログラム（1kgf　9.8N）

補足

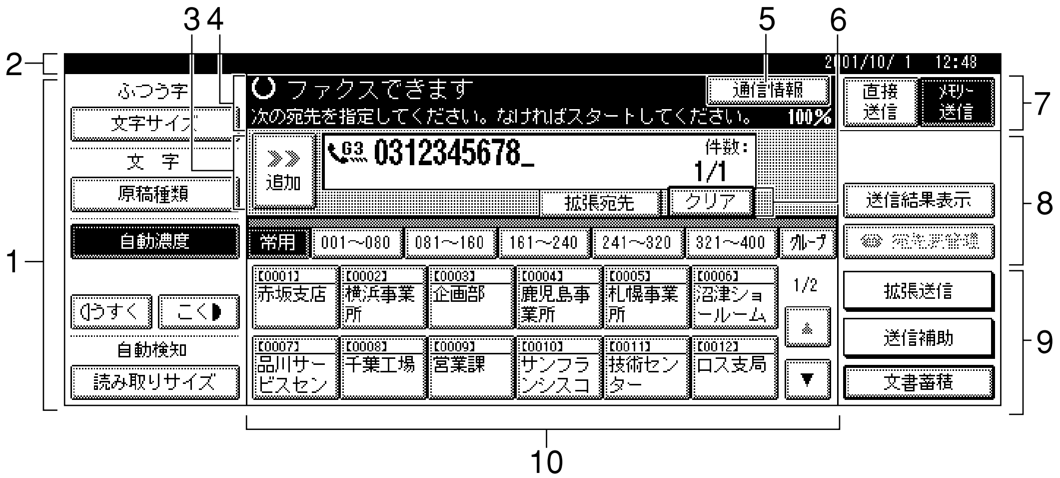
- ❒ 表示されているそれぞれの機能項目は選択キーになっています。軽く押すことによって、項目を選んだり、指定したりすることができます。
- ❒ 電源を入れたとき、最初に表示される画面を変更できます。工場出荷時はコピー機能が設定されています。⇒システム設定編2スキャナーユニットタイプ8100対応版「基本設定－優先機能」

表示画面とキー操作について

補足

- ❒ 表示される内容はオプションの有無によって異なることがあります。

❖ ファクス初期画面



ZEXS131J

1. 読み取り条件・読み取りサイズを選択できる内容が表示されます。
2. 日時が表示されています。通信中は相手先の名称やファクス番号および原稿サイズが表示されます。
3. 入力した相手先を表示します。テンキーで相手先を追加するときは［追加］を押します。
4. 操作の状態やメッセージが表示されます。
5. 通信にかかわるいろいろな情報を知ることができます。
6. 相手先を入力すると表示されます。［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押すと、入力した文字や数字が1字分消去されます。

7. **メモリー送信と直接送信を切り替えます。**

8. **よく使うキーをクイック操作キーとして登録しておくと表示されます。工場出荷時は［送信結果表示］と［宛先表管理］が登録されています。**

9. **送信するとき、いろいろな機能を付加できます。機能を設定するとキーにクリップが表示されます。**

10. **宛先表に登録した相手先の名称が表示されます。**

ユーザーコード利用制限

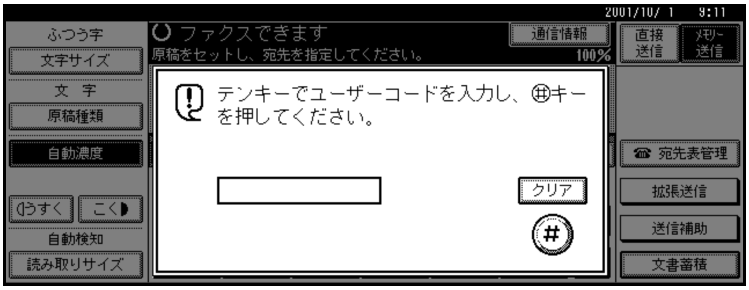
あらかじめ登録してあるユーザーコードを入力しないと、本機の操作ができなくなります。不特定の人が勝手に送信することを防止できます。必ずユーザーコードを入力するので、ユーザーごとの利用状況を確認できます。

補足

❒ ユーザーコードはシステム初期設定で設定します。⇒システム設定編2スキャナーユニットタイプ8100対応版「ユーザーコードについて」

❒ ユーザーコード利用制限をしているときでも、通常どおり受信し、受信紙を印刷します。

① ユーザーコード利用制限が設定されていることを確認します。
画面にメッセージが表示されます。



② ユーザーコード（8桁までの数字）をテンキーで入力します。

③［#］を押します。

補足

❒ 登録していないユーザーコードを入力すると、手順①の画面に戻ります。

画面の見かた

画面には、機械の状態や操作の手順が表示されます。

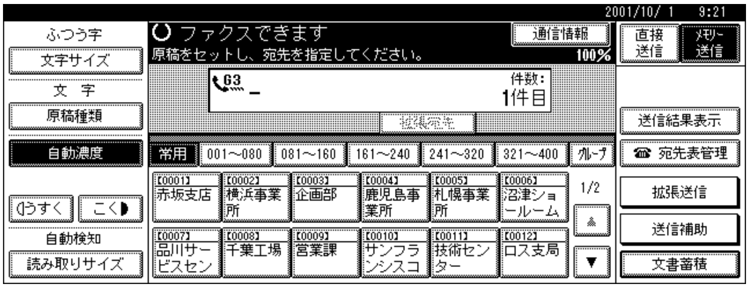
補足

- ❒ 機能項目が選択、または指定されたとき、自動濃度のように黒く反転表示されます。
- ❒ 機能項目が選択、または設定できないとき、のようにうすく表示されます。これを半輝度といいます。
- ❒ ファクスの操作後、一定時間何もしないと待機状態に戻ります。待機状態に戻るまでの時間は、システム初期設定の「ファクスオートリセット時間」で変更することができます。⇒システム設定編2スキャナーユニットタイプ8100対応版「時刻タイマー設定」

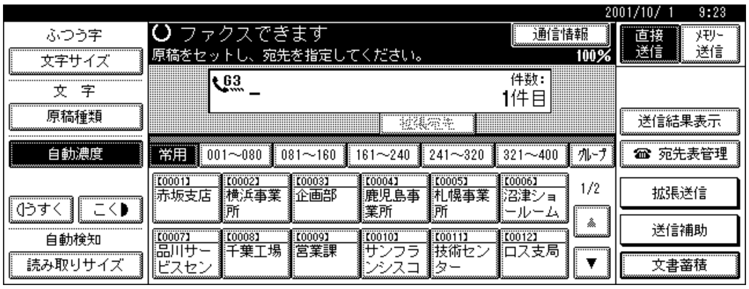
待機中の表示

ファクス待機中の状態（**【ファクス】**キーを押したとき、またはファクス操作中に**【リセット】**キーを押したとき）の表示は次のとおりです。

❖ メモリー送信が選択されているとき（ファクス初期画面）



❖ 直接送信が選択されているとき



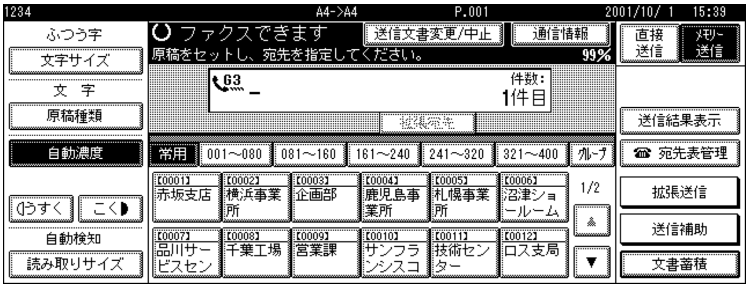
❖ 待機中の状態に戻すとき

- 自動原稿送り装置（ADF）< オプション > に原稿をセットして送信の操作をしていたときは、セットした原稿を取り除きます。
- 原稿をセットしないで送信の操作をしていたときは、**【リセット】**キーを押します。
- 初期設定操作中は**【初期設定/カウンター】**キーを押します。

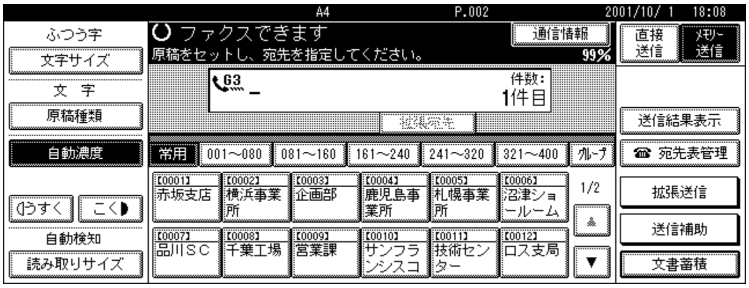
1

送信中または受信中の表示

❖ メモリー送信中のとき



❖ 受信中のとき



補足

- ❒ メモリー送信中や受信中でも、次に送信する原稿を読み取らせることができます。⇒ファクス機能応用編「第4章 送信の予備知識」
- ❒ コピー機能、プリンター機能およびスキャナー機能を使用中に受信したときも相手先の発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号が表示されます。

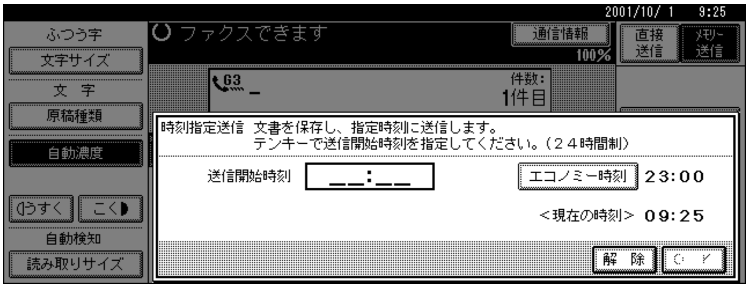
❖ 直接送信中のとき



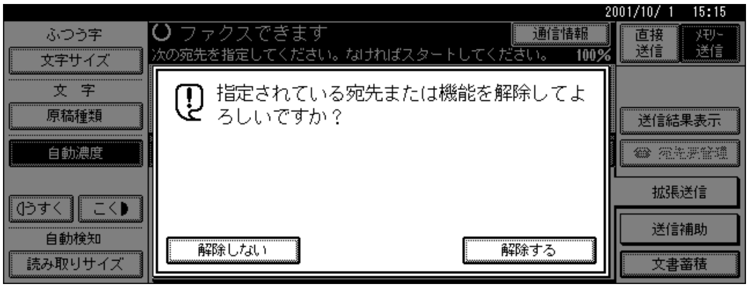
操作中の表示

操作中の画面には、操作に必要な指示や入力要求、質問、選択、状態表示などが手順に合わせて表示されます。

❖ 指示・入力要求



❖ 質問



❖ 選択



❖ 状態表示

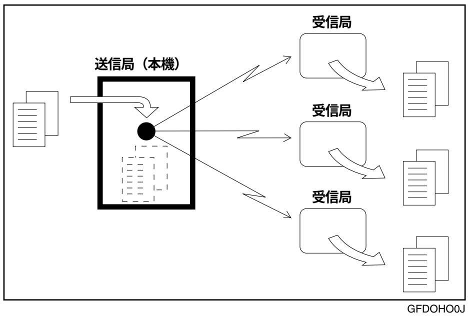


送信の種類

送信には、メモリー送信と直接送信の2つの種類があります。

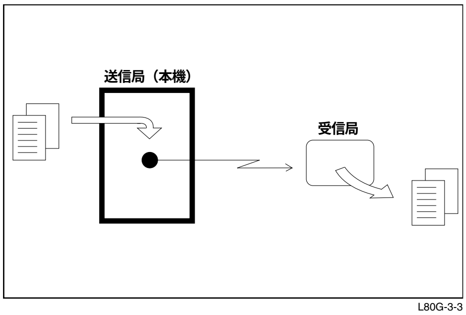
❖ **メモリー送信**

原稿を一度メモリーに蓄積してから自動的に送信を開始します。急いで原稿を持ち帰りたいとき便利です。同じ原稿を複数の相手先に送信（同報送信）することもできます。



❖ **直接送信**

すぐに相手先にダイヤルし、原稿を読み取りながら送信します。急いで送信したいときや、送信している相手先を確認したいときに便利です。原稿はメモリーに蓄積されません。指定できる宛先は1件です。

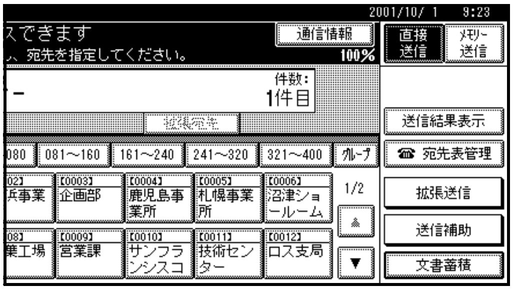


重要

- ❒ 電源スイッチが「Off」の状態が1時間以上続くと、メモリーに蓄積されている文書はすべて消去されます。消去された文書があると、電源スイッチを「On」にしたとき自動的に「電源断レポート」が印刷されます。このレポートで消去された文書を確認できます。⇒ファクス機能　応用編「第10章　電源断レポート」

メモリー送信と直接送信の切り替えかた

[直接送信] を選択してメモリー送信と直接送信を切り替えます。



補足

- ❒ 電源を入れた直後の送信モードを、メモリー送信にするか直接送信にするか「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「メモリー送信」に設定されています。⇒ファクス機能　応用編「第7章　基本設定/調整」
- ❒ 1通信分ごとに電源を入れた直後の状態に戻すかどうか「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「戻す」に設定されています。⇒ファクス機能　応用編「第7章　基本設定/調整」

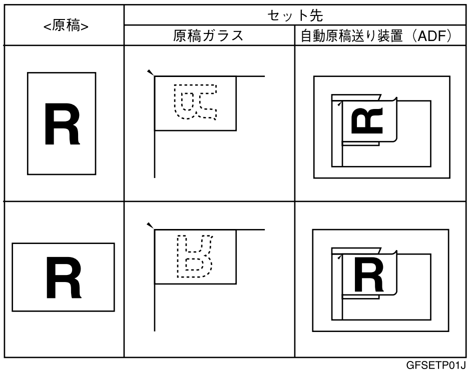
原稿をセットする

原稿ガラスまたは自動原稿送り装置（ADF）<オプション>に原稿をセットします。

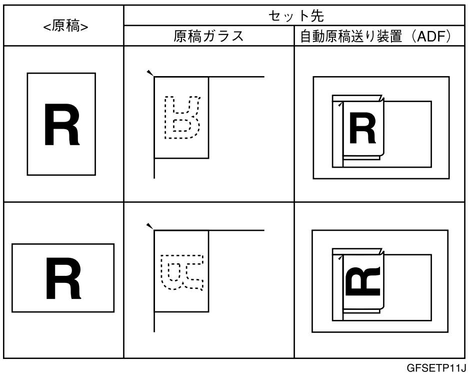
原稿の種類に合わせて正しくセットしてください。

ファクスのときは原稿サイズによってセット方向が異なります。次のようにセットしてください。

❖ A4、B4、A3サイズの原稿をセットするとき



❖ A5、B5サイズの原稿をセットするとき



制限

- ❒ A5サイズの原稿を原稿ガラスにセットすると、原稿サイズを検知できません。自動原稿送り装置（ADF）<オプション>にセットしてください。⇒ P.26「サイズを読み取りにくい原稿」

補足

- ❒ 送信する原稿と同じサイズで同じ方向の用紙が相手先にセットされていないときは、画像が縮小されたり、両端が欠けたり、2枚以上に分割して印刷されることがあります。重要な原稿を送信するときは、あらかじめ相手先にセットされている用紙のサイズと方向を確認することをお勧めします。
- ❒ 定形外の原稿を送信するときや、大きな原稿の一部だけを送信するときは、読み取りサイズを指定すると便利です。⇒ P.24「読み取りサイズを指定する」
- ❒ 不定形なサイズの原稿は、通常定形サイズとして読み取られるため、相手先で余白ができたり画像が切れることがあります。「読み取りサイズ」を指定すると、原稿のサイズにかかわらず指定した範囲内を読み取ります。
- ❒ 修正液やインクは完全に乾いてからセットしてください。乾かないまま原稿をセットすると原稿ガラスが汚れ、その汚れが送信されてしまいます。
- ❒ A4サイズの原稿を「A5、B5サイズの原稿をセットするとき」のようにセットすると、自動的に90°回転して送信します。⇒ファクス機能 応用編「第4章 送信の予備知識」
- ❒ 原稿の1ページ目から途中までを原稿ガラスで読み取り、そのあとのページを自動原稿送り装置（ADF）<オプション>で読み取ることができます。原稿交換時、残りのページを自動原稿送り装置（ADF）<オプション>にセットし、**【スタート】**キーを押します。

参照

両面原稿のセットについては「両面原稿送信」を参照してください。⇒ファクス機能 応用編「第4章 両面原稿送信」

原稿の取り扱いについては「原稿について」を参照してください。⇒ファクス機能　応用編「第11章　原稿について」

原稿ガラスへの原稿のセット

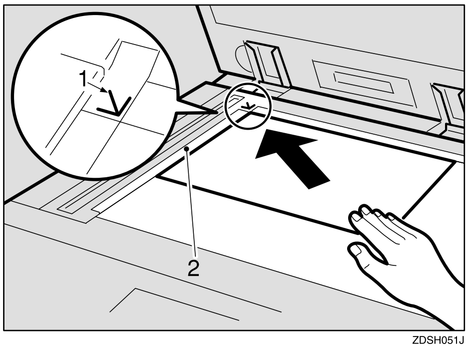
本などのように綴じてある原稿や自動原稿送り装置（ADF）<オプション>にセットできない原稿を、原稿ガラスにセットします。

1 自動原稿送り装置(ADF)<オプション>/原稿カバー <オプション>を上げます。

補足

- ❒ 自動原稿送り装置 (ADF)< オプション >/原稿カバー < オプション > の開閉で原稿サイズを検知しますので、30°以上の角度で確実に開けてください。

2 送信する面を下にし、左スケールに原稿を合わせます。



1. **セット標準**
2. **左スケール**

3 自動原稿送り装置(ADF)<オプション>/原稿カバー <オプション>を閉めます。

補足

- ❒ 本などの原稿をセットしたときは、相手先の受信紙に黒い影ができます。原稿が浮かないように押さえてください。

見開き原稿読み取り開始ページ設定

本、雑誌などの見開きの原稿を送信するとき「左側→右側の順に読み取る」か「右側→左側の順に読み取る」かを指定できます。⇒ファクス機能 応用編「第4章 見開き原稿指定」

補足

- ❒ 見開き原稿読み取り開始ページ設定は「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「右→左」が設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第8章 パラメーター設定」（スイッチ06 ビット6）

自動原稿送り装置（ADF）<オプション>への原稿のセット

複数枚の原稿を一度にまとめてセットできます。セットした原稿が1枚ずつ自動的に読み取られます。

制限

- ❒ 読み取れる原稿の長さは最大1200mmまでです。
- ❒ 原稿は一度にセットしてください。ファクスのときは、1枚ずつセットしたり、2回以上に分けてセットしたりすることはできません。
- ❒ 自動原稿送り装置（ADF）<オプション>を使用して原稿を読み取らせている間は、自動原稿送り装置（ADF）<オプション>を上げないでください。紙がつまり正しく送信できません。

補足

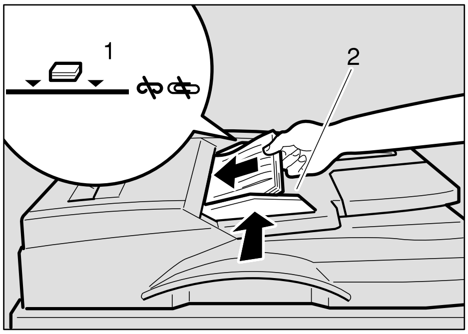
- ❒ 長さがA3（420mm）を超える原稿をセットするときは、「読み取りサイズ指定」で読み取り範囲を指定してください。長い原稿をセットすることが多いときは、「パラメーター設定」で長尺モードの設定を「使う」に設定してください。ただし、この設定を行うと原稿が途中でつまっても、原稿送りが中断されないため、大切な原稿を傷めることがあります。⇒P.24 「読み取りサイズを指定する」、ファクス機能 応用編「第8章 パラメーター設定」（スイッチ14 ビット1）
- ❒ 直接送信では、432mm以上の長さの原稿を送信できないことがあります。432mm以上の長さの原稿を送信するときは、メモリー送信を使って送信することをお勧めします。

- ❒ 折れ曲がっている原稿はできるだけ平らにのばしてセットしてください。
- ❒ 薄い原稿を送信するときは原稿ガラスにセットしてください。
- ❒ セットできる原稿サイズや枚数などは「原稿について」を参照してください。⇒ファクス機能 応用編「第11章 原稿について」

2

1 原稿ガイドを原稿サイズに合わせます。

2 送信する面を上にし、原稿をそろえてセットします。



1. **上限表示**

2. **原稿ガイド**

読み取りサイズを指定する

通常、セットされた原稿のサイズは、自動的に読み取られます。読み取りサイズを指定すると、指定したサイズで読み取られます。送信した文書に余分な余白を付けることなく送信することができます。

通常、自動原稿送り装置（ADF）<オプション>にセットされた原稿は、すべて同じサイズに読み取られます。「原稿サイズ混載」を使うと1枚ごとに原稿のサイズが読み取られます。

❖ 自動検知

セットされた原稿のサイズが自動的に読み取られます。

❖ 定形サイズ

セットされた原稿のサイズにかかわらず指定した定形サイズで読み取られます。
「定形サイズ」で指定できるサイズは、A4、B4、A3、LT、LG、DLTです。

❖ 登録サイズ

あらかじめ読み取るサイズを登録しておきます。セットされた原稿のサイズにかかわらず、登録されたサイズで読み取られます。⇒ファクス機能 応用編「第7章 読み取りサイズ」

❖ 原稿サイズ混載

自動原稿送り装置（ADF）<オプション>にセットされた原稿のサイズを1枚ごとに読み取らせるときに選択します。たとえばA4とB4の原稿を送信するときに、通常A4はB4で送信されます。「原稿サイズ混載」を選択するとそれぞれの原稿のサイズで読み取られます。

補足

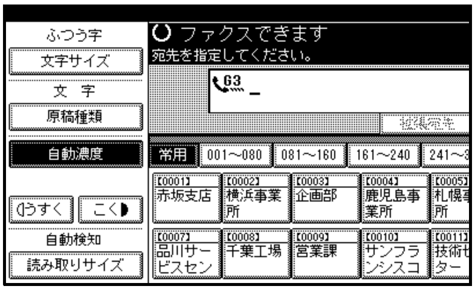
- ❒ 原稿サイズ混載機能を使用しているときは、メモリー送信で送信されます。
- ❒ 原稿サイズ混載機能を使用しているときは、回転送信は使用できません。⇒ファクス機能　応用編「第4章　送信の予備知識」

1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

補足

- ❒ 異なるサイズの原稿を一度に自動原稿送り装置（ADF）<オプション>にセットするときは、原稿ガイドを一番大きい原稿サイズに合わせます。
- ❒ 小さいサイズの原稿は、原稿ガイドを合わせることができないため、斜めに送信されることがあります。

2 ［読み取りサイズ］を押します。

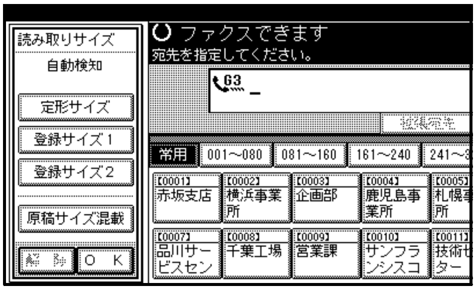


読み取りサイズのメニュー画面が表示されます。

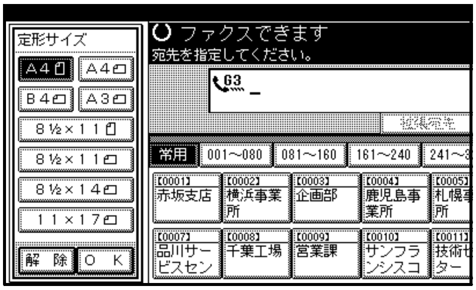
3 読み取りサイズを選択します。

「定形サイズ」を指定するとき

❶ ［定形サイズ］を押します。



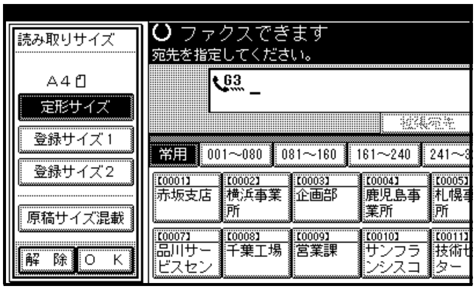
❷ 送信する原稿のサイズを押して選択します。



> **補足**
>
> ❒「定形サイズ」の指定を取り消すときは［解除］を押します。手順❶の画面に戻ります。
>
> ❒ $8^1/_2$×11はLT、$8^1/_2$×14はLG、11×17はDLTを表しています。

❸ ［OK］を押します。

選択したサイズが表示されます。

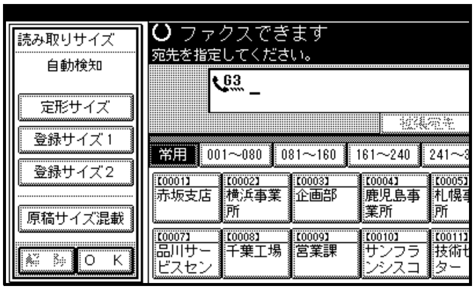


❹ ［OK］を押します。

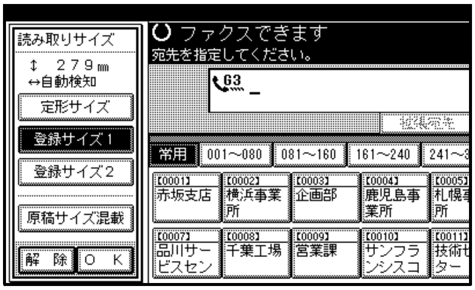
「読み取りサイズ」が黒く反転表示され、その上に指定したサイズが表示されます。

「登録サイズ」を指定するとき

❶ ［登録サイズ１］または［登録サイズ２］を押します。



登録されているサイズのタテとヨコの長さが表示されます。



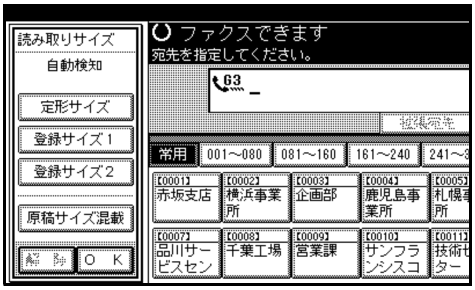
> **補足**
>
> ❒「登録サイズ」の指定を取り消すときは［解除］を押します。手順2の画面に戻ります。

❷ ［OK］を押します。

「読み取りサイズ」が黒く反転表示され、その上に「登録サイズ1」または「登録サイズ2」と表示されます。

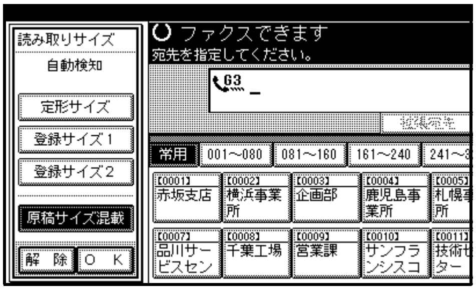
「原稿サイズ混載」を指定するとき

❶ ［原稿サイズ混載］を押します。



2

❷［OK］を押します。



「読み取りサイズ」が黒く反転表示され、その上に「原稿サイズ混載」と表示されます。

補足

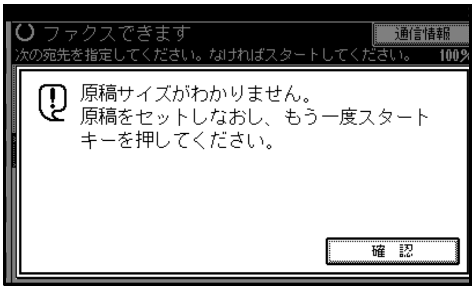
- ❒「原稿サイズ混載」の指定を取り消すときは［解除］を押します。手順2の画面に戻ります。

4 相手先を指定し、【スタート】キーを押します。

原稿サイズが検知されないとき

1 原稿サイズが検知されていないことを確認します。

画面にメッセージが表示されます。



2［確認］を押します。

3 原稿をセットし直します。

4【スタート】キーを押します。

原稿の読み取りが開始されます。

サイズを読み取りにくい原稿

次のような原稿はサイズを読み取りにくいため、相手先で正しいサイズの用紙が選択されないことがあります。

参照

⇒ P.26「原稿サイズが検知されないとき」

- A3□B4□A4□□B5□□以外の原稿（原稿ガラスにセットしたとき）
- 付せんやインデックスなど、はみ出た部分のある原稿
- OHPフィルムやトレーシングペーパー（第二原図用紙）のように透明な原稿
- 文字や絵柄部などが多く、全体に黒っぽい原稿
- 部分的に塗りつぶしてある原稿
- 周囲が塗りつぶされている原稿
- 表面がツルツルすべる原稿
- 本などの原稿を開いてセットし、厚さが10mm以上のとき

❖ 自動的に読み取れる原稿サイズ（ファクス機能使用時）

	国内で使われているサイズ					海外で使われているサイズ			
原稿サイズ／原稿セット先	A3 □	B4 □	A4 □□	B5 □□	A5 □□	11"×17" □(DLT)	8 1/2"×14" □ (LG)	8 1/2"×11" □□ (LT)	8 1/2"×5 1/2" □(HLT)
原稿ガラス	○	○	○	○	×	A3 □	A4□	A4 □□	×
自動原稿送り装置	○	○	○	○	○	A3 □	A4□	A4 □□	A5□

メモリー送信で送る

原稿を一度メモリーに蓄積してから自動的に送信を開始します。同じ原稿を複数の相手先に送信する（同報送信）ときに便利です。

重要

- ❒ 停電時や電源コンセントを抜いたときそのまま約1時間経過すると、ファクスのメモリーに蓄積されている文書はすべて消去されます。消去された文書があると、主電源スイッチを「On」にしたとき自動的に「電源断レポート」が印刷されます。このレポートで消去された文書を確認できます。電源を切っても文書は消去されません。⇒ファクス機能 応用編「第10章 電源断レポート」
- ❒ 大切な原稿を送信するときは、相手先に連絡して内容を確認することをお勧めします。

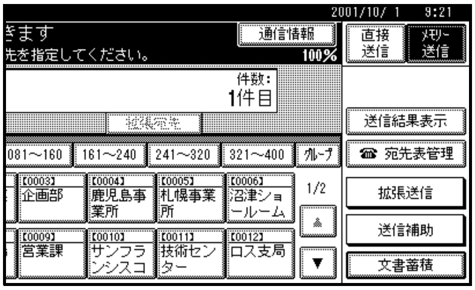
制限

- ❒ 画面に0%が表示されているときは、メモリー送信できません。直接送信で送信してください。

補足

- ❒ 1回の予約で指定できる相手先数は最大500件です。
- ❒ すべての予約で指定できる相手先数は最大500件です。FAX機能拡張キット（オプション）を付けているときは、最大2000件指定できます。
- ❒ テンキーで指定できる相手先数は本機の使用状況により異なります。最大で100件です。FAX機能拡張キット（オプション）を付けているときは、最大1000件指定できます。⇒P.40「テンキーで相手先を指定するときの制限事項」
- ❒ 電源を入れた直後やリセット（⇒P.10）されたときの送信モードを、メモリー送信にするか直接送信にするか「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「メモリー送信」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第7章 基本設定/調整」
- ❒ 1通信分の読み取りを終了するごとにリセットされた状態に戻すかどうか「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「戻す」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第7章 基本設定/調整」
- ❒ メモリーに蓄積できる原稿の枚数は、原稿の内容や読み取り条件によって異なります。標準原稿（ITU-TNo.1チャート、文字サイズ「ふつう字」、文字原稿）で約160枚です。FAXメモリー（オプション）装着時は約1000枚まで蓄積できます。FAXメモリー（オプション）とFAX機能拡張キット（オプション）を付けているときは、約2080枚まで蓄積できます。
- ❒ メモリー送信の予約数は最大400予約です。FAX機能拡張キット（オプション）装着時は最大800予約できます。

1 「メモリー送信」が選択されていることを確認します。



補足

- ❒ 選択されていないときは［メモリー送信］を押します。

2 原稿をセットします。

制限

- ❒ 1枚目の原稿を原稿ガラスにセットし、2枚目以降を自動原稿送り装置（ADF）<オプション > にセットするなど、原稿のセット先を原稿ガラスから自動原稿送り装置（ADF）<オプション>に変更するときは、原稿ガラスから原稿を取り除いて60秒以内にセットしてください。
- ❒ 自動原稿送り装置（ADF）<オプション>から原稿ガラスにセット先を変更することはできません。

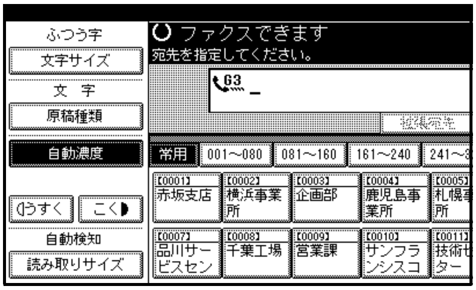
補足

- ❒ **【スタート】**キーを押すまでは、どの手順で原稿をセットしてもかまいません。

参照

「原稿をセットする」⇒P.22

3 読み取り条件を選択します。



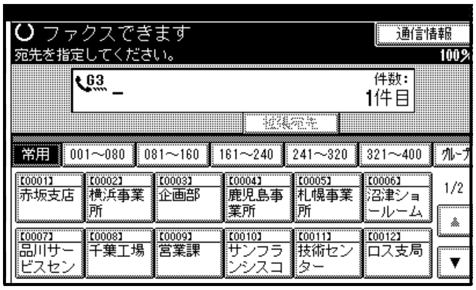
参照

「文字のサイズを選ぶ」⇒ P.35

「原稿種類を選ぶ」⇒ P.36

「濃度を調整する」⇒ P.37

4 相手先を指定します。



補足

- 間違えたときは［クリア］または**【クリア/ストップ】**キーを押して入力し直します。

参照

「直接番号を入力する」⇒ P.40

「宛先表を使う」⇒ P.42

「グループ宛先を使う」⇒ P.43

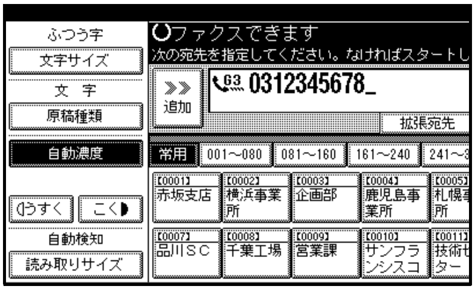
「第4章 チェーンダイヤルで指定する」⇒ファクス機能 応用編

「第4章 リダイヤルで指定する」⇒ファクス機能 応用編

5 複数の相手先に同じ原稿を送信するとき（同報送信）は、ここで［追加］を押します。

補足

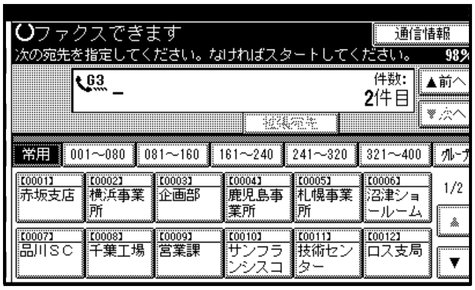
- 同報送信をしないときは、手順7に進みます。



補足

- 宛先表、グループ宛先で相手先を追加する場合は、［追加］を押さなくても相手先が追加されます。

6 相手先を指定します。



補足

- 別の相手先を指定するときは、手順5、6を繰り返します。

7 【スタート】キーを押します。

原稿の読み取りを始めます。

制限

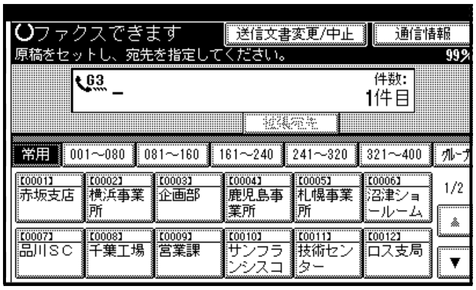
- ❒ 自動原稿送り装置（ADF）<オプション>を使用して原稿を読み取らせている間は、自動原稿送り装置（ADF）<オプション>を上げないでください。



ZFLS040J

相手先を呼び出します。

読み取りが終わると、待機中の画面に戻ります。



原稿ガラスで複数の原稿を送信するとき

次の手順で操作してください。

① 原稿をセットする

② 相手先を指定する

③ 読み取り条件を設定する

④ **【スタート】**キーを押す
原稿が読み取られます。

⑤ 読み取りが終了したら、60秒以内に次の原稿をセットする



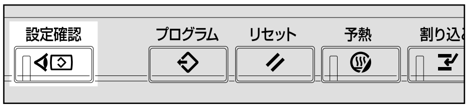
⑥ 1ページごとに手順③④⑤を繰り返す

⑦ 最後の原稿の読み取りが終了したら［#］を押す
相手先を呼び出し、送信を開始します。

設定した内容を確認する

それまでの操作で設定した相手先や拡張機能などの条件が画面で確認できます。

① **【設定確認】**キーを押し、設定内容を確認します。



ZFLS050J

次のような画面が表示されます。



② 確認し終わったら**【設定確認】**キーを押します。
【設定確認】キーを押す前の画面に戻ります。

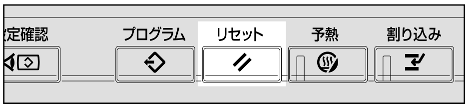
メモリー送信を取り消す

手順の段階によって方法が違います。

原稿の読み取り前のとき

【スタート】キーを押す前に取り消します。

1 【リセット】キーを押します。



ZFLS060J

補足

❒ 自動原稿送り装置（ADF）<オプション>に原稿をセットしているときは、セットした原稿を取り除いても送信を取り消すことができます。

原稿の読み取り中のとき

【スタート】キーを押したあとに取り消します。

1 【クリア/ストップ】キーを押します。

読み取りが終了します。読み取った原稿をすべて取り消し、送信されません。



ZFLS070J

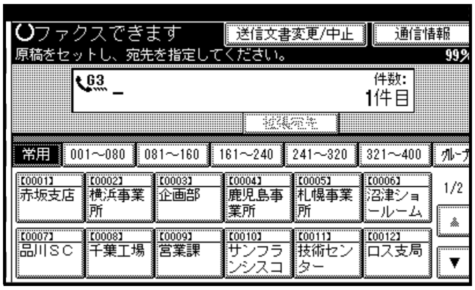
補足

❒［読み取り中止］を押して取り消すこともできます。

送信待機中のとき

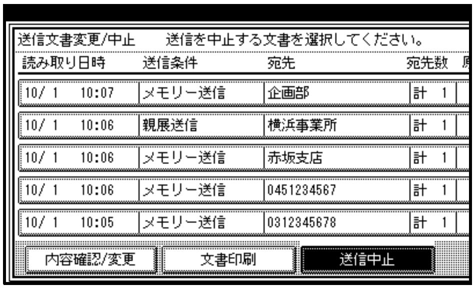
原稿の読み取りが終了したあとに取り消します。

1 ［送信文書変更/中止］を押します。



メモリーに蓄積されている、待機中または送信中の文書のリストが表示されます。

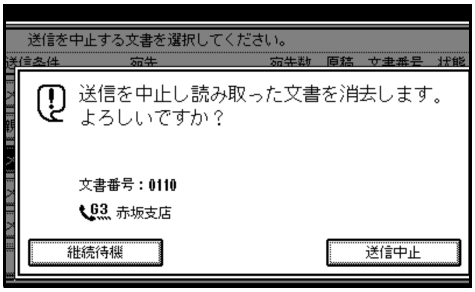
2 中止する送信文書を選択します。



補足

❒ 中止する文書が画面に表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

3 ［送信中止］を押します。



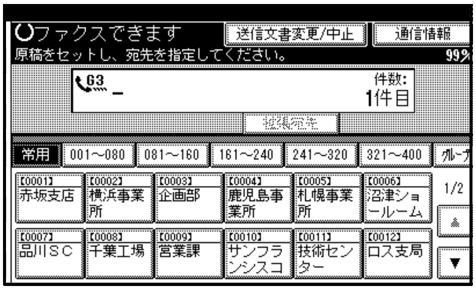
補足

❒ 続けて中止するときは、手順2から繰り返します。

4 ［閉じる］を押します。



待機中の画面に戻ります。



送信中のとき

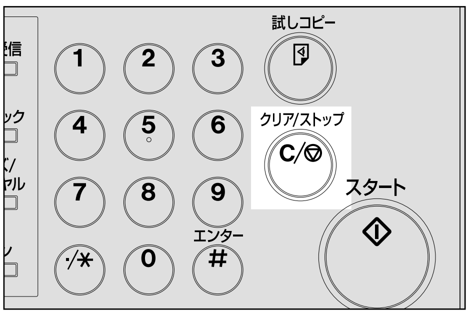
制限

- ❒ 送信を中止しても、すでに相手先に送信されているページは取り消せません。
- ❒ 取り消しの操作をしている間に送信が終了してしまい、中止できない場合もあります。

補足

- ❒ 文書が送信中のときに取り消しの操作をした場合は、操作を行ったあとすぐに通信を中断して取り消します。すでに送信が完了したページは取り消せません。

1 【クリア/ストップ】キーを押します。



ZFLS070J

補足

- ❒ ［送信文書変更/中止］を押しても、取り消すことができます。

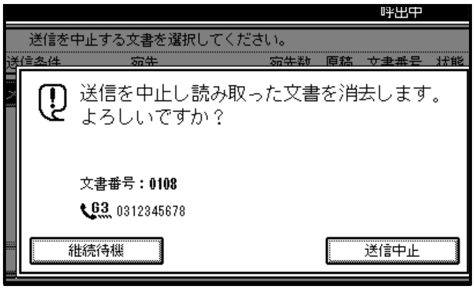
2 中止する送信文書を選択します。



補足

- ❒ 中止する文書が画面に表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

3 ［送信中止］を押します。



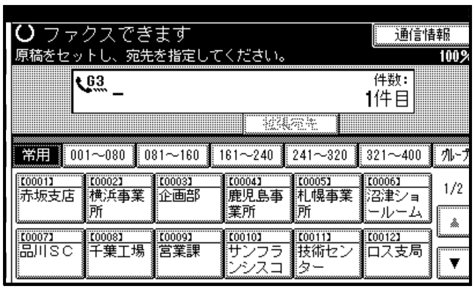
補足

- ❒ 続けて中止するときは、手順**2**から繰り返します。

4 ［閉じる］を押します。



待機中の画面に戻ります。



直接送信で送る

すぐに相手先にダイヤルし、原稿を読み取りながら送信します。送信している相手先を確認するときに便利です。

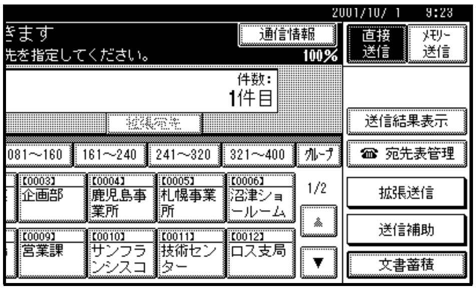
制限

- ❒ 原稿はメモリーに蓄積されません。指定できる相手先は1件です。

補足

- ❒ 電源を入れた直後やリセット（⇒ P.10）されたときの送信モードを、メモリー送信にするか直接送信にするか「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「メモリー送信」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第7章 基本設定/調整」
- ❒ 1通信分の読み取りを終了するごとにリセットされた状態に戻すかどうか「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「戻す」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第7章 基本設定/調整」

1 「直接送信」が選択されていることを確認します。



補足

- ❒ 選択されていないときは［直接送信］を押して選択します。

2 原稿をセットします。

制限

- ❒ 1枚目の原稿を原稿ガラスにセットし、2枚目以降を自動原稿送り装置（ADF）<オプション>にセットするときや、複数の原稿を原稿ガラスで送信するときは、原稿ガラスから原稿を取り除いて10秒以内に次の原稿をセットしてください。

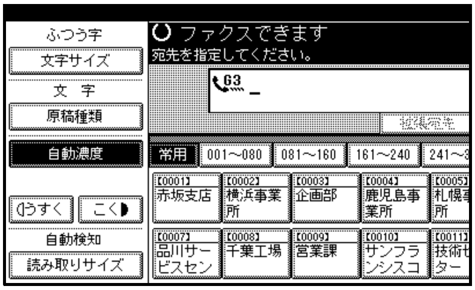
補足

- ❒ 複数ページの原稿を原稿ガラスで送信するときは、1ページごとに原稿を交換します。
- ❒ **【スタート】**キーを押すまでは、どこで原稿をセットしてもかまいません。

参照

「原稿をセットする」⇒ P.22

3 読み取り条件を選択します。



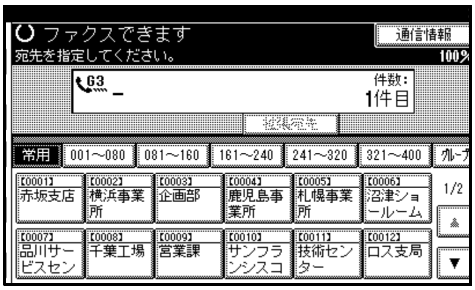
参照

「文字のサイズを選ぶ」⇒ P.35

「原稿種類を選ぶ」⇒ P.36

「濃度を調整する」⇒ P.37

4 相手先を指定します。



補足

- ❒ 間違えたときは［クリア］または**【クリア/ストップ】**キーを押して、入力し直します。

参照

「直接番号を入力する」⇒ P.40

「宛先表を使う」⇒ P.42

「第4章 チェーンダイヤルで指定する」⇒ファクス機能 応用編

「第4章 リダイヤルで指定する」⇒ファクス機能 応用編

5【スタート】キーを押します。

相手先を呼び出します。

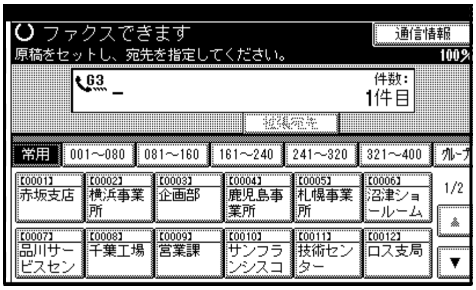
制限

❒ 自動原稿送り装置（ADF）<オプション>を使用して原稿を読み取らせている間は、自動原稿送り装置（ADF）<オプション>を上げないでください。



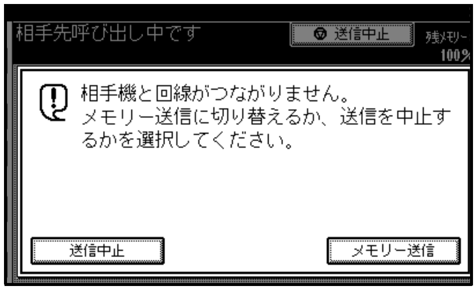
ZFLS040J

送信が終わると、待機中の画面に戻ります。



相手先とつながらなかったとき

① 相手先とつながらなかったことを確認します。画面にメッセージが表示されます。



② ［メモリー送信］または［送信中止］を押します。

補足

❒ ［メモリー送信］を押すと原稿の読み取りが始まり、蓄積終了後、メモリー送信します。

❒ ［送信中止］を押すと「送信を中止しました」と表示されます。

原稿ガラスで複数の原稿を送信するとき

次の手順で操作してください。

① 原稿をセットする

② 相手先を指定する

③ 読み取り条件を設定する

④ **【スタート】**キーを押す
相手先を呼び出し、送信を開始します。

⑤ 読み取りが終了したら、10秒以内に次の原稿をセットする



⑥ 1ページごとに手順③、④、⑤を繰り返す

⑦ 最後の原稿の読み取りが終了したら［#］を押す

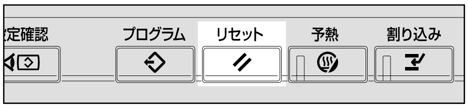
直接送信を取り消す

手順の段階によって方法が違います。

原稿の読み取り前のとき

【スタート】キーを押す前に取り消します。

1 【リセット】キーを押します。



ZFLS060J

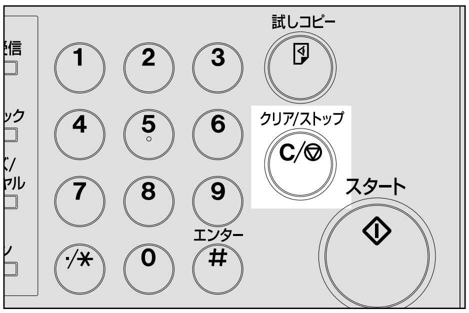
補足

- ❒ 自動原稿送り装置（ADF）<オプション>に原稿をセットしているときは、原稿を取り除いても送信を取り消すことができます。

原稿の読み取り中や送信中のとき

【スタート】キーを押したあとに取り消します。

1 【クリア/ストップ】キーを押し、原稿を取り除きます。



ZFLS070J

補足

- ❒ ［送信中止］を押して取り消すこともできます。
- ❒ 送信を中止しても、すでに送信されたページは取り消せません。

原稿をきれいに送るには

文字のサイズを選ぶ

［文字サイズ］を押して文字サイズの設定をふつう字、小さな字、微細字（オプション）に変えると、原稿を読み取る細かさ（線密度）が順に細かくなります。これは原稿を点の集まりと見なしたとき個々の点の大きさを小さくすることを意味し、点を小さくするほど精細に送信できます。しかし点を小さくするほど原稿全体の点の数は増えるため、送信時間は長くなります。時間がかかっても精細に送りたいものや多少粗くても早く送りたいものなど、原稿と用途に応じて選択します。

文字サイズの種類は次のとおりです。

❖ **ふつう字**

線密度は8×3.85本/mm、または200×100dpiです。
手書きなどふつうの大きさの字で書かれた原稿に適しています。

❖ **小さな字**

線密度は8×7.7本/mm、または200×200dpiです。
ワープロなど小さな字で書かれた原稿に適しています。ふつうの大きさの字でも、なるべくきれいに送信するときに選択します。

❖ **微細字（オプションのFAXメモリーが必要）**

線密度は16×15.4本/mm、または400×400dpiです。
新聞など細かい字で書かれた原稿に適しています。ふつうの大きさや小さな字でも、できるだけ精細に送信するときに選択します。

原稿の文字	相手先に届いたときの写り
あいうえお（目安となる大きさ「ふつう字」）	あいうえお（ふつう字）
	あいうえお（小さな字）
	あいうえお（微細字）
あいうえお（目安となる大きさ「小さな字」）	あいうえお（ふつう字）
	あいうえお（小さな字）
	あいうえお（微細字）
あいうえお（目安となる大きさ「微細字」）	あいうえお（ふつう字）
	あいうえお（小さな字）
	あいうえお（微細字）

制限

- ❒ 相手のファクスに同じ文字サイズの機能がないときは、相手先の機能に合わせて送信されます。本機の場合、送信できる文字サイズは「ふつう字」「小さな字」「微細字（オプション）」です。ただし、オプション装着時でも相手機によっては「細かい字（200×400dpi）」の送受信になります。実際に送信した文字サイズは、通信管理レポートで確認できます。
- ❒ 受信できる文字サイズは「ふつう字」「小さな字」「微細字（オプション）」です。

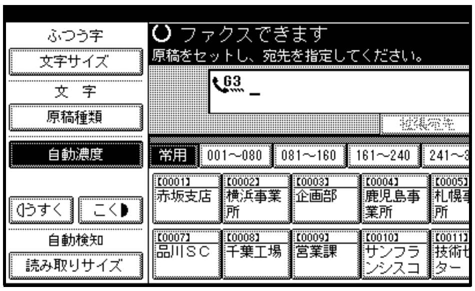
参照

ファクス機能 応用編「第3章 通信管理レポート印刷」

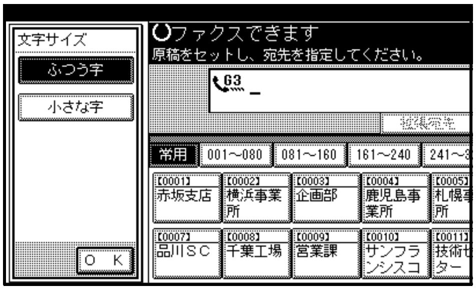
補足

- ❒ 電源を入れた直後やリセット（⇒ P.10）されたときの文字サイズを「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「ふつう字」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第7章 基本設定/調整」
- ❒ 1通信分の読み取りを終了するごとにリセットされた状態に戻すかどうか「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「戻す」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第7章 基本設定/調整」

1 **［文字サイズ］を押します。**



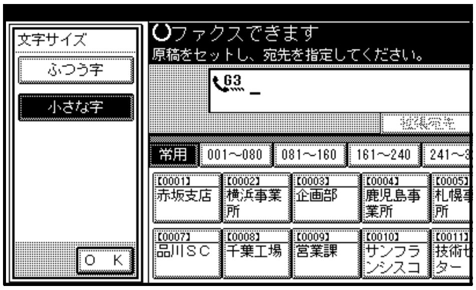
2 **設定する文字サイズのキーを押して選択します。**



補足

❒ オプションの FAX メモリーを装着しているときは、［微細字］が表示されます。

3 **［OK］を押します。**



原稿種類を選ぶ

文字原稿を送信するとき、写真やイラストなど濃淡のある画像やカラーの原稿を送信するときに、原稿の内容に合わせて選択します。原稿に適した画像処理方式で送信されます。

原稿の種類は次のとおりです。

❖ **文字**

文字のように黒白の濃度がはっきりしている画像のときに選択します。文字と写真が混在している原稿でも、文字の部分だけをきれいに送りたいときは「文字」を選択します。

❖ **文字・写真**

文字のように黒白の濃度がはっきりしている画像と、写真など濃淡のある画像とが混在しているときに選択します。

❖ **写真**

写真など濃淡のある画像やカラーの原稿のときに選択します。

補足

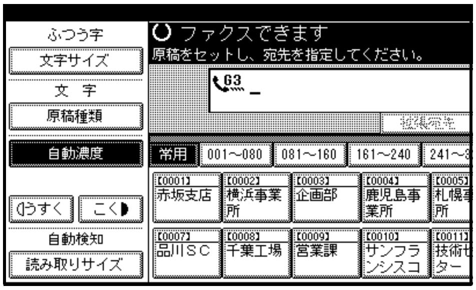
❒「文字・写真」または「写真」で送信すると、「文字」を選択しているときより送信時間が長くなります。

❒「文字・写真」または「写真」で送信すると、相手先の受信紙の地肌が汚れることがあります。そのときは、濃度を薄く設定して送信し直してください。

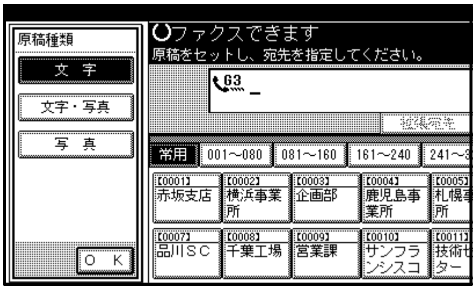
❒ 電源を入れた直後やリセット（⇒ P.10）されたときの原稿種類を「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「文字」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第7章 基本設定/調整」

❒ 1通信分の読み取りを終了するごとにリセットされた状態に戻すかどうか「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「戻す」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第7章 基本設定/調整」

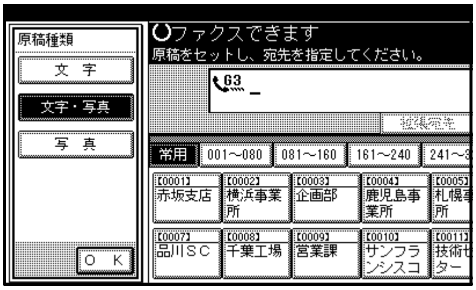
1 ［原稿種類］を押します。



2 設定する原稿種類のキーを押して選択します。



3 ［OK］を押します。



濃度を調整する

送信する原稿の種類に合わせて原稿を読み取る濃度を調整します。

濃度調整には次の種類があります。

❖ **自動濃度調整**
自動的に最適な濃度で読み取ることができます。

❖ **手動濃度調整**
原稿の文字が薄いときは濃くなるように、濃いときは薄くなるように手動で濃度を調整します。

❖ **組み合わせ濃度調整**
地肌が濃い原稿のとき、画像の濃度だけを調整します。

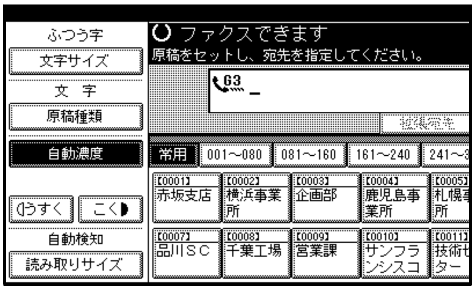
補足

- ❒ 電源を入れた直後やリセット（⇒ P.10）されたときに自動濃度を選択するかどうか「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「自動濃度」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第7章 基本設定/調整」
- ❒ 1通信分の読み取りを終了するごとにリセットされた状態に戻すかどうか「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「戻す」に設定されています。⇒ファクス機能　応用編「第7章 基本設定/調整」

1 **濃度調整の方法を選択します。**

自動濃度調整をするとき

❶ **「自動濃度」が選択されていることを確認します。**

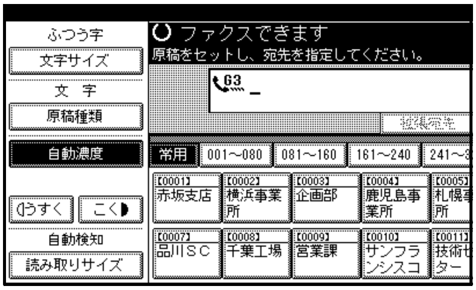


補足

- ❒ 選択されていないときは［自動濃度］を押します。

手動濃度調整をするとき

❶ **「自動濃度」が選択されているときは、［自動濃度］を押して選択を取り消します。**

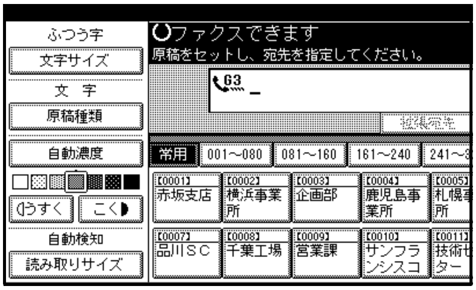


補足

- ❒「自動濃度」が選択されていないときは手順❷に進みます。

❷ **［うすく］または［こく］を押し、濃度を調整します。**

濃度表示「□」が移動します。

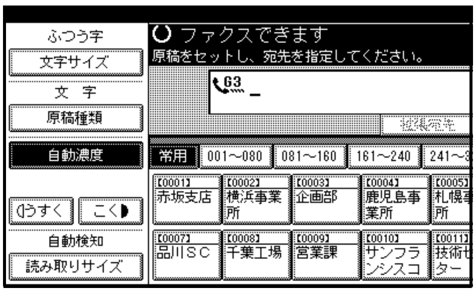


補足

- ❒ 濃度は7段階で設定できます。

組み合わせ濃度調整をするとき

❶ **「自動濃度」が選択されていることを確認します。**

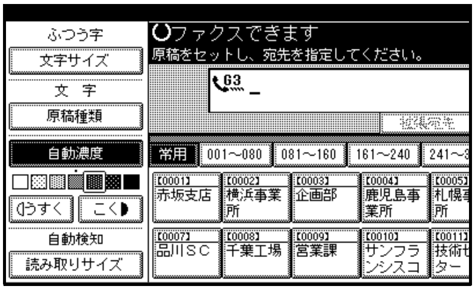


補足

- ❒ 選択されていないときは［自動濃度］を押します。

❷ **［うすく］または［こく］を押し、濃度を調整します。**

濃度表示「□」が移動します。



補足

- ❒ 濃度は7段階で設定できます。

読み取り条件を途中で変更する

ページごとに読み取り条件を設定できます。

補足

- ❒ 読み取り条件を途中で変更するときは、原稿ガラスにセットして送信することをお勧めします。

原稿ガラスにセットしているとき

制限

- ❒ 「ピッピッ」という音がしている間（メモリー送信時は約60秒、直接送信時は約10秒）に操作してください。画面に残り時間が表示されます。

1 **変更するページを確認します。**

2 **前のページの原稿を取り除き、次の原稿をセットします。**

3 **読み取り条件を選択します。**



補足

- ❒ 1ページ目は【**スタート**】キーを押す前に設定します。2 ページ目以降は次に【**スタート**】キーを押す前に設定します。

自動原稿送り装置（ADF）<オプション>にセットしているとき

1 **変更するページを確認します。**

2 **前のページが読み取られている間に、次のページの読み取り条件を設定します。**



相手先を指定する

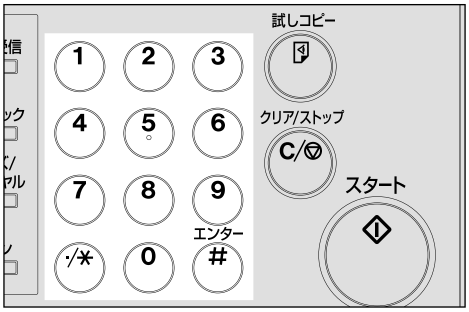
直接番号を入力する

相手先のファクス番号をテンキー（**【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【0】【＊】【#】**）で入力します。

補足

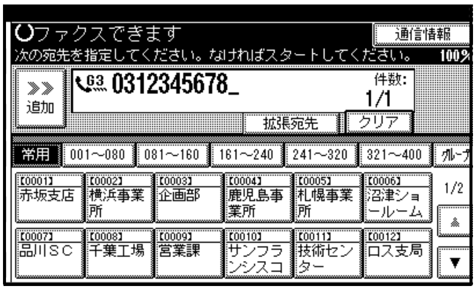
- ❒ 入力できる桁数は最大254桁です。
- ❒ ファクス番号の途中に、ポーズとトーンを入力することができます。⇒ P.41「ポーズを入力する」、P.41 「トーン信号に切り替える」
- ❒ G4ユニット（オプション）を装着しているときは、サブアドレスとUUIを入力することもできます。⇒ファクス機能 応用編「第4章 サブアドレス」、「第4章 UUI」

1 相手先のファクス番号をテンキーで入力します。



ZFLS080J

入力したファクス番号が表示されます。



補足

- ❒ 間違えたときは［クリア］または**【クリア/ストップ】**キーを押して1桁ずつ消去し、入力し直します。
- ❒ G4ユニット（オプション）、増設G3ユニット（オプション）を付けているときは、**【スタート】**キーを押す前にどの回線を使うか選択します。⇒ファクス機能 応用編「第4章 回線を選択する」

テンキーで相手先を指定するときの制限事項

テンキーで入力したファクス番号は本機内部のメモリー（原稿蓄積用とは別のメモリー）に記憶されますが、次のファクス番号は4種類のすべてを合計して100件までしか記憶できません（宛先表による指定は含まれません）。

- メモリー送信（親展送信とポーリング受信を含む）時に指定した相手先
- 中継依頼送信時に指定した中継局と受信局
- グループ登録時に指定した相手先と中継局
- プログラム登録時に指定した相手先

たとえば、グループの相手先が90件分テンキーで登録してあるとき、テンキーで指定できるメモリー送信の相手先は残り10件分となります。

補足

- ❒ 中継を依頼されたとき（本機が中継局になるとき）は自動的に2件分のファクス番号が記憶されます。したがって、テンキーで指定できる件数は中継を依頼されるたびに2件ずつ少なくなります。
- ❒ 記憶したファクス番号の合計が100件（オプションのFAX機能拡張キット装着時1000件）になると直接送信しかできなくなります。
- ❒ 送信待機中の文書があるときにテンキーで宛先を登録すると、「これ以上のテンキー指定はできません」と表示され、登録できないことがあります。これは送信待機中の文書の中に、テンキーでファクス番号を指定した文書があるためです。送信が終わり記憶していたファクス番号が消去されると、登録できるようになります。
- ❒ 画面には原稿を蓄積しておくメモリーの残量が表示されます。ファクス番号は別のメモリーに記憶されるため、画面のメモリー残量は変わりません。

ポーズを入力する

構内交換機を経由して外線にダイヤルするとき0などの番号を先にダイヤルしますが、0発信したあと外線につながるまで多少時間がかかることがあります。このようなときは 0 のあとに**【ポーズ/リダイヤル】**キーを押してポーズを入力します。

ポーズを入力すると、入力した個所に約2秒間の待ち時間を入れてダイヤルします。



ZFLS090J

制限

- ❒ 1桁目には入力できません。

補足

- ❒ ポーズを入力した個所は「-」と表示されます。

トーン信号に切り替える

ダイヤル回線でプッシュ回線のサービスを受けるときなど、プッシュ信号を送出する場合に使います。

制限

- ❒ 1桁目には入力できません。
- ❒ トーンを使ってプッシュ信号を送出しても、利用できないサービスもあります。

補足

- ❒ ファクス情報サービスなどから文書を受信するときは、「ファクス情報サービスを利用する」⇒ P.81をご覧ください。
- ❒ トーンを入力した個所は「・」と表示され、それ以降の番号がプッシュ信号となります。

❖ オンフックダイヤルでトーンを使うとき

① **【オンフック】**キーを押します。



ZFLS120J

② 相手先のファクス番号をテンキーで入力します。

③ **【トーン】**キーを押します。



ZFLS100J

④ サービスを受けるための暗証番号などをテンキーで入力します。

❖ ISDNにトーンを送出するとき

本機にISDNだけしか接続されていないときでも、G3の相手先にトーン（プッシュ信号）を送出することができます。

補足

- ❒ メモリー送信または直接送信のときに使えます。マニュアルダイヤルではISDNにダイヤルできません。オンフックダイヤルでISDNにダイヤルするときは、サービス実施店にお問い合わせください。
- ❒ G4（オプション）を選択したとき、トーンの表示「・」以降はUUIとなります。
- ❒ ISDNでG3を選択したとき、トーンの表示「・」以降をトーンにするかUUIにするか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「トーン（PB）」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第8章 パラメーター設定」（スイッチ11 ビット1）

宛先表を使う

相手先を登録してある宛先キーを押すだけで相手先を指定できます。

相手先の名称は、押すことによって登録した相手先を指定できる宛先キーになっています。

操作の前に

宛先表に相手先のファクス番号を登録しておきます。⇒ P.53「宛先表に登録する」

補足

- ❒ 宛先キーの上にある見出しキーを押すと、それぞれの見出しに登録してある宛先キーが表示されます。
- ❒ 登録した内容は、宛先リストで確認できます。⇒ファクス機能 応用編「第7章 宛先リスト」
- ❒ 登録した名称を相手先の用紙の1ページ目に印字できます。⇒ファクス機能 応用編「第4章 宛名差し込み」

1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 相手先が登録してある見出しキーを押します。

例:「か」の見出しに登録した「鹿児島事業所」を指定するときは［か］を押します。



補足

- ❒ 宛先表には［見出し1］［見出し2］［見出し3］の3つの見出しがあります（上の画面は［見出し1］が表示されています）。
- ❒ 見出しを切り替えるときは［宛先表管理］を使います。⇒ファクス機能 応用編「第7章　見出し」

3 送信する相手先の宛先キーを押します。



相手先が確定し、宛先キーが選択されます。

補足

- ❒ 送信する相手先が表示されていないときは、［▲］または［▼］を押して探します。
- ❒ 指定を取り消すときは、選択されている宛先キーをもう一度押します。［クリア］または**【クリア/ストップ】**キーを押して指定し直すこともできます。
- ❒ 次の相手先を指定するときは、手順**2**、**3**を繰り返します。

4 【スタート】キーを押します。

表示切り替え

画面に表示される宛先表とテンキーを切り替えます。

① ［宛先表管理］を押します。

② ［表示切り替え］を押します。

③ ［宛先表表示］または［テンキー表示］を押します。

補足

- ❒「宛先表表示」を選択したときは宛先表が表示されます。
- ❒「テンキー表示」を選択したときはテンキーが表示されます。

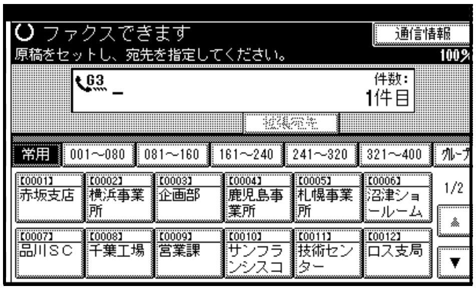
④ ［設定］を押します。
［表示切り替え］の上に選択した項目が表示されます。

補足

- ❒ 表示切り替えを取り消すときは［取消］を押して、手順②の画面に戻ります。

⑤ ［閉じる］を押します。

「宛先表表示」を選択したとき



「テンキー表示」を選択したとき



グループ宛先を使う

複数の相手先をまとめて1つのグループとして登録すると、複数の相手先を簡単に指定できます。グループ宛先には、相手先とグループ名称が登録できます。

操作の前に

グループを登録しておきます。⇒ P.61 「グループ宛先を登録する」

制限

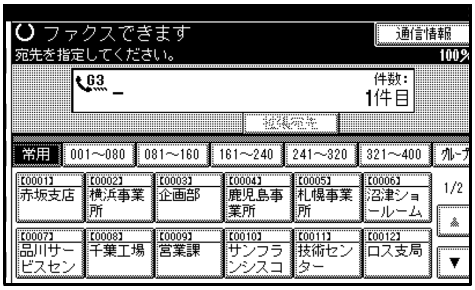
- ❒ 直接送信では使用できません。メモリー送信に自動的に切り替わります。

補足

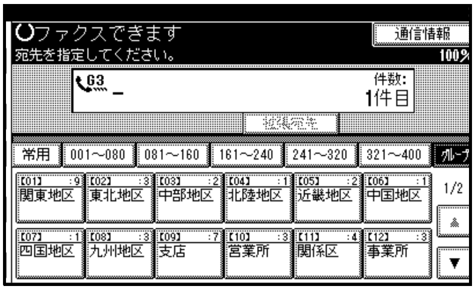
- ❒ 登録した内容は、グループリストで確認できます。⇒ファクス機能 応用編「第7章 グループリスト」
- ❒ 複数グループに登録してある相手先が、合計で500件を超えるときは指定できません。

1 原稿をセットし、読み取り条件を設定します。

2 [グループ] を押します。



3 グループを登録してあるグループキーを押します。



登録されている相手先と件数が表示されます。



補足

- ❒ 間違えたときは、指定したグループキーを押して指定し直します。
- ❒ グループに含まれる特定の相手先だけ送信をキャンセルするときは、[▲前へ] または [▼次へ] を押して送信をキャンセルしたい相手先を表示させ、[クリア] または**【クリア/ストップ】**キーを押します。
- ❒ 次のグループを指定するときは、手順**3**を繰り返します。

4 【スタート】キーを押します。

2

受信の種類

受信モードには「自動切り替え」、「手動受信」、および「自動受信」の3つがあります。

補足

- ❒「自動切り替え」および「手動受信」は、ハンドセット（オプション）または外付け電話器が付いているときに使用できます。

❖ 自動切り替え

電話がかかってくる相手先に合わせて自動的に電話とファクスを切り替えます。自動切替には「電話優先モード」と「ファクス優先モード」があります。また、ダイヤルイン機能を使って自動切り替えすることもできます。

参照

ファクス機能 応用編「第5章 受信モードについて」

❖ 手動受信

電話がかかってくるとベルを鳴らします。相手がファクスのときは手動でファクスに切り替えます。

❖ 自動受信

電話がかかってくるとファクスとして自動的に受信します。相手が電話のときは手動で電話に切り替えます。

- 受信モードは次の表を参考に設定してください。

使用状況	受信モード
電話がかかってくることがほとんど	手動受信または自動切り替え（電話優先モード）
どちらかといえば電話の方が多い	自動切り替え（電話優先モード）
電話もファクスも同じくらい	自動切り替え（電話優先モード）または自動切り替え（ファクス優先モード）
どちらかといえばファクスが多い	自動切り替え（ファクス優先モード）
ファクスを受信することがほとんど	自動受信または自動切り替え（ファクス優先モード）
留守番電話を接続する	自動切り替え（電話優先モード）

制限

- ❒ 増設G3ユニット（オプション）を装着しているとき、増設された回線（G3-2）は自動受信のみ使用できます。
- ❒ 本機を電話として使用するには、オプションのハンドセットが必要です。
- ❒ ISDN 回線では受信モードの選択はできません。
- ❒ NTTとナンバー・ディスプレイの契約をしていると、自動受信またはファクス優先モードでは、ファクスを受信できません。手動受信または電話優先モードに設定すると、ファクスの受信はできますが、ナンバー・ディスプレイは利用できません。

❖ 受信モードの切り替えかた

受信モードは「受信設定」で切り替えます。工場出荷時は、「自動受信」に設定されています。

参照

ファクス機能 応用編「第7章 受信設定」

こちらの名称とファクス番号を登録する

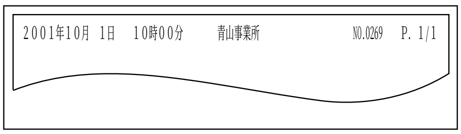
送信、受信のときにこちら側の情報を相手先に伝えることができます。伝えられた情報は、相手先の画面に表示されたり、レポートに印字されたりします。伝えられる情報は、次のとおりです。

❖ 発信元名称（印字用）

送信のときに相手先の用紙に印字される情報です。通常はこちら側の名称を登録しておきます。

発信元名称（印字用）は、第1印字用名称と第2印字用名称を登録することができます。例えば、第1印字用名称には漢字で名称を登録し、第2印字用名称にはアルファベットで名称を登録して、第2名称は海外通信のときに使い分けると便利です。

- 登録できる文字は漢字、カタカナ、アルファベット、記号、数字です。
- 登録できる文字数は全角で最大32文字、半角で最大32文字です。全角と半角は混在できません。



GFTTII0J

補足

❒ 通常発信元名称（印字用）を印字するかどうか「基本設定/調整」で設定できます。基本設定をよく使う設定にしておき、設定を変えたいときだけ発信元名称印字の機能を使って変更すると便利です。

参照

ファクス機能 応用編「第7章 基本設定/調整」

ファクス機能 応用編「第4章 発信元名称印字」

❖ 発信元名称（表示用）

G3を使った送信と受信のときに相手先に伝える情報です。

通常はこちら側の名称を登録しておきます。伝えられた情報は相手先の画面に表示されたり、レポートに印字されたりします。

- 登録できる文字はカタカナ（半角）、アルファベット、記号、数字です。
- 登録できる文字数は半角で最大20文字です。

制限

❒ 相手先も発信元名称（表示用）を登録できる当社のファクスでないと機能しません。

❖ 発信元ファクス番号

G3回線を使った送信と受信のときに相手先に伝える情報です。

伝えられた情報は相手先のディスプレイに表示されたり、レポートに印字されたりします。相手先が当社のファクスでない場合も機能します。

- 登録できる文字は数字、記号（スペース、＋）です。
- 登録できる文字数は半角で最大20文字です。
- 発信元ファクス情報は一般的に「日本の国番号81」、「0を除いた市外局番」、「ファクス番号」の順で登録します。

例：ファクス番号が 03（1234）5678のときの登録

81	3	12345678
日本の国番号	0を除いた市外局番	ファクス番号

❖ G4発信元情報

この機能を利用するためにはG4ユニット（オプション）が必要です。

G4発信元情報は、ISDN回線を接続しているときに利用できます。G4（オプション）でISDNを使った発信のときに相手先の用紙に印字される情報です。

- 登録できる文字はカタカナ（半角）、アルファベット、数字、記号です。
- 登録できる文字数は、国番号、ファクス番号、および端末略称の文字数を合計して最大22文字です。
- G4発信元情報は一般的に「日本の国番号81」、「0を除いた市外局番」、「電話番号」、「端末略称」の順で登録します。端末略称は通常こちら側の名称を登録しておきます。

例：ファクス番号が 03（1234）5678で、
端末略称を「TOKYO」にするときの登録

81	312345678	TOKYO
日本の国番号	ファクス番号	端末略称

重要

❒ 登録した内容はパラメーター設定リストで確認できます。登録・変更したときは、パラメーター設定リストを印刷し、保管しておくことをお勧めします。

参照

ファクス機能 応用編「第8章 パラメーター設定リスト印刷」

登録する

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



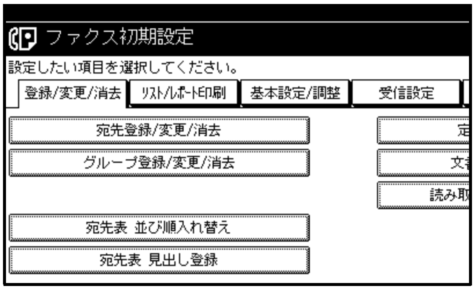
ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

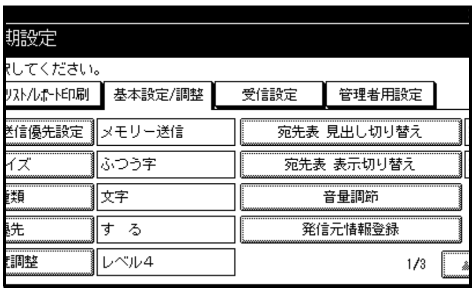


ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［基本設定/調整］を押します。



4 ［発信元情報登録］を押します。



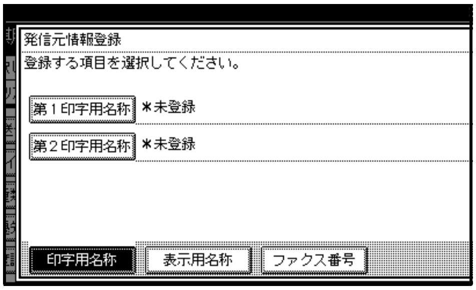
補足

❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させせます。

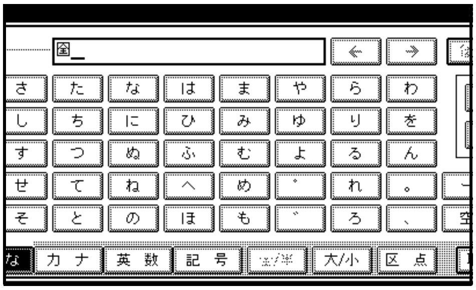
5 **名称とファクス番号を登録します。**

発信元名称（印字用）を登録するとき

❶ ［第1印字用名称］または［第2印字用名称］を押します。



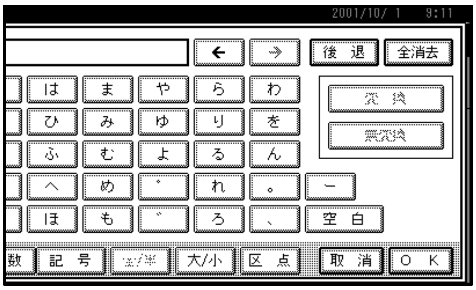
❷ 発信元名称（印字用）を入力します。



参照

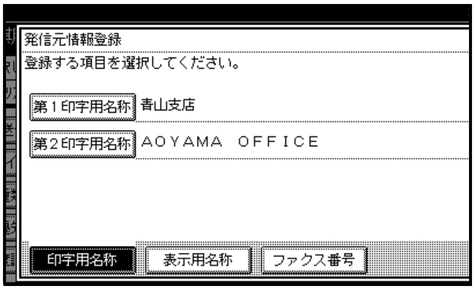
「文字の入力のしかた」⇒ P.70

❸ ［OK］を押します。

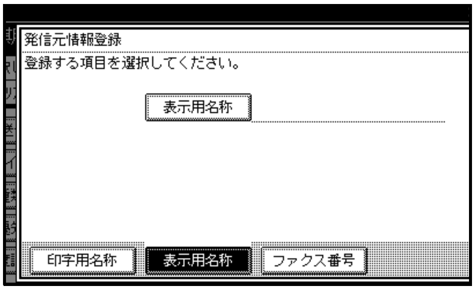


発信元名称（表示用）を登録するとき

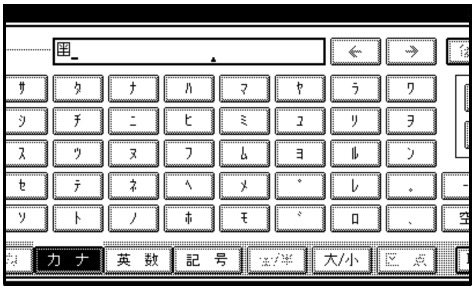
❶ ［表示用名称］を押します。



❷ ［表示用名称］を押します。



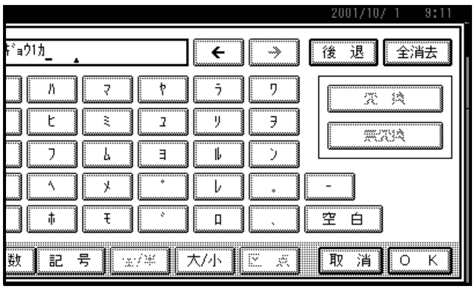
❸ 発信元名称（表示用）を入力します。



参照

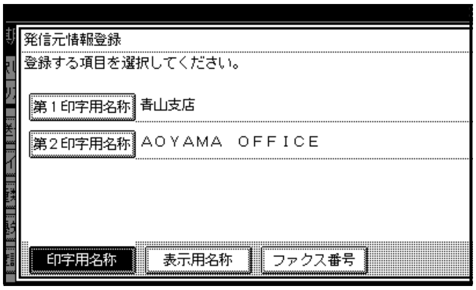
「文字の入力のしかた」⇒ P.70

❹ ［OK］を押します。



発信元ファクス番号を登録するとき

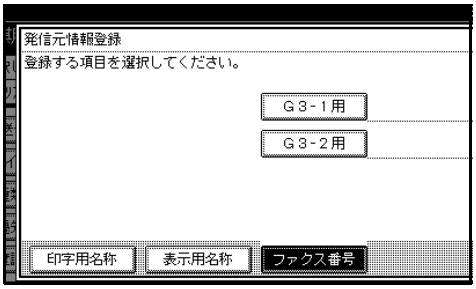
❶［ファクス番号］を押します。



❷ファクス番号を登録する回線を押します。



増設G3ユニット（オプション）を装着しているとき



G4ユニット（オプション）を装着しているとき



❸発信元ファクス番号をテンキーで入力します。



補足

- ❒「＋」とスペースを入力するときは、それぞれ［＋］、［スペース］を押します。
- ❒ 間違えたときは、［クリア］または**【クリア/ストップ】**キーを押して指定し直します。

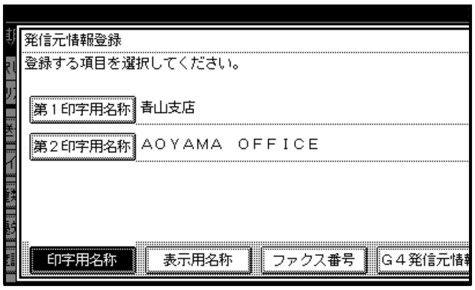
❹［設定］を押します。

G4発信元情報を登録するとき

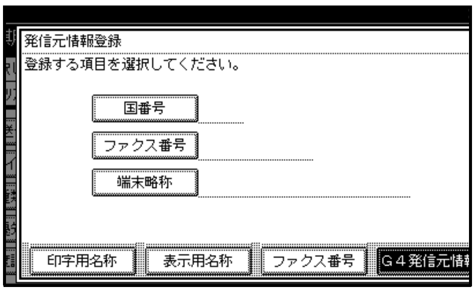
補足

- ❒ G4ユニット（オプション）を装着したときに表示されます。

❶［G4発信元情報］を押します。



❷［国番号］を押します。

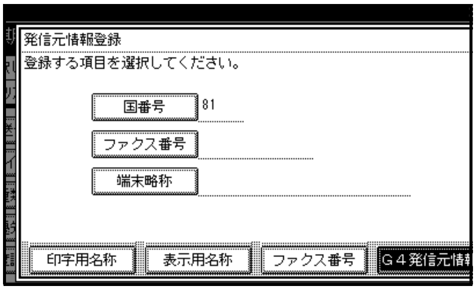


❸ **テンキーで【8】【1】を入力します。**



❹ **［設定］を押します。**

❺ **［国番号］の下の［ファクス番号］を押します。**

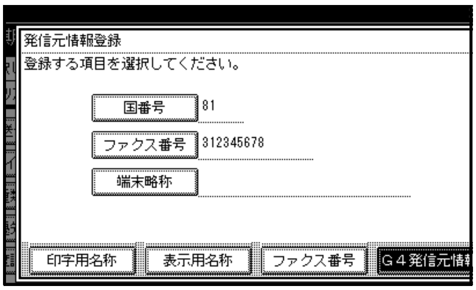


❻ **ファクス番号をテンキーで入力します。**



❼ **［設定］を押します。**

❽ **［端末略称］を押します。**



❾ **端末略称を入力します。**



🔎 **参照**

「文字の入力のしかた」⇒ P.70

❿ **［OK］を押します。**

6 **［閉じる］を押します。**

7 **【初期設定/カウンター】キーを押します。**

ファクス初期画面に戻ります。

変更する

補足

❒ 画面は発信元名称（表示用）を例にしています。

1 **【初期設定/カウンター】キーを押します。**



ZFLS110J

2 **［ファクス初期設定］を押します。**

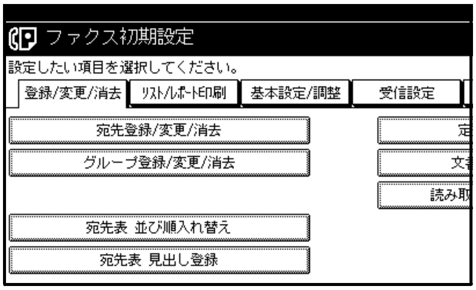


ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

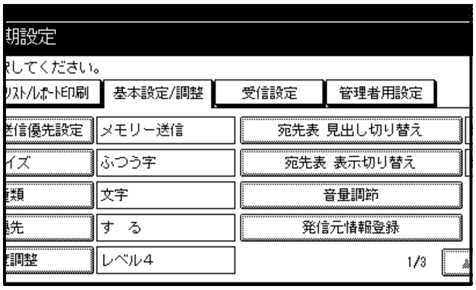
3

3

3 ［基本設定/調整］を押します。



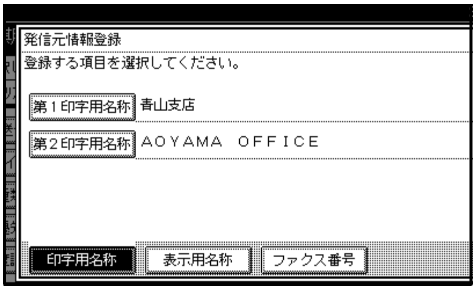
4 ［発信元情報登録］を押します。



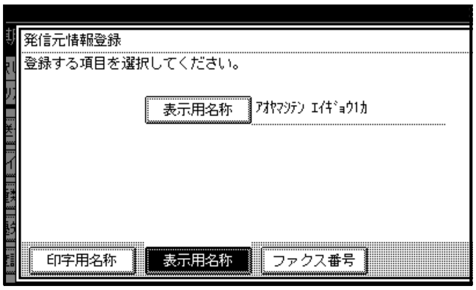
補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

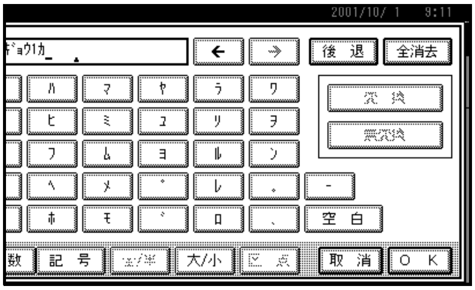
5 変更する名称またはファクス番号のキーを押します。



6 変更する項目のキーを押します。



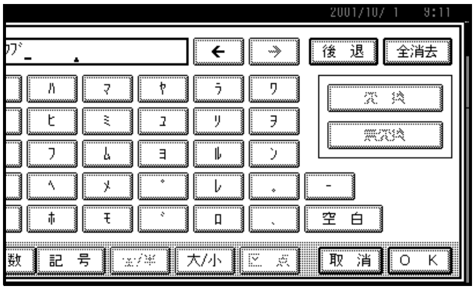
7 ［後退］または［全消去］を押して、名称、番号を入力し直します。



補足

- ❒ 発信元ファクス番号および G4 発信元情報の国番号とファクス番号のときは、［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。

8 ［OK］を押します。



9 ［閉じる］を押します。



10 【初期設定/カウンター】キーを押します。

ファクス初期画面に戻ります。

消去する

補足

- ❒ 画面は発信元名称(表示用)を例にしています。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



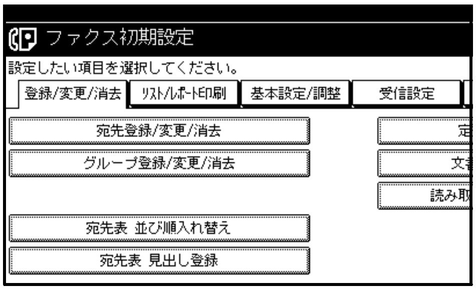
ZFLS110J

2 [ファクス初期設定] を押します。

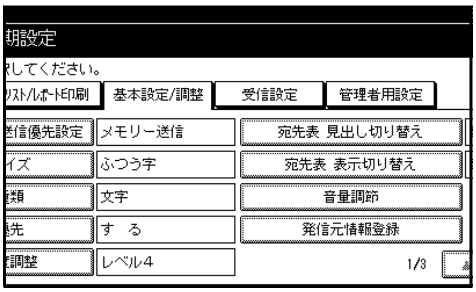


ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 [基本設定/調整] を押します。



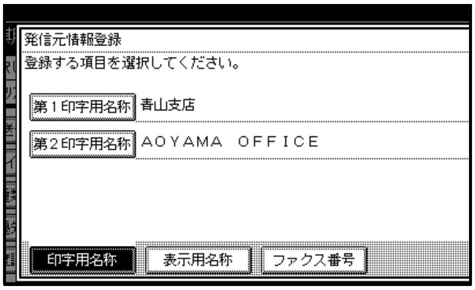
4 [発信元情報登録] を押します。



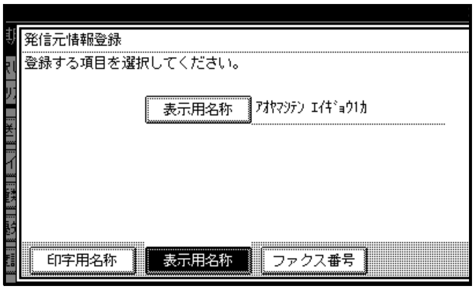
補足

- ❒ 表示されていないときは[▲前へ]または[▼次へ] を押して表示させせます。

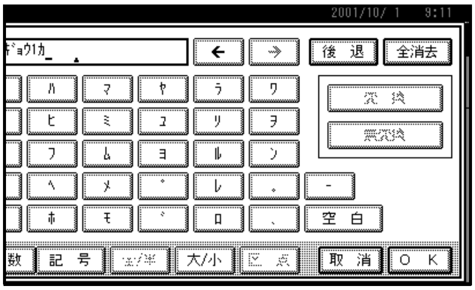
5 消去する名称またはファクス番号を押します。



6 消去する項目のキーを押します。



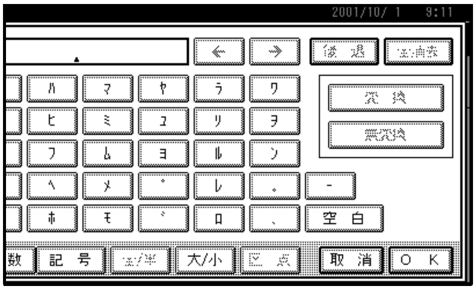
7 [後退] または [全消去] を押します。



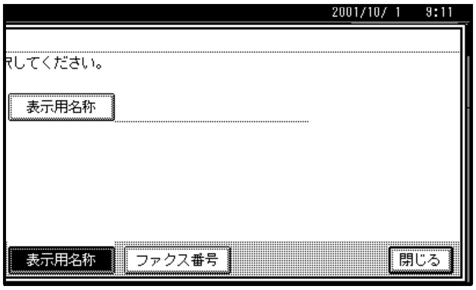
補足

- ❒ 発信元ファクス番号および G4 発信元情報の国番号とファクス番号のときは、[クリア] または**【クリア/ストップ】**キーを押します。

8 [OK] を押します。



9 [閉じる] を押します。



10 **【初期設定/カウンター】キーを押します。**

ファクス初期画面に戻ります。

宛先表に登録する

相手先を宛先表に登録すると、宛先キーを押すだけで相手先を指定できます。

宛先表への登録/変更/消去は、「ファクス初期設定」の「登録/変更/消去」からもできます。

宛先表に登録できる内容は次のとおりです。

❖ ファクス番号

相手先のファクス番号を登録します。最大254桁まで登録できます。登録の省略はできません。
G4ユニット（オプション）または増設G3ユニット（オプション）を装着しているときは、宛先ごとに使用する回線を選択できます。
またFコード（SEP、SUB、PWD、SID<各最大20桁>）、サブアドレス（G4ユニット<オプション>が必要）、UUI、トーン も設定できます。⇒ P.41 「トーン信号に切り替える」、ファクス機能　応用編「第4章　拡張宛先を使う」

❖ 宛先名

相手先の名称を登録します。全角では最大10文字、半角では最大20 文字まで登録できます。登録の省略はできません。

❖ キー表示名

キー表示名を設定すると画面に表示される名称を登録できます。全角で最大8文字、半角で最大16文字まで登録できます。キー表示名を登録しないと、宛先名として登録した名称（全角で前8文字分、半角で前16文字分）が自動的に登録されます。

❖ 見出し選択

見出し選択を設定すると登録した相手先を表示させる見出しを選択できます。選択しないときは「宛先一覧」以外では表示されません。

❖ 発信元名称選択

登録した相手先に送信したときに、相手先の受信紙に印字させる発信元名称（印字用）を選択できます。工場出荷時は「第1印字用名称」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第4章 発信元名称印字」

❖ 宛名差し込み

宛名差し込みを「ON（使用する）」に設定すると、登録した「宛先名」の後に「様」を付けて相手先の受信紙の先頭行に印字します。また、「宛先名」の次の行から2行にわたって定型文を印刷することができます。

補足

- ❒ 工場出荷時に本機に登録されていない定型文を印字させるときは、あらかじめ定型文を登録しておきます。

参照

ファクス機能 応用編「第7章 定型文」

❖ 海外送信モード

海外送信モードを「ON（使用する）」に設定すると、通信速度を遅くしてより確実に送信します。ただし、送信時間は長くなります。

重要

- ❒ 登録・変更したときは、「宛先リスト」を印刷し、保管しておくことをお勧めします。

参照

ファクス機能 応用編「第7章 宛先リスト」

登録する

相手先を宛先表に登録すると、宛先キーを押すだけで相手先を指定できます。

補足

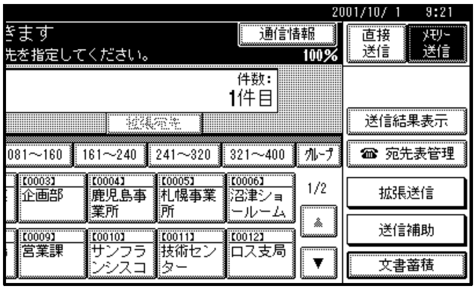
- ❒ 登録できる相手先数は最大400件です。FAX拡張キット（オプション）を装着しているときは、最大1200件登録できます。
- ❒ 相手先のファクス番号は登録状況や F コード、スペース、サブアドレスの設定により254桁まで登録できないことがあります。

3

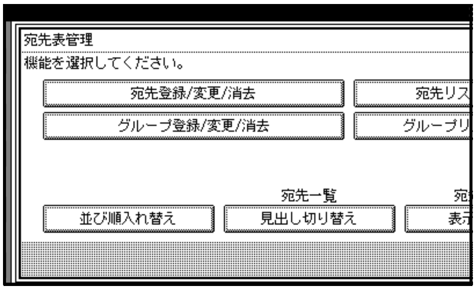
参照

ファクス機能 応用編「第7章 登録/変更/消去」

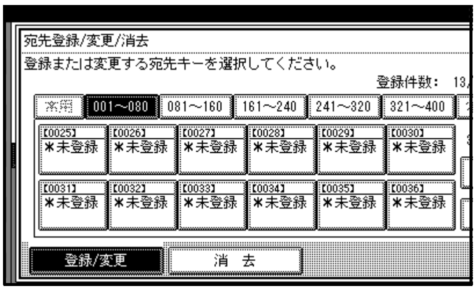
1 **［宛先表管理］を押します。**



2 **［宛先登録/変更/消去］を押します。**



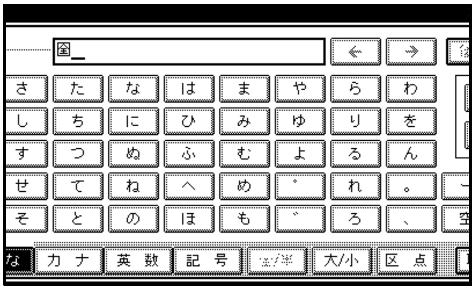
3 **登録する宛先キーを押します。**



補足

- ❒ 登録されていない宛先キーは「＊未登録」と表示されます。
- ❒ 登録されていない宛先キーが見つからないときは、［▲］または［▼］を押して探します。
- ❒ ［見出し切り替え］を押すと、違う見出しを表示させることができます。

4 **相手先の名称を入力します。**



補足

- ❒ 相手先の名称の登録は省略できません。必ず登録してください。

参照

「文字の入力のしかた」⇒ P.70

5 **［OK］を押します。**

名称が登録されます。

6 **登録するファクス番号をテンキーまたは［1］［2］［3］［4］［5］［6］［7］［8］［9］［0］［#］［＊］を押して入力します。**

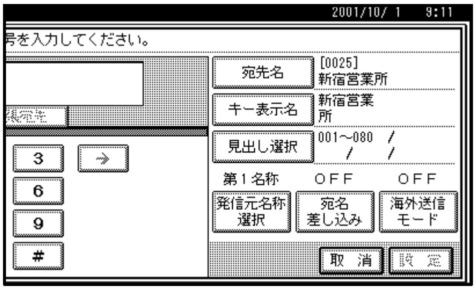


補足

- ❒ ファクス番号の登録は省略できません。必ず登録してください。
- ❒ 間違えたときは［クリア］または**【クリア/ストップ】**キーを押して入力し直します。

- ❒ Ｆコード、サブアドレスおよびUUIを登録するときは、［拡張宛先］を押して登録します。⇒ファクス機能 応用編「第4章 拡張宛先を使う」
- ❒ 増設G3ユニット（オプション）またはG4ユニット（オプション）を装着しているときは、送信する回線を選択することができます。回線を選択するときは、［回線選択］を押します。⇒ファクス機能 応用編「第4章 回線を選択する」

7 各項目を登録するときは、それぞれのキーを押して設定します。



キー表示名を登録するとき

❶ ［キー表示名］を押します。

❷ キー表示名を入力します。



登録する相手先の名称が表示されます。

参照

「文字の入力のしかた」⇒ P.70

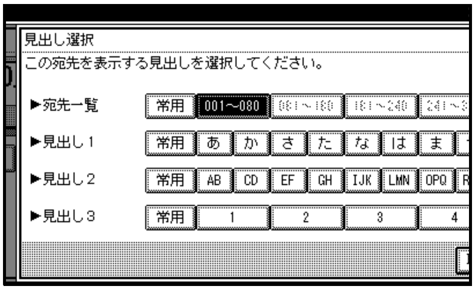
❸ ［OK］を押します。

登録したキー表示名が表示されます。

見出しを選択するとき

❶ ［見出し選択］を押します。

❷ 登録する見出しキーを押します。



補足

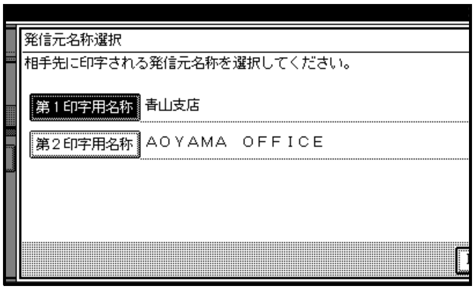
- ❒ 1件の相手先を見出し1、2、3にそれぞれ登録することができます。
- ❒ ［常用］に登録した宛先は、「宛先一覧」、「見出し1」、「見出し2」、「見出し3」のどの見出しに切り替えても常に表示されます。⇒ ファクス機能 応用編「第7章 見出し」

❸ ［設定］を押します。

発信元名称を選択するとき

❶ ［発信元名称選択］を押します。

❷ ［第1印字用名称］または［第2印字用名称］を押します。



❸ ［設定］を押します。

宛名差し込みを設定するとき

❶ **［宛名差し込み］を押します。**

❷ **［ON］または［OFF］を押します。**



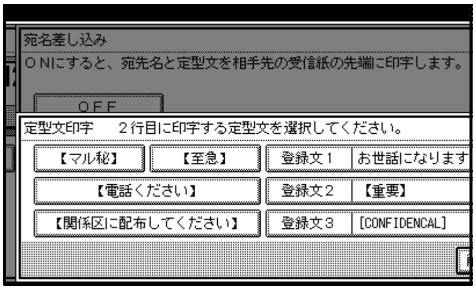
補足

❒「ON」を選択して、宛先名だけを印字するときは、手順❻に進みます。

❸ **2 行目または 3 行目を登録するときは右側にある［変更］を押します。**



❹ **2 行目または 3 行目に印字させる定型文を押して、選択します。**



❺ **［OK］を押します。**

補足

❒ 2行目と3行目に印字させるときは、手順❸から操作します。

❻ **［設定］を押します。**

海外送信モードを設定するとき

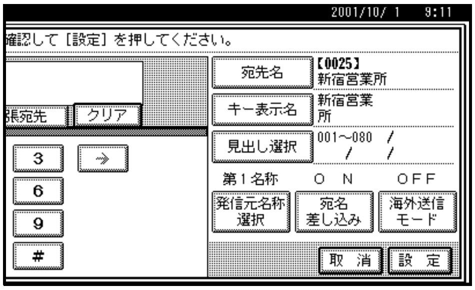
❶ **［海外送信モード］を押します。**

❷ **［ON］または［OFF］を押します。**



❸ **［設定］を押します。**

8 **［設定］を押します。**

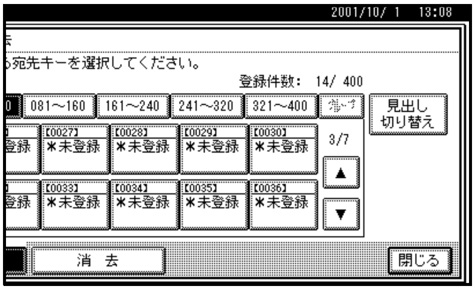


ファクス番号と名称が登録されます。

補足

❒［取消］を押すと、入力した内容を取り消して手順**3**の画面に戻ります。

9 **［閉じる］を押します。**



10 **［閉じる］を押します。**

ファクス初期画面に戻ります。

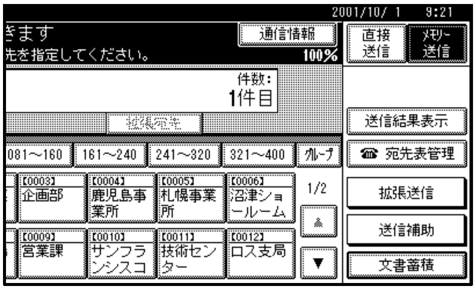
変更する

すでに登録ずみの相手先の情報を変更します。

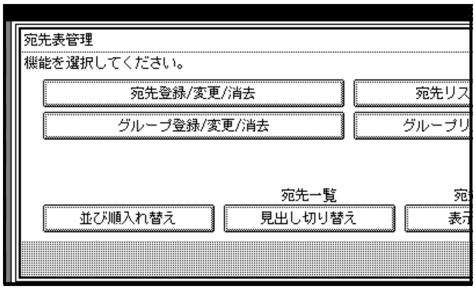
制限

- ❒ 登録ずみの宛先がメモリー送信で使われているときは、変更できません。

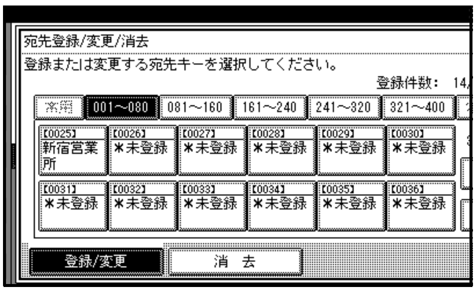
1 **［宛先表管理］を押します。**



2 **［宛先登録/変更/消去］を押します。**



3 **変更する宛先キーを押します。**



補足

- ❒ 変更する宛先キーが見つからないときは、［▲］または［▼］を押して探します。
- ❒ ［見出し切り替え］を押すと違う見出しを表示させることができます。

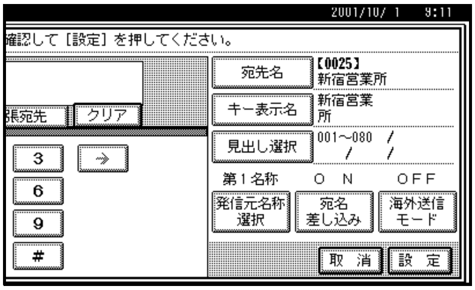
4 **ファクス番号を変更するときは、［クリア］または【クリア／ストップ】キーを押してファクス番号を入力し直します。**



補足

- ❒ ファクス番号を変更しないときは、手順**5**に進みます。
- ❒ Ｆコード、サブアドレスおよびUUIを変更するときは、［拡張宛先］を押して登録します。⇒ファクス機能 応用編「第4章 拡張宛先を使う」
- ❒ 増設G3ユニット（オプション）またはG4ユニット（オプション）を装着しているときは、送信する回線を選択することができます。回線を選択するときは、［回線選択］を押します。⇒ファクス機能 応用編「第4章 回線を選択する」

5 **各項目を変更するときは、それぞれのキーを押して設定します。**



3

宛先名を変更するとき

❶［宛先名］を押します。

❷［後退］または［全消去］を押して、宛先名を入力し直します。



参照

「文字の入力のしかた」⇒ P.70

❸［OK］を押します。

変更した名称が表示されます。

キー表示名を変更するとき

❶［キー表示名］を押します。

❷［後退］または［全消去］を押して、キー表示名を入力し直します。



参照

「文字の入力のしかた」⇒ P.70

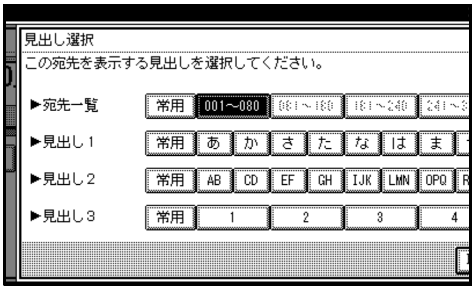
❸［OK］を押します。

変更したキー表示名が表示されます。

見出しを変更するとき

❶［見出し選択］を押します。

❷ 変更する見出しキーを押します。



補足

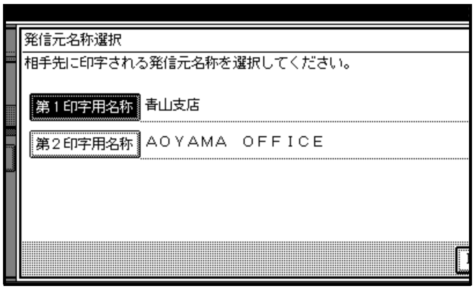
- ❒ 1件の相手先を見出し1、2、3にそれぞれ登録することができます。
- ❒［常用］に登録した宛先は、「宛先一覧」、「見出し1」、「見出し2」、「見出し3」のどの見出しに切り替えても常に表示されます。⇒ ファクス機能応用編「第7章 見出し」

❸［設定］を押します。

発信元名称を選択し直すとき

❶［発信元名称選択］を押します。

❷ 変更する印字用名称を押します。



❸［設定］を押します。

宛名差し込みの設定を変更するとき

❶［宛名差し込み］を押します。

❷［ON］または［OFF］を押します。



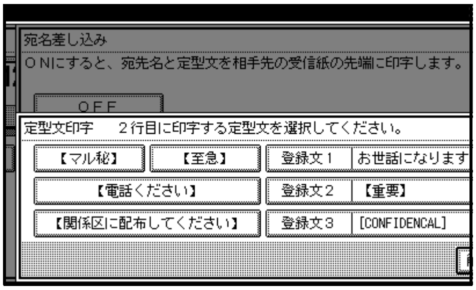
補足

❒［ON］を選択して、宛先名だけを印字するときは、手順❻に進みます。

❸ 2行目または3行目を変更するときは、右側にある［変更］を押します。



❹ 2行目または3行目に印字させる定型文を押して、選択します。



❺［OK］を押します。

補足

❒ 2行目と3行目に印字させるときは、手順❸から操作します。

❻［設定］を押します。

海外送信モードの設定を変更するとき

❶［海外送信モード］を押します。

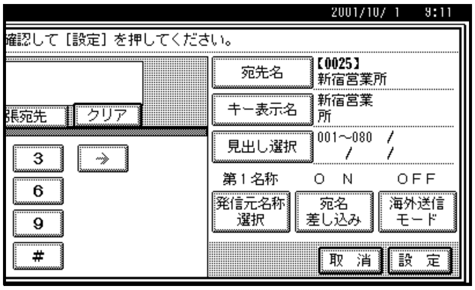
❷［ON］または［OFF］を押します。



❸［設定］を押します。

6 変更内容を確認し、［設定］を押します。

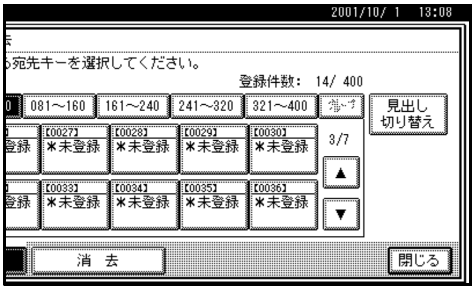
相手先の情報が変更されます。



補足

❒［取消］を押すと、入力した内容を取り消して手順**3**の画面に戻ります。

7［閉じる］を押します。



8［閉じる］を押します。

ファクス初期画面に戻ります。

3

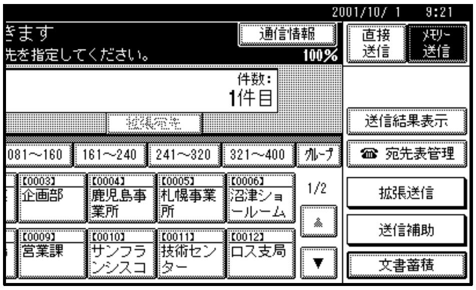
消去する

すでに登録してある内容が表示されるので、不要になった相手先を探して消去します。

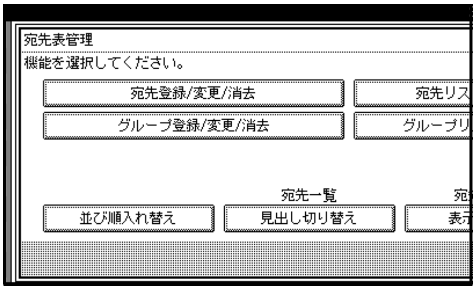
制限

- ❒ 待機中のメモリー送信で使われている宛先は、消去できません。

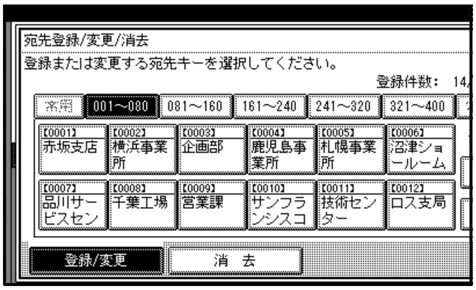
1 **［宛先表管理］を押します。**



2 **［宛先登録/変更/消去］を押します。**



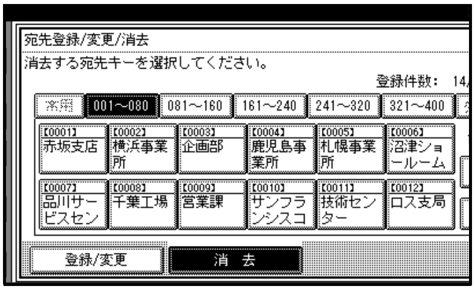
3 **［消去］を押します。**



補足

- ❒ 登録されている宛先には、宛先名またはキー表示名が表示されます。

4 **消去する宛先キーを押します。**

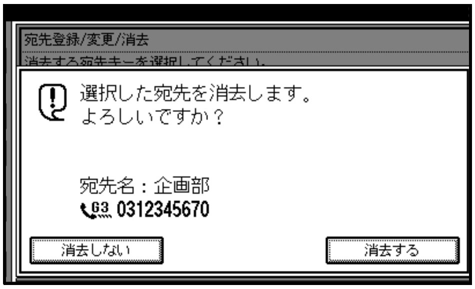


登録されている内容が表示されます。

補足

- ❒ 消去する宛先キーが見つからないときは、［▲］または［▼］を押して探します。
- ❒ ［見出し切り替え］を押すと違う見出しを表示させることができます。

5 **［消去する］を押します。**

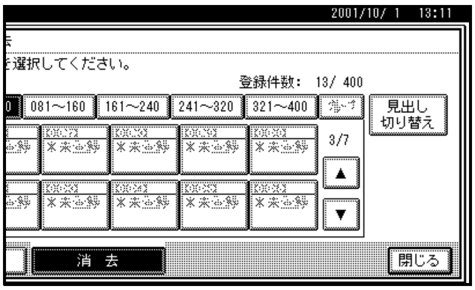


宛先が消去されます。

補足

- ❒ ［消去しない］を押すと、宛先を消去しないで手順**4**の画面に戻ります。

6 **［閉じる］を押します。**



7 **［閉じる］を押します。**

ファクス初期画面に戻ります。

グループ宛先を登録する

複数の相手先を 1 つのグループとして登録すると、登録されているすべての相手先を簡単に指定できます。複数の決まった相手先に送信することが多いときに便利です。

グループ宛先の登録は、「ファクス初期設定」の「登録/変更/消去」からもできます。

グループ宛先に登録できる内容は次のとおりです。

❖ ファクス番号

相手先のファクス番号を1グループにつき最大500件登録できます。1件のファクス番号につき最大254桁まで登録できます。

❖ グループ名

グループの名称を登録できます。全角で最大10文字、半角で最大20文字まで登録できます。グループ名の登録は省略できません。必ず登録してください。

❖ キー表示名

画面に表示される名称を登録します。全角で最大8文字、半角で最大16文字まで登録できます。キー表示名を登録しないときは、グループ名として登録した名称（全角で前8文字分、半角で前16文字分）が自動的に登録されます。）

グループとして登録されている宛先の中の 1 つの宛先の内容を変更できます。

登録する

操作の前に

グループ宛先の相手先は、あらかじめ宛先表に登録された宛先、およびテンキーで指定します。宛先表とテンキーは、組み合わせて指定できます。

重要

- ❒ 登録・変更したときは、「グループリスト」を印刷し、保管しておくことをお勧めします。

参照

ファクス機能 応用編「第7章 グループリスト」

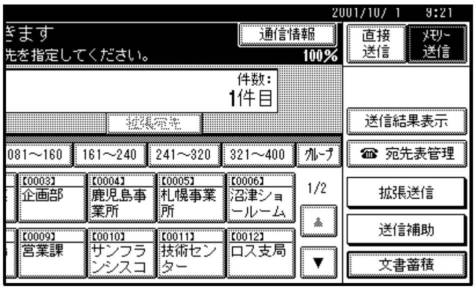
補足

- ❒ 登録できるグループ数は、最大64グループです。
- ❒ 1つのグループに登録できる相手先数は、最大500件（宛先表で400件、テンキーで100件）です。
- ❒ すべてのグループでの登録件数の合計は、最大500件（宛先表で400件、テンキーで100件）です。オプションのFAX機能拡張キットを装着しているときは最大2200件（宛先表で1200件、テンキーで1000件）です。
- ❒ 複数のグループに同じ相手先を指定しているときは、登録数は1件と数えます。たとえば、1グループに500件登録しても同じ相手先であれば、他のグループに登録することができます。すべて違う相手先を登録するときは、1グループに200件登録すると、残りのグループに登録できるのは、300件になります。FAX機能拡張キット（オプション）装着時も件数の数えかたは同じです。登録件数の数えかたは次のとおりです。

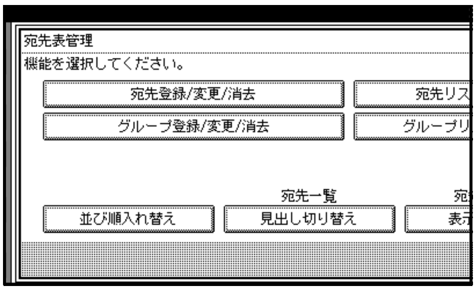
3

登録内容（グループ1）	登録内容（グループ2）	総登録数
宛先表:［0001］	宛先表:［0001］	8件
宛先表:［0003］		
宛先表:［0005］	宛先表:［0005］	
宛先表:［0010］		
宛先表:［0015］	宛先表:［0015］	
宛先表:［0020］	宛先表:［0020］	
テンキー：03（1234）5678	テンキー：03（1234）5678	
テンキー：045（111）9999	テンキー：045（111）9999	

1 ［宛先表管理］を押します。



2 ［グループ登録/変更/消去］を押します。



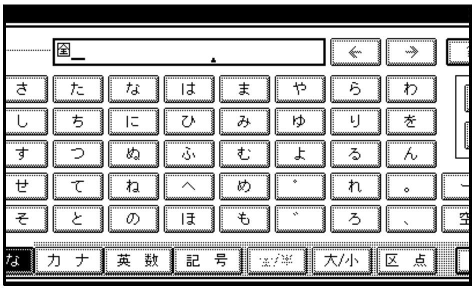
3 グループを登録するグループキーを押します。



補足

- ❒ 登録されていないグループキーは「＊未登録」と表示されます。
- ❒ 登録されていないグループキーが表示されていないときは、［▲］または［▼］を押して探します。

4 グループの名称を入力します。



補足

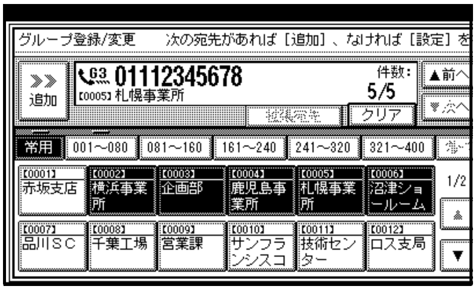
- ❒ グループ名の登録は省略できません。必ず登録してください。

参照

「文字の入力のしかた」⇒ P.70

5 ［OK］を押します。

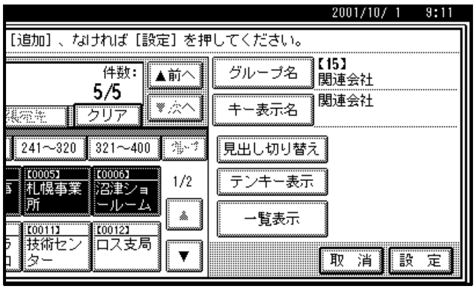
6 **相手先を指定します。**



補足

- ❒ 次のいずれかの方法で指定します。
  - テンキーでファクス番号を入力する
  - 相手先が登録されている宛先キーを押す
- ❒ 間違えたときは［クリア］または**【クリア/ストップ】**キーを押して入力し直します。宛先表から指定したときは、もう一度宛先キーを押して指定を解除することもできます。
- ❒ 宛先表に登録する相手先が表示されていないときは、［▲］または［▼］を押して探します。別の見出しに登録されているときは、［見出し切替え］を押して、探します。
- ❒ テンキーで複数の相手先を指定するときは［追加］を押します。
- ❒ 登録した内容を確認するときは、［一覧表示］を押して確認します。

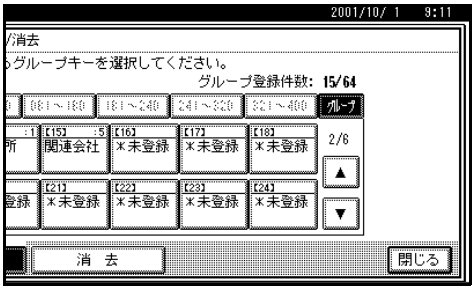
7 **［設定］を押します。**



補足

- ❒ ［取消］を押すと、グループを登録しないで手順**3**の画面に戻ります。

8 **［閉じる］を押します。**



9 **［閉じる］を押します。**

ファクス初期画面に戻ります。

中継グループ、多段中継グループとして登録する

グループ宛先に中継局と受信局を登録して中継依頼送信を行うことができます。

また、多段中継の中継局として登録することもできます。

詳しくは、最寄りのサービス実施店にお問い合わせください。

制限

❒ 一度中継局として登録したグループを通常のグループに変更するときは、一度消去してから登録し直します。

❒ 中継局として登録できるのは、1件のみです。

参照

ファクス機能 応用編「第4章 中継依頼送信」、「第5章　中継局機能」

① 登録するの手順1～6の操作をします。

② ［拡張宛先］を押します。

③ ［中継依頼］を押します。

④ ［受信局指定］を押します。

⑤ 受信局を指定します。

補足

❒ 宛先表（ワンタッチダイヤル）から指定するときは、［#ワンタッチダイヤル］を押してNo.をテンキーで入力します。

❒ 短縮ダイヤルで指定するときは、［#＊短縮ダイヤル］を押して短縮No.をテンキーで入力します。

❒ グループ宛先（グループダイヤル）で指定するときは、［#＊＊グループダイヤル］を押してグループ宛先（グループダイヤル）のNo.をテンキーで入力します。

⑥ すべての受信局を指定したら［OK］を押します。

⑦ ［設定］を押します。

⑧ ［閉じる］を2回押します。

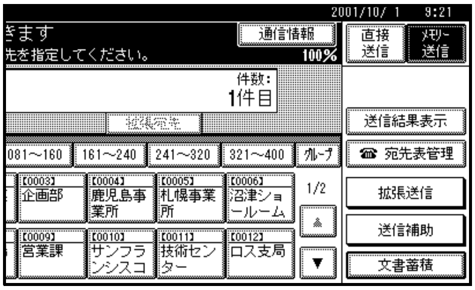
変更する

すでに登録されているグループ宛先に相手先を追加したり、グループ名を変更します。

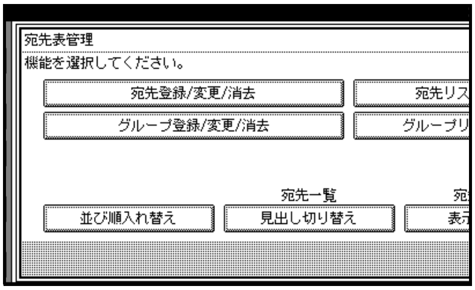
制限

❒ 待機中のメモリー送信で使われているグループは、変更できません。

1 **［宛先表管理］を押します。**



2 **［グループ登録/変更/消去］を押します。**



3 **変更するグループキーを押します。**



補足

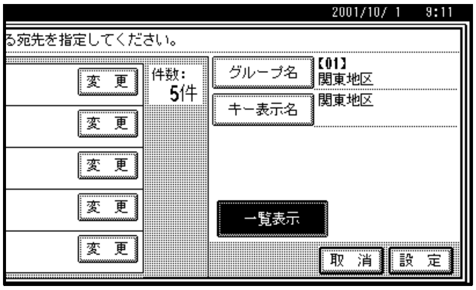
❒ 変更するグループキーが表示されていないときは、［▲］または［▼］を押して探します。

4 **グループの登録内容を変更します。**

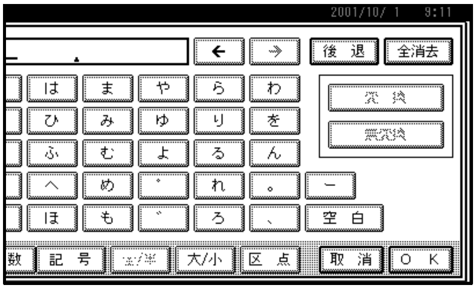


グループ名を変更するとき

❶ **［グループ名］を押します。**



❷ **［後退］または［全消去］を押して、グループの名称を入力し直します。**



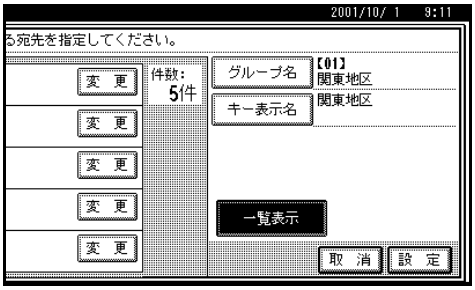
> 🔎 **参照**
> 「文字の入力のしかた」⇒ P.70

❸ **［OK］を押します。**

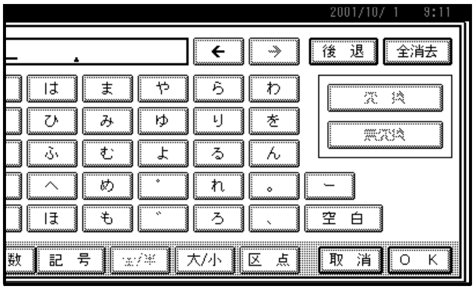
手順**4**の画面に戻ります。

キー表示名を変更するとき

❶ **［キー表示名］を押します。**



❷ **［後退］または［全消去］を押して、キー表示名を入力し直します。**



> 🔎 **参照**
> 「文字の入力のしかた」⇒ P.70

❸ **［OK］を押します。**

手順**4**の画面に戻ります。

相手先を変更するとき

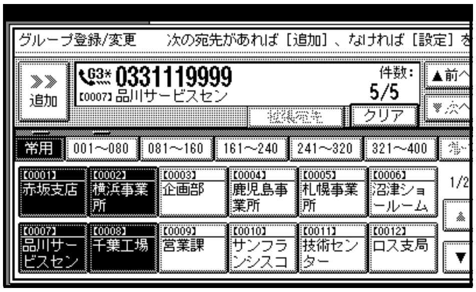
❶ **変更する相手先の［変更］を押します。**

宛先表から指定した相手先のときは、ファクス番号の下に宛先名が表示されています。



> **補足**
> ❒ 変更する相手先が表示されていないときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押して探します。

❷ **テンキーまたは宛先キーを押して、相手先を変更します。**



補足

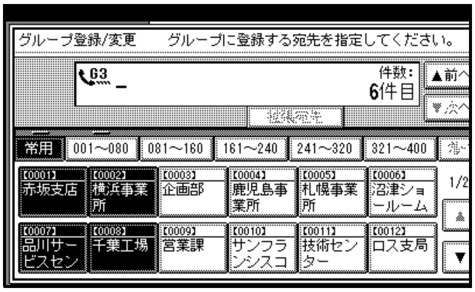
- ❒ テンキーで指定した相手先のときは［クリア］または**【クリア/ストップ】**キーを押して、相手先のファクス番号を入力します。
- ❒ 宛先表から指定した相手先のときは、まず［クリア］または**【クリア/ストップ】**キーを押して、指定を解除してから宛先キーで指定し直します。選択されている宛先キーを押して指定を解除することもできます。
- ❒ Fコード、サブアドレスおよびUUIを変更するときは、［拡張宛先］を押して変更します。⇒ファクス機能 応用編「第4章 拡張宛先を使う」
- ❒ 増設G3ユニット（オプション）またはG4ユニット（オプション）を装着しているときは、送信する回線を選択することができます。回線を選択するときは、［回線選択］を押します。⇒ファクス機能 応用編「第4章 回線を選択する」
- ❒ 他の相手先を変更するときは、［一覧表示］を押して、手順❶から操作します。

相手先を追加するとき

❶ **［追加］を押します。**



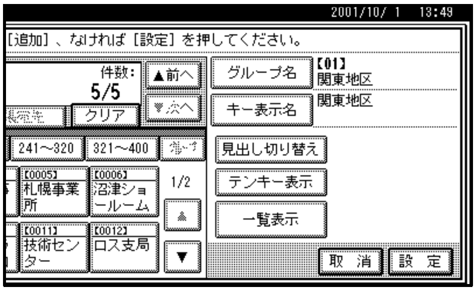
❷ **テンキーまたは宛先キーを押して、相手先を追加します。**



補足

- ❒ ［一覧表示］を押して、登録状況を確認することができます。
- ❒ 追加する相手先の宛先キーを押して、指定を取り消すこともできます。
- ❒ Fコード、サブアドレスおよびUUIを登録するときは、［拡張宛先］を押して登録します。⇒ファクス機能 応用編「第4章 拡張宛先を使う」
- ❒ 増設G3ユニット（オプション）またはG4ユニット（オプション）を装着しているときは、送信する回線を選択することができます。回線を選択するときは、［回線選択］を押します。⇒ファクス機能 応用編「第4章 回線を選択する」

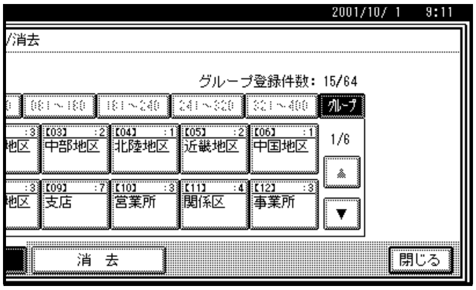
5 ［設定］を押します。



補足

- ❒ ［取消］を押すと、グループを変更しないで手順**3**の画面に戻ります。

6 ［閉じる］を押します。



7 ［閉じる］を押します。

ファクス初期画面に戻ります。

消去する

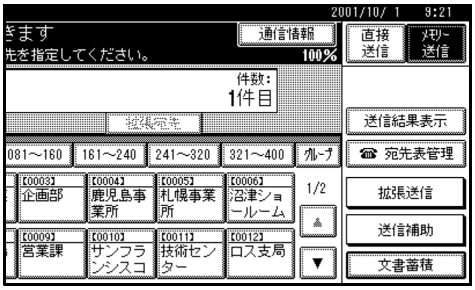
制限

- ❒ 待機中のメモリー送信で使われているグループは、消去できません。

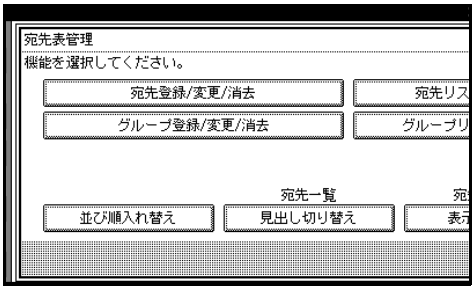
相手先の一部を消去する

グループ宛先に登録されている相手先の中から、不要になった相手先を探して消去します。

1 ［宛先表管理］を押します。



2 ［グループ登録/変更/消去］を押します。



3 消去する相手先が登録されているグループキーを押します。



補足

- ❒ 相手先を消去するグループキーが表示されていないときは、［▲］または［▼］を押して探します。

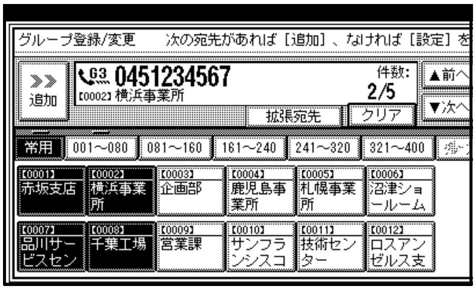
3

4 消去する相手先の［変更］を押します。



5 ［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して、相手先のファクス番号を消去します。

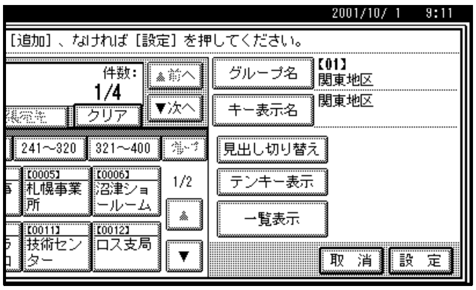
テンキーで指定した相手先は1桁ずつ消去されます。宛先表から指定した相手先は1度で消去されます。



補足

- ❒ 宛先表から指定した相手先は消去する宛先キーを押して反転表示させても消去することができます。
- ❒ 他に相手先を消去するときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押して、消去する相手先を表示させます。

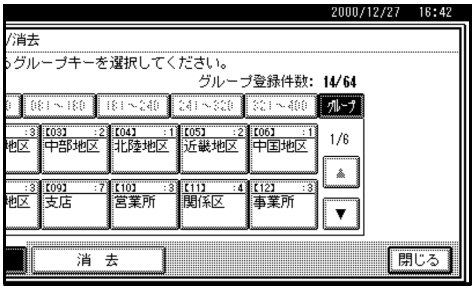
6 ［設定］を押します。



補足

- ❒ ［取消］を押すと、相手先を消去しないで手順3の画面に戻ります。

7 ［閉じる］を押します。



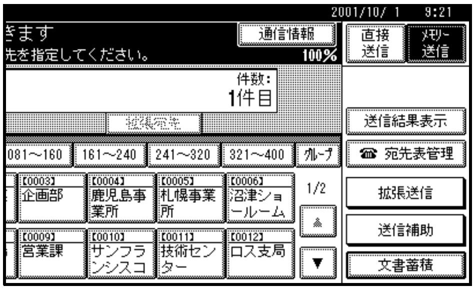
8 ［閉じる］を押します。

ファクス初期画面に戻ります。

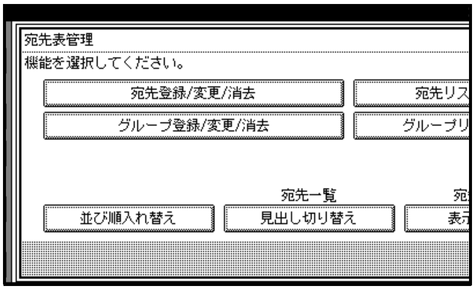
グループ全体を消去する

グループ宛先に登録されている内容をすべて消去します。

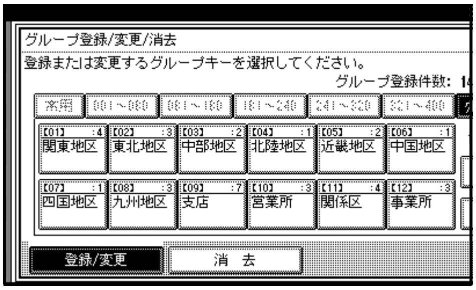
1 ［宛先表管理］を押します。



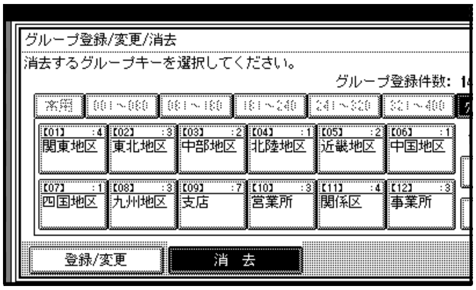
2 ［グループ登録/変更/消去］を押します。



3 ［消去］を押します。



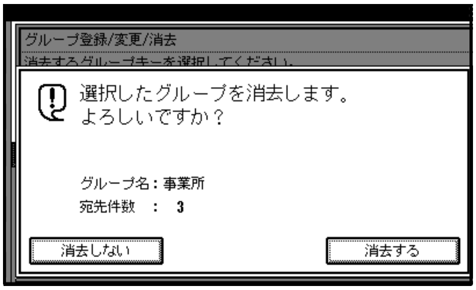
4 消去するグループキーを押します。



補足

- ❒ 消去するグループキーが表示されていないときは、［▲］または［▼］を押して探します。

5 ［消去する］を押します。



グループが消去されます。

補足

- ❒ ［消去しない］を押すと、手順**4**の画面に戻ります。

6 ［閉じる］を押します。



7 ［閉じる］を押します。

ファクス初期画面に戻ります。

文字の入力のしかた

文字の入力のしかたを説明します。

入力した文字は点滅しているカーソルの個所に入力されます。カーソルの上に文字があるときは、その文字の前に挿入されます。入力できる文字は次のとおりです。

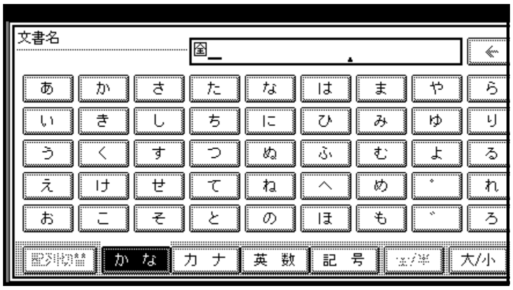
入力できる文字

- カタカナ
- ひらがな
- 漢字
  JIS第一水準漢字
  JIS第二水準漢字
- アルファベット
- 記号
- 数字

参照

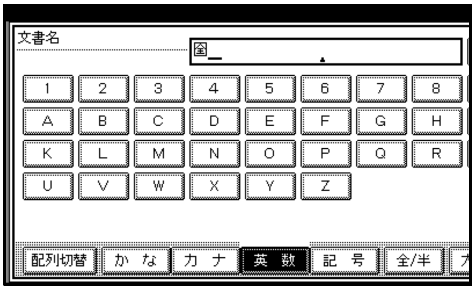
「入力文字一覧」⇒ P.74

入力画面とキーについて

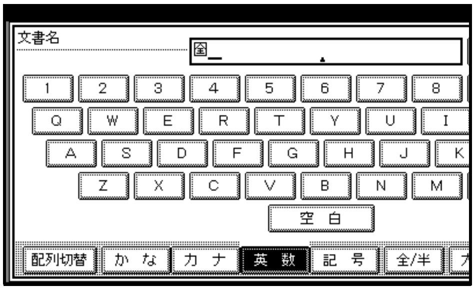


- ［配列切替］
  アルファベットの配列を切り替えます。切り替えられる配列は「ABC型」と「QWERTY型」です。

- ABC型



- QWERTY型



補足

❒「QWERTY」型の配列は「英数」の入力モードのときに使えます。

- ［かな］
  ひらがなの入力モードになります。
- ［カナ］
  カタカナの入力モードになります。
- ［英数］
  アルファベットと数字の入力モードになります。
- ［記号］
  記号（記述・学術・一般・文字）の入力モードになります。
- ［全/半］
  全角と半角を切り替えます。全角のときは「全」、半角のときは「半」が表示されます。半角にできない文字もあります。半角にできる文字は⇒ P.74「入力文字一覧」を参照してください。
- ［大/小］
  アルファベットの大文字と小文字を切り替えます。また、ひらがな、カタカナの拗音を入力するときに押します。

- ［区点］
  区点入力モードになります。読みかたがわからず漢字を見つけられないときや、JIS第二水準の漢字を入力するときは、その漢字の区点コードを入力します。
- ［←］［→］
  カーソルを左右に移動します。 カーソルを移動して文字を入力すると、カーソルの前に文字が挿入されます。
- ［後退］
  カーソルの前の文字を1つ消します。
- ［全消去］
  入力した文字をすべて消去します。
- ［変換］
  入力したひらがなを漢字に変換します。
- ［無変換］
  入力したひらがなをそのままひらがなとして確定します。
- ［空白］
  文字と文字の間に空白を入れます。

入力のしかた

制限

❒ ひらがな、漢字は半角では入力できません。

❖ ひらがな/カタカナ

画面の表示をひらがなにするときは［かな］を押します。
画面の表示をカタカナにするときは［カナ］を押します。
ひらがなは入力したあと、［無変換 ］を押します。
カタカナは直接入力されるので、［無変換］を押す必要はありません
［大/小］を押すと拗促音（ゃ、ゅ、ょ、っ）などに切り替えることができます。

補足

❒ ひらがなで連続して入力できる文字数は10文字までです。10文字以上入力するときは、1度［変換］または［無変換］を押します。

❖ 漢字

読みをひらがなで入力し、［変換］を押します。画面に同じ読みの漢字が表示されるので、入力する漢字に変換します。
表示されていない漢字を見るときは、［▲ 前へ］または［▼次へ］を押します。
漢字の読みがわからないときは、区点で入力します。

❖ 区点

［区点 ］を押し、入力する漢字の区点コードを入力します。区点コードは「入力文字一覧」⇒ P.74で調べます。
例：「亜」を入力するときは、１６０１を押します。

❖ アルファベット/数字

画面の表示をアルファベットと数字にするときは［英数］を押します。［大/小］を押すと大文字または小文字に切り替えることができます。

❖ 記号

［記号］を押します。「記号」には次の見出しがあり、見出しを押すと、画面が切り替わります。

- 記述
- 学術
- 一般
- 文字

見出しに含まれる文字については「入力文字一覧」⇒ P.74を参照してください。

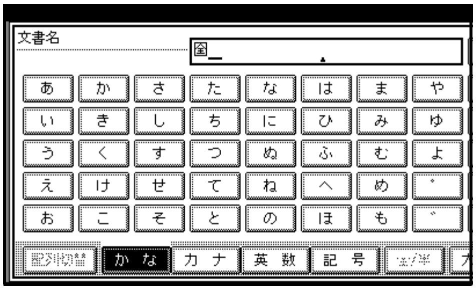
3

実際に入力してみる

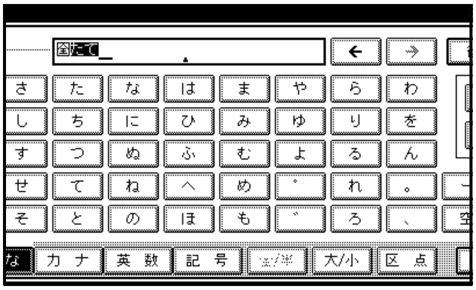
例：「縦のA4」という名称を付ける（「4」は半角で入力）

1 ［かな］を押して表示をひらがなにします。

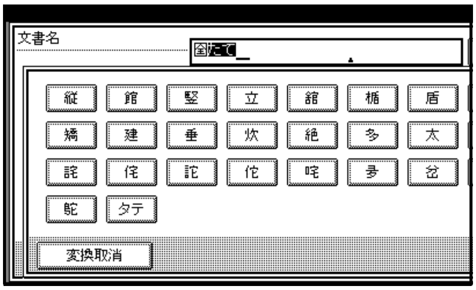
2 ［た］［て］を押します。



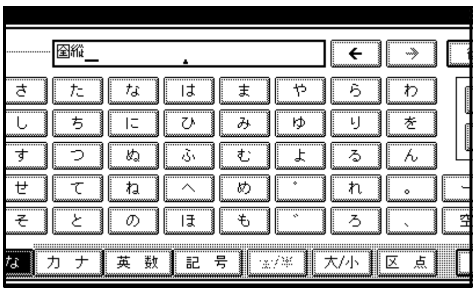
3 ［変換］を押します。



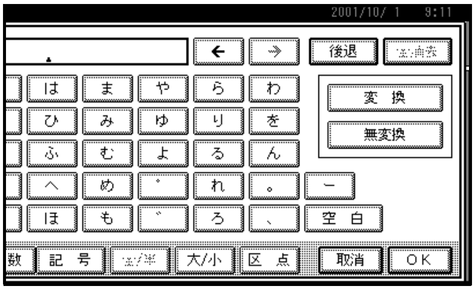
4 ［縦］を押します。



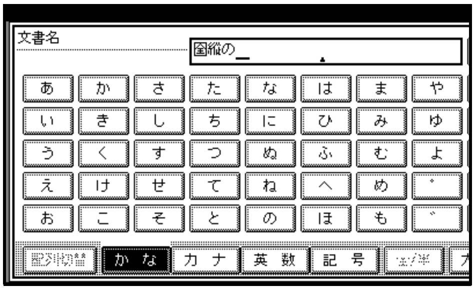
5 ［の］を押します。



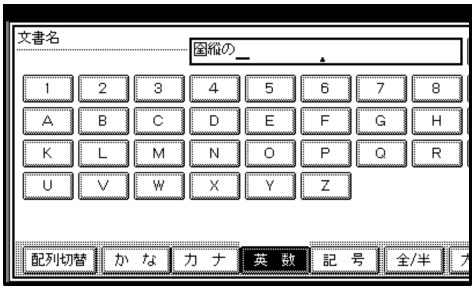
6 ［無変換］を押します。



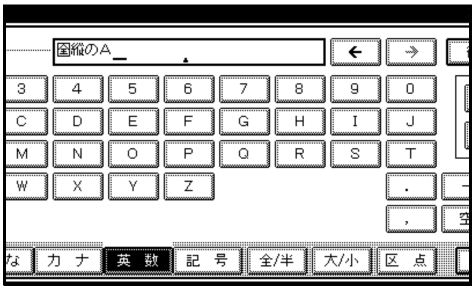
7 ［英数］を押します。



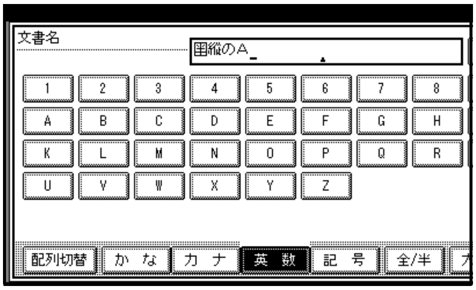
8 ［A］を押します。



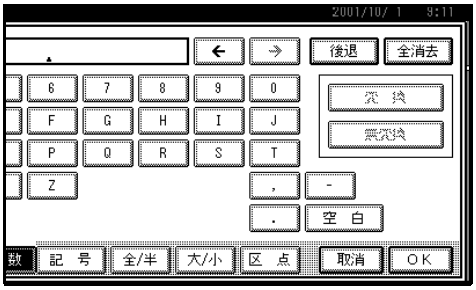
9 ［全/半］を押します。



10 ［4］を押します。



11 ［OK］を押します。



入力文字一覧

重要

❒ 複雑な文字を表示したり、印字する場合、文字の一部を簡略化することがあります。

<table>
<tr><td colspan="2">ひらがな
（全角）</td><td>あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬねのはひふへほまみむめもやゆよ
らりるれろわをんがぎぐげござじずぜぞだぢづでどばびぶべぼぱぴぷぺぽ゜゛。、ー</td></tr>
<tr><td colspan="2">ひらがな
（小）</td><td>ぁぃぅぇぉっゃゅょ。、ー</td></tr>
<tr><td colspan="2">カタカナ
（大：全角）</td><td>アイウエオカキクケコサシスセソタチツテトナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨ
ラリルレロワヲンガギグゲゴザジズゼゾダヂヅデドバビブベボパピプペポ゜゛。、ー</td></tr>
<tr><td colspan="2">カタカナ
（小：全角）</td><td>ァィゥェォヵヶッャュョ。、ー</td></tr>
<tr><td colspan="2">カタカナ
（大：半角）</td><td>ｱｲｳｴｵｶｷｸｹｺｻｼｽｾｿﾀﾁﾂﾃﾄﾅﾆﾇﾈﾉﾊﾋﾌﾍﾎﾏﾐﾑﾒﾓﾔﾕﾖﾗﾘﾙﾚﾛﾜﾝ｡､ｦｰ</td></tr>
<tr><td colspan="2">カタカナ
（小：半角）</td><td>ｧｨｩｪｫｬｭｮｯ</td></tr>
<tr><td colspan="2">英　数
(大：全角半角共通)</td><td>ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ</td></tr>
<tr><td colspan="2">英　数
(小：全角半角共通)</td><td>abcdefghijklmnopqrstuvwxyz</td></tr>
<tr><td rowspan="7">記
号</td><td>記述
（全角）</td><td>、。，．・：；？！゛゜´｀¨＾￣＿ヽヾゝゞ〃仝々〆〇ー―‐／＼～‖｜…‥‘’“”（）
〔〕［］｛｝〈〉《》「」『』【】ゎゐゑヰヱヴヵヶ一十百千万億壱弐参伍拾廿阡萬兆京</td></tr>
<tr><td>記述
（半角）</td><td>!"'(),./:;?[]^_`{|}￣ ± ｡｢｣､</td></tr>
<tr><td>学術
（全角）</td><td>＋－±×÷＝≠＜＞≦≧∞∴♂♀°′″℃￥＄￠￡％∈∋⊆⊇⊂⊃∪∩∩∧∨￢⇒⇔
∀∃∠⊥⌒∂∇≡≒≪≫√∽∝∵∫∬Å‰</td></tr>
<tr><td>学術
（半角）</td><td>$% +- 〈=〉 ¥</td></tr>
<tr><td>一般
（全角）</td><td>＃＆＊＠§☆★○●◎◇◆□■△▲▽▼※〒→←↑↓＝♯♭♪†‡¶◯
─│┌┐┘└├┬┤┴┼━┃┏┓┛┗┣┳┫┻╋┠┯┨┷┿┝┰┥┸╂</td></tr>
<tr><td>一般
（半角）</td><td>#&*@</td></tr>
<tr><td>文字</td><td>ΑΒΓΔΕΖΗΘΙΚΛΜΝΞΟΠΡΣΤΥΦΧΨΩ
αβγδεζηθικλμνξοπρστυφχψω
АБВГДЕЁЖЗИЙКЛМНОПРСТУФХЦЧШЩЪЫЬЭЮЯ
абвгдеёжзийклмнопрстуфхцчшщъыьэюя</td></tr>
</table>

GFMOJI00J

JIS第一水準文字

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	1600		亜	唖	娃	阿	哀	愛	挨	姶	逢
	1610	葵	茜	穐	悪	握	渥	旭	葦	芦	鯵
ア	1620	梓	圧	斡	扱	宛	姐	虻	飴	絢	綾
	1630	鮎	或	粟	袷	安	庵	按	暗	案	闇
	1640	鞍	杏	以	伊	位	依	偉	囲	夷	委
	1650	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異
	1660	移	維	緯	胃	萎	衣	謂	違	遺	医
イ	1670	井	亥	域	育	郁	磯	一	壱	溢	逸
	1680	稲	茨	芋	鰯	允	印	咽	員	因	姻
	1690	引	飲	淫	胤	蔭					
	1700		院	陰	隠	韻	吋	右	宇	烏	羽
	1710	迂	雨	卯	鵜	窺	丑	碓	臼	渦	嘘
ウ	1720	唄	欝	蔚	鰻	姥	厩	浦	瓜	閏	噂
	1730	云	運	雲	荏	餌	叡	営	嬰	影	映
	1740	曳	栄	永	泳	洩	瑛	盈	穎	頴	英
	1750	衛	詠	鋭	液	疫	益	駅	悦	謁	越
エ	1760	閲	榎	厭	円	園	堰	奄	宴	延	怨
	1770	掩	援	沿	演	炎	焔	煙	燕	猿	縁
	1780	艶	苑	薗	遠	鉛	鴛	塩	於	汚	甥
オ	1790	凹	央	奥	往	応					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	1800		押	旺	横	欧	殴	王	翁	襖	鴬
オ	1810	鴎	黄	岡	沖	荻	億	屋	憶	臆	桶
	1820	牡	乙	俺	卸	恩	温	穏	音	下	化
	1830	仮	何	伽	価	佳	加	可	嘉	夏	嫁
	1840	家	寡	科	暇	果	架	歌	河	火	珂
	1850	禍	禾	稼	箇	花	苛	茄	荷	華	菓
	1860	蝦	課	嘩	貨	迦	過	霞	蚊	俄	峨
	1870	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓	駕
	1880	介	会	解	回	塊	壊	廻	快	怪	悔
	1890	恢	懐	戒	拐	改					
	1900		魁	晦	械	海	灰	界	皆	絵	芥
カ	1910	蟹	開	階	貝	凱	劾	外	咳	害	崖
	1920	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸	浬
	1930	馨	蛙	垣	柿	蛎	鈎	劃	嚇	各	廓
	1940	拡	撹	格	核	殻	獲	確	穫	覚	角
	1950	赫	較	郭	閣	隔	革	学	岳	楽	額
	1960	顎	掛	笠	樫	橿	梶	鰍	潟	割	喝
	1970	恰	括	活	渇	滑	葛	褐	轄	且	鰹
	1980	叶	椛	樺	鞄	株	兜	竃	蒲	釜	鎌
	1990	噛	鴨	栢	茅	萱					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	2000		粥	刈	苅	瓦	乾	侃	冠	寒	刊
	2010	勘	勧	巻	喚	堪	姦	完	官	寛	干
	2020	幹	患	感	慣	憾	換	敢	柑	桓	棺
カ	2030	款	歓	汗	漢	澗	潅	環	甘	監	看
	2040	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦	莞	観
	2050	諌	貫	還	鑑	間	閑	関	陥	韓	館
	2060	舘	丸	含	岸	巌	玩	癌	眼	岩	翫
	2070	贋	雁	頑	顔	願	企	伎	危	喜	器
	2080	基	奇	嬉	寄	岐	希	幾	忌	揮	机
	2090	旗	既	期	棋	棄					
	2100		機	帰	毅	気	汽	畿	祈	季	稀
	2110	紀	徽	規	記	貴	起	軌	輝	飢	騎
	2120	鬼	亀	偽	儀	妓	宜	戯	技	擬	欺
キ	2130	犠	疑	祇	義	蟻	誼	議	掬	菊	鞠
	2140	吉	吃	喫	桔	橘	詰	砧	杵	黍	却
	2150	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	吸
	2160	宮	弓	急	救	朽	求	汲	泣	灸	球
	2170	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	居
	2180	巨	拒	拠	挙	渠	虚	許	距	鋸	漁
	2190	禦	魚	亨	享	京					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	2200		供	侠	僑	兇	競	共	凶	協	匡
	2210	卿	叫	喬	境	峡	強	彊	怯	恐	恭
	2220	挟	教	橋	況	狂	狭	矯	胸	脅	興
キ	2230	蕎	郷	鏡	響	饗	驚	仰	凝	尭	暁
	2240	業	局	曲	極	玉	桐	粁	僅	勤	均
	2250	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊
	2260	芹	菌	衿	襟	謹	近	金	吟	銀	九
	2270	倶	句	区	狗	玖	矩	苦	躯	駆	駈
	2280	駒	具	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅
ク	2290	串	櫛	釧	屑	屈					
	2300		掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	隈	粂
	2310	栗	繰	桑	鍬	勲	君	薫	訓	群	軍
	2320	郡	卦	袈	祁	係	傾	刑	兄	啓	圭
	2330	珪	型	契	形	径	恵	慶	慧	憩	掲
	2340	携	敬	景	桂	渓	畦	稽	系	経	継
	2350	繋	罫	茎	荊	蛍	計	詣	警	軽	頚
ケ	2360	鶏	芸	迎	鯨	劇	戟	撃	激	隙	桁
	2370	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件
	2380	倹	倦	健	兼	券	剣	喧	圏	堅	嫌
	2390	建	憲	懸	拳	捲					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	2400		検	権	牽	犬	献	研	硯	絹	県
ケ	2410	肩	見	謙	賢	軒	遣	鍵	険	顕	験
	2420	鹸	元	原	厳	幻	弦	減	源	玄	現
	2430	絃	舷	言	諺	限	乎	個	古	呼	固
	2440	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯	湖	狐
	2450	糊	袴	股	胡	菰	虎	誇	跨	鈷	雇
	2460	顧	鼓	五	互	伍	午	呉	吾	娯	後
	2470	御	悟	梧	檎	瑚	碁	語	誤	護	醐
	2480	乞	鯉	交	佼	侯	候	倖	光	公	功
	2490	効	勾	厚	口	向					
	2500		后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工
コ	2510	巧	巷	幸	広	庚	康	弘	恒	慌	抗
	2520	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構
	2530	江	洪	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠
	2540	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱	腔	膏
	2550	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	酵	鉱
	2560	砿	鋼	閤	降	項	香	高	鴻	剛	劫
	2570	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	麹	克	刻
	2580	告	国	穀	酷	鵠	黒	獄	漉	腰	甑
	2590	忽	惚	骨	狛	込					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
コ	2600		此	頃	今	困	坤	墾	婚	恨	懇
	2610	昏	昆	根	梱	混	痕	紺	艮	魂	些
	2620	佐	叉	唆	嵯	左	差	査	沙	瑳	砂
	2630	詐	鎖	裟	坐	座	挫	債	催	再	最
	2640	哉	塞	妻	宰	彩	才	採	栽	歳	済
	2650	災	采	犀	砕	砦	祭	斎	細	菜	裁
	2660	載	際	剤	在	材	罪	財	冴	坂	阪
サ	2670	堺	榊	肴	咲	崎	埼	碕	鷺	作	削
	2680	咋	搾	昨	朔	柵	窄	策	索	錯	桜
	2690	鮭	笹	匙	冊	刷					
	2700		察	拶	撮	擦	札	殺	薩	雑	皐
	2710	鯖	捌	錆	鮫	皿	晒	三	傘	参	山
	2720	惨	撒	散	桟	燦	珊	産	算	纂	蚕
	2730	讃	賛	酸	餐	斬	暫	残	仕	仔	伺
	2740	使	刺	司	史	嗣	四	士	始	姉	姿
	2750	子	屍	市	師	志	思	指	支	孜	斯
	2760	施	旨	枝	止	死	氏	獅	祉	私	糸
シ	2770	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌
	2780	諮	資	賜	雌	飼	歯	事	似	侍	児
	2790	字	寺	慈	持	時					

JIS第一水準文字 2/3

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	2800		次	滋	治	爾	璽	痔	磁	示	而
	2810	耳	自	蒔	辞	汐	鹿	式	識	鴫	竺
	2820	軸	宍	雫	七	叱	執	失	嫉	室	悉
	2830	湿	漆	疾	質	実	蔀	篠	偲	柴	芝
	2840	屡	蕊	縞	舎	写	射	捨	赦	斜	煮
	2850	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	邪	借	勺
	2860	尺	杓	灼	爵	酌	釈	錫	若	寂	弱
	2870	惹	主	取	守	手	朱	殊	狩	珠	種
	2880	腫	趣	酒	首	儒	受	呪	寿	授	樹
シ	2890	綬	需	囚	収	周					
	2900		宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋
	2910	終	繍	習	臭	舟	蒐	衆	襲	讐	蹴
	2920	輯	週	酋	酬	集	醜	什	住	充	十
	2930	従	戎	柔	汁	渋	獣	縦	重	銃	叔
	2940	夙	宿	淑	祝	縮	粛	塾	熟	出	術
	2950	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循
	2960	旬	楯	殉	淳	準	潤	盾	純	巡	遵
	2970	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	庶	緒
	2980	署	書	薯	藷	諸	助	叙	女	序	徐
	2990	恕	鋤	除	傷	償					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	3000		勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	奨
	3010	妾	娼	宵	将	小	少	尚	庄	床	廠
	3020	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶
	3030	松	梢	樟	樵	沼	消	渉	湘	焼	焦
	3040	照	症	省	硝	礁	祥	称	章	笑	粧
	3050	紹	肖	菖	蒋	蕉	衝	裳	訟	証	詔
	3060	詳	象	賞	醤	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上
シ	3070	丈	丞	乗	冗	剰	城	場	壌	嬢	常
	3080	情	擾	条	杖	浄	状	畳	穣	蒸	譲
	3090	醸	錠	嘱	埴	飾					
	3100		拭	植	殖	燭	織	職	色	触	食
	3110	蝕	辱	尻	伸	信	侵	唇	娠	寝	審
	3120	心	慎	振	新	晋	森	榛	浸	深	申
	3130	疹	真	神	秦	紳	臣	芯	薪	親	診
	3140	身	辛	進	針	震	人	仁	刃	塵	壬
	3150	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	靭	笥	諏
	3160	須	酢	図	厨	逗	吹	垂	帥	推	水
ス	3170	炊	睡	粋	翠	衰	遂	酔	錐	錘	随
	3180	瑞	髄	崇	嵩	数	枢	趨	雛	据	杉
	3190	椙	菅	頗	雀	裾					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ス	3200		澄	摺	寸	世	瀬	畝	是	凄	制
	3210	勢	姓	征	性	成	政	整	星	晴	棲
	3220	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製
	3230	西	誠	誓	請	逝	醒	青	静	斉	税
	3240	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析	石	積
	3250	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙
	3260	接	摂	折	設	窃	節	説	雪	絶	舌
セ	3270	蝉	仙	先	千	占	宣	専	尖	川	戦
	3280	扇	撰	栓	栴	泉	浅	洗	染	潜	煎
	3290	煽	旋	穿	箭	線					
	3300		繊	羨	腺	舛	船	薦	詮	賎	践
	3310	選	遷	銭	銑	閃	鮮	前	善	漸	然
	3320	全	禅	繕	膳	糎	噌	塑	岨	措	曾
	3330	曽	楚	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素
	3340	組	蘇	訴	阻	遡	鼠	僧	創	双	叢
	3350	倉	喪	壮	奏	爽	宋	層	匝	惣	想
ソ	3360	捜	掃	挿	掻	操	早	曹	巣	槍	槽
	3370	漕	燥	争	痩	相	窓	糟	総	綜	聡
	3380	草	荘	葬	蒼	藻	装	走	送	遭	鎗
	3390	霜	騒	像	増	憎					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	3400		臓	蔵	贈	造	促	側	則	即	息
ソ	3410	捉	束	測	足	速	俗	属	賊	族	続
	3420	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村	遜
	3430	他	多	太	汰	詑	唾	堕	妥	惰	打
	3440	柁	舵	楕	陀	駄	騨	体	堆	対	耐
	3450	岱	帯	待	怠	態	戴	替	泰	滞	胎
	3460	腿	苔	袋	貸	退	逮	隊	黛	鯛	代
	3470	台	大	第	醍	題	鷹	滝	瀧	卓	啄
タ	3480	宅	托	択	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁
	3490	諾	茸	凧	蛸	只					
	3500		叩	但	達	辰	奪	脱	巽	竪	辿
	3510	棚	谷	狸	鱈	樽	誰	丹	単	嘆	坦
	3520	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	箪
	3530	綻	耽	胆	蛋	誕	鍛	団	壇	弾	断
	3540	暖	檀	段	男	談	値	知	地	弛	恥
	3550	智	池	痴	稚	置	致	蜘	遅	馳	築
	3560	畜	竹	筑	蓄	逐	秩	窒	茶	嫡	着
チ	3570	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷
	3580	註	酎	鋳	駐	樗	瀦	猪	苧	著	貯
	3590	丁	兆	凋	喋	寵					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	3600		帖	帳	庁	弔	張	彫	徴	懲	挑
チ	3610	暢	朝	潮	牒	町	眺	聴	脹	腸	蝶
	3620	調	諜	超	跳	銚	長	頂	鳥	勅	捗
	3630	直	朕	沈	珍	賃	鎮	陳	津	墜	椎
	3640	槌	追	鎚	痛	通	塚	栂	掴	槻	佃
	3650	漬	柘	辻	蔦	綴	鍔	椿	潰	坪	壷
	3660	嬬	紬	爪	吊	釣	鶴	亭	低	停	偵
	3670	剃	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟
ツ	3680	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締
	3690	艇	訂	諦	蹄	逓					
	3700		邸	鄭	釘	鼎	泥	摘	擢	敵	滴
	3710	的	笛	適	鏑	溺	哲	徹	撤	轍	迭
	3720	鉄	典	填	天	展	店	添	纏	甜	貼
	3730	転	顛	点	伝	殿	澱	田	電	兎	吐
	3740	堵	塗	妬	屠	徒	斗	杜	渡	登	菟
	3750	賭	途	都	鍍	砥	砺	努	度	土	奴
ト	3760	怒	倒	党	冬	凍	刀	唐	塔	塘	套
	3770	宕	島	嶋	悼	投	搭	東	桃	梼	棟
	3780	盗	淘	湯	涛	灯	燈	当	痘	祷	等
	3790	答	筒	糖	統	到					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	3800		董	蕩	藤	討	謄	豆	踏	逃	透
	3810	鐙	陶	頭	騰	闘	働	動	同	堂	導
	3820	憧	撞	洞	瞳	童	胴	萄	道	銅	峠
ト	3830	鴇	匿	得	徳	涜	特	督	禿	篤	毒
	3840	独	読	栃	橡	凸	突	椴	届	鳶	苫
	3850	寅	酉	瀞	噸	屯	惇	敦	沌	豚	遁
	3860	頓	呑	曇	鈍	奈	那	内	乍	凪	薙
ナ	3870	謎	灘	捺	鍋	楢	馴	縄	畷	南	楠
	3880	軟	難	汝	二	尼	弐	迩	匂	賑	肉
ニ	3890	虹	廿	日	乳	入					
ヌ	3900		如	尿	韮	任	妊	忍	認	濡	禰
ネ	3910	祢	寧	葱	猫	熱	年	念	捻	撚	燃
	3920	粘	乃	廼	之	埜	嚢	悩	濃	納	能
ノ	3930	脳	膿	農	覗	蚤	巴	把	播	覇	杷
	3940	波	派	琶	破	婆	罵	芭	馬	俳	廃
	3950	拝	排	敗	杯	盃	牌	背	肺	輩	配
ハ	3960	倍	培	媒	梅	楳	煤	狽	買	売	賠
	3970	陪	這	蝿	秤	矧	萩	伯	剥	博	拍
	3980	柏	泊	白	箔	粕	舶	薄	迫	曝	漠
	3990	爆	縛	莫	駁	麦					

JIS第一水準文字

3/3

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ハ	4000		函	箱	硲	箸	肇	筈	櫨	幡	肌
	4010	畑	畠	八	鉢	溌	発	醗	髪	伐	罰
	4020	抜	筏	閥	鳩	噺	塙	蛤	隼	伴	判
	4030	半	反	叛	帆	搬	斑	板	氾	汎	版
	4040	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範	釆	煩
	4050	頒	飯	挽	晩	番	盤	磐	蕃	蛮	匪
ヒ	4060	卑	否	妃	庇	彼	悲	扉	批	披	斐
	4070	比	泌	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥	被
	4080	誹	費	避	非	飛	樋	簸	備	尾	微
	4090	枇	毘	琵	眉	美					
	4100		鼻	柊	稗	匹	疋	髭	彦	膝	菱
	4110	肘	弼	必	畢	筆	逼	桧	姫	媛	紐
	4120	百	謬	俵	彪	標	氷	漂	瓢	票	表
	4130	評	豹	廟	描	病	秒	苗	錨	鋲	蒜
	4140	蛭	鰭	品	彬	斌	浜	瀕	貧	賓	頻
	4150	敏	瓶	不	付	埠	夫	婦	富	冨	布
フ	4160	府	怖	扶	敷	斧	普	浮	父	符	腐
	4170	膚	芙	譜	負	賦	赴	阜	附	侮	撫
	4180	武	舞	葡	蕪	部	封	楓	風	葺	蕗
	4190	伏	副	復	幅	服					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
フ	4200		福	腹	複	覆	淵	弗	払	沸	仏
	4210	物	鮒	分	吻	噴	墳	憤	扮	焚	奮
	4220	粉	糞	紛	雰	文	聞	丙	併	兵	塀
ヘ	4230	幣	平	弊	柄	並	蔽	閉	陛	米	頁
	4240	僻	壁	癖	碧	別	瞥	蔑	箆	偏	変
	4250	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	娩	弁
ホ	4260	鞭	保	舗	鋪	圃	捕	歩	甫	補	輔
	4270	穂	募	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣
	4280	俸	包	呆	報	奉	宝	峰	峯	崩	庖
	4290	抱	捧	放	方	朋					
	4300		法	泡	烹	砲	縫	胞	芳	萌	蓬
	4310	蜂	褒	訪	豊	邦	鋒	飽	鳳	鵬	乏
	4320	亡	傍	剖	坊	妨	帽	忘	忙	房	暴
	4330	望	某	棒	冒	紡	肪	膨	謀	貌	貿
	4340	鉾	防	吠	頬	北	僕	卜	墨	撲	朴
	4350	牧	睦	穆	釦	勃	没	殆	堀	幌	奔
	4360	本	翻	凡	盆	摩	磨	魔	麻	埋	妹
マ	4370	昧	枚	毎	哩	槙	幕	膜	枕	鮪	柾
	4380	鱒	桝	亦	俣	又	抹	末	沫	迄	侭
	4390	繭	麿	万	慢	満					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
マ	4400		漫	蔓	味	未	魅	巳	箕	岬	密
ミ	4410	蜜	湊	蓑	稔	脈	妙	粍	民	眠	務
ム	4420	夢	無	牟	矛	霧	鵡	椋	婿	娘	冥
メ	4430	名	命	明	盟	迷	銘	鳴	姪	牝	滅
	4440	免	棉	綿	緬	面	麺	摸	模	茂	妄
	4450	孟	毛	猛	盲	網	耗	蒙	儲	木	黙
モ	4460	目	杢	勿	餅	尤	戻	籾	貰	問	悶
	4470	紋	門	匁	也	冶	夜	爺	耶	野	弥
ヤ	4480	矢	厄	役	約	薬	訳	躍	靖	柳	薮
	4490	鑓	愉	愈	油	癒					
ユ	4500		諭	輸	唯	佑	優	勇	友	宥	幽
	4510	悠	憂	揖	有	柚	湧	涌	猶	猷	由
	4520	祐	裕	誘	遊	邑	郵	雄	融	夕	予
ヨ	4530	余	与	誉	輿	預	傭	幼	妖	容	庸
	4540	揚	揺	擁	曜	楊	様	洋	溶	熔	用
	4550	窯	羊	耀	葉	蓉	要	謡	踊	遥	陽
	4560	養	慾	抑	欲	沃	浴	翌	翼	淀	羅
ラ	4570	螺	裸	来	莱	頼	雷	洛	絡	落	酪
	4580	乱	卵	嵐	欄	濫	藍	蘭	覧	利	吏
リ	4590	履	李	梨	理	璃					

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
リ	4600		痢	裏	裡	里	離	陸	律	率	立
	4610	葎	掠	略	劉	流	溜	琉	留	硫	粒
	4620	隆	竜	龍	侶	慮	旅	虜	了	亮	僚
	4630	両	凌	寮	料	梁	涼	猟	療	瞭	稜
	4640	糧	良	諒	遼	量	陵	領	力	緑	倫
	4650	厘	林	淋	燐	琳	臨	輪	隣	鱗	麟
ル	4660	瑠	塁	涙	累	類	令	伶	例	冷	励
レ	4670	嶺	怜	玲	礼	苓	鈴	隷	零	霊	麗
	4680	齢	暦	歴	列	劣	烈	裂	廉	恋	憐
	4690	漣	煉	簾	練	聯					
	4700		蓮	連	錬	呂	魯	櫓	炉	賂	路
ロ	4710	露	労	婁	廊	弄	朗	楼	榔	浪	漏
	4720	牢	狼	篭	老	聾	蝋	郎	六	麓	禄
	4730	肋	録	論	倭	和	話	歪	賄	脇	惑
ワ	4740	枠	鷲	亙	亘	鰐	詫	藁	蕨	椀	湾
	4750	碗	腕								
	4760										
	4770										
	4780										
	4790										

JIS 第二水準文字　1/3

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
4800		弌	丐	丕	个	丱	丶	丼	丿	乂
4810	乖	乘	亂	亅	豫	亊	舒	弍	于	亞
4820	亟	亠	亢	亰	亳	亶	从	仍	仄	仆
4830	仂	仗	仞	仭	仟	价	伉	佚	估	佛
4840	佝	佗	佇	佶	侈	侏	侘	佻	佩	佰
4850	侑	佯	來	侖	儘	俔	俟	俎	俘	俛
4860	俑	俚	俐	俤	俥	倚	倨	倔	倪	倥
4870	倅	伜	俶	倡	倩	倬	俾	俯	們	倆
4880	偃	假	會	偕	偐	偈	做	偖	偬	偸
4890	傀	傚	傅	傴	傲					
4900		僉	僊	傳	僂	僖	僞	僥	僭	僣
4910	僮	價	僵	儉	儁	儂	儖	儕	儔	儚
4920	儡	儺	儷	儼	儻	儿	兀	兒	兌	兔
4930	兢	竸	兩	兪	兮	冀	冂	囘	册	冉
4940	冏	冑	冓	冕	冖	冤	冦	冢	冩	冪
4950	冫	决	冱	冲	冰	况	冽	凅	凉	凛
4960	几	處	凩	凭	凰	凵	凾	刄	刋	刔
4970	刎	刧	刪	刮	刳	刹	剏	剄	剋	剌
4980	剞	剔	剪	剴	剩	剳	剿	剽	劍	劔
4990	劒	剱	劈	劑	辨					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5000		辧	劬	劭	劼	劵	勁	勍	勗	勞
5010	勣	勦	飭	勠	勳	勵	勸	勹	匆	匈
5020	甸	匍	匐	匏	匕	匚	匣	匯	匱	匳
5030	匸	區	卆	卅	丗	卉	卍	凖	卞	卩
5040	卮	夘	卻	卷	厂	厖	厠	厦	厥	厮
5050	厰	厶	參	簒	雙	叟	曼	燮	叮	叨
5060	叭	叺	吁	吽	呀	听	吭	吼	吮	吶
5070	吩	吝	呎	咏	呵	咎	呟	呱	呷	呰
5080	咒	呻	咀	呶	咄	咐	咆	哇	咢	咸
5090	咥	咬	哄	哈	咨					
5100		咫	哂	咤	咾	咼	哘	哥	哦	唏
5110	唔	哽	哮	哭	哺	哢	唹	啀	啣	啌
5120	售	啜	啅	啖	啗	唸	唳	啝	喙	喀
5130	咯	喊	喟	啻	啾	喘	喞	單	啼	喃
5140	喩	喇	喨	嗚	嗅	嗟	嗄	嗜	嗤	嗔
5150	嘔	嗷	嘖	嗾	嗽	嘛	嗹	噎	噐	營
5160	嘴	嘶	嘲	嘸	噫	噤	嘯	噬	噪	嚆
5170	嚀	嚊	嚠	嚔	嚏	嚥	嚮	嚶	嚴	囂
5180	嚼	囁	囃	囀	囈	囎	囑	囓	囗	囮
5190	囹	圀	囿	圄	圉					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5200		圈	國	圍	圓	團	圖	嗇	圜	圦
5210	圷	圸	坎	圻	址	坏	坩	埀	垈	坡
5220	坿	垉	垓	垠	垳	垤	垪	垰	埃	埆
5230	埔	埒	埓	堊	埖	埣	堋	堙	堝	塲
5240	堡	塢	塋	塰	毀	塒	堽	塹	墅	墹
5250	墟	墫	墺	壞	墻	墸	墮	壅	壓	壑
5260	壗	壙	壘	壥	壜	壤	壟	壯	壺	壹
5270	壻	壼	壽	夂	夊	夐	夛	梦	夥	夬
5280	夭	夲	夸	夾	竒	奕	奐	奎	奚	奘
5290	奢	奠	奧	奬	奩					
5300		奸	妁	妝	佞	侫	妣	妲	姆	姨
5310	姜	妍	姙	姚	娥	娟	娑	娜	娉	娚
5320	婀	婬	婉	娵	娶	婢	婪	媚	媼	媾
5330	嫋	嫂	媽	嫣	嫗	嫦	嫩	嫖	嫺	嫻
5340	嬌	嬋	嬖	嬲	嫐	嬪	嬶	嬾	孃	孅
5350	孀	孑	孕	孚	孛	孥	孩	孰	孳	孵
5360	學	斈	孺	宀	它	宦	宸	寃	寇	寉
5370	寔	寐	寤	實	寢	寞	寥	寫	寰	寶
5380	寳	尅	將	專	對	尓	尠	尢	尨	尸
5390	尹	屁	屆	屎	屓					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5400		屐	屏	孱	屬	屮	乢	屶	屹	岌
5410	岑	岔	妛	岫	岻	岶	岼	岷	峅	岾
5420	峇	峙	峩	峽	峺	峭	嶌	峪	崋	崕
5430	崗	嵜	崟	崛	崑	崔	崢	崚	崙	崘
5440	嵌	嵒	嵎	嵋	嵬	嵳	嵶	嶇	嶄	嶂
5450	嶢	嶝	嶬	嶮	嶽	嶐	嶷	嶼	巉	巍
5460	巓	巒	巖	巛	巫	已	巵	帋	帚	帙
5470	帑	帛	帶	帷	幄	幃	幀	幎	幗	幔
5480	幟	幢	幤	幇	幵	并	幺	麼	广	庠
5490	廁	廂	廈	廐	廏					
5500		廖	廣	廝	廚	廛	廢	廡	廨	廩
5510	廬	廱	廳	廰	廴	廸	廾	弃	弉	彝
5520	彜	弋	弑	弖	弩	弭	弸	彁	彈	彌
5530	彎	弯	彑	彖	彗	彙	彡	彭	彳	彷
5540	徃	徂	彿	徊	很	徑	徇	從	徙	徘
5550	徠	徨	徭	徼	忖	忻	忤	忸	忱	忝
5560	悳	忿	怡	恠	怙	怐	怩	怎	怱	怛
5570	怕	怫	怦	怏	怺	恚	恁	恪	恷	恟
5580	恊	恆	恍	恣	恃	恤	恂	恬	恫	恙
5590	悁	悍	惧	悃	悚					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5600		悄	悛	悖	悗	悒	悧	悋	惡	悸
5610	惠	惓	悴	忰	悽	惆	悵	惘	慍	愕
5620	愆	惶	惷	愀	惴	惺	愃	愡	惻	惱
5630	愍	愎	慇	愾	愨	愧	慊	愿	愼	愬
5640	愴	愽	慂	慄	慳	慷	慘	慙	慚	慫
5650	慴	慯	慥	慱	慟	慝	慓	慵	憙	憖
5660	憇	憬	憔	憚	憊	憑	憫	憮	懌	懊
5670	應	懷	懈	懃	懆	憺	懋	罹	懍	懦
5680	懣	懶	懺	懴	懿	懽	懼	懾	戀	戈
5690	戉	戍	戌	戔	戛					
5700		戞	戡	截	戮	戰	戲	戳	扁	扎
5710	扞	扣	扛	扠	扨	扼	抂	抉	找	抒
5720	抓	抖	拔	抃	抔	拗	拑	抻	拏	拿
5730	拆	擔	拈	拜	拌	拊	拂	拇	抛	拉
5740	挌	拮	拱	挧	挂	挈	拯	拵	捐	挾
5750	捍	搜	捏	掖	掎	掀	掫	捶	掣	掏
5760	掉	掟	掵	捫	捩	掾	揩	揀	揆	揣
5770	揉	插	揶	揄	搖	搴	搆	搓	搦	搶
5780	攝	搗	搨	搏	摧	摯	摶	摎	攪	撕
5790	撓	撥	撩	撈	撼					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5800		據	擒	擅	擇	撻	擘	擂	擱	擧
5810	舉	擠	擡	抬	擣	擯	攬	擶	擴	擲
5820	擺	攀	擽	攘	攜	攅	攤	攣	攫	攴
5830	攵	攷	收	攸	畋	效	敖	敕	敍	敘
5840	敞	敝	敲	數	斂	斃	變	斛	斟	斫
5850	斷	旃	旆	旁	旄	旌	旒	旛	旙	无
5860	旡	旱	杲	昊	昃	旻	杳	昵	昶	昴
5870	昜	晏	晄	晉	晁	晞	晝	晤	晧	晨
5880	晟	晢	晰	暃	暈	暎	暉	暄	暘	暝
5890	曁	暹	曉	暾	暼					
5900		曄	暸	曖	曚	曠	昿	曦	曩	曰
5910	曵	曷	朏	朖	朞	朦	朧	霸	朮	朿
5920	朶	杁	朸	朷	杆	杞	杠	杙	杣	杤
5930	枉	杰	枩	杼	杪	枌	枋	枦	枡	枅
5940	枷	柯	枴	柬	枳	柩	枸	柤	柞	柝
5950	柢	柮	枹	柎	柆	柧	檜	栞	框	栩
5960	桀	桍	栲	桎	梳	栫	桙	档	桷	桿
5970	梟	梏	梭	梔	條	梛	梃	檮	梹	桴
5980	梵	梠	梺	椏	梍	桾	椁	棊	椈	棘
5990	椢	椦	棡	椌	棍					

JIS 第二水準文字

2/3

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6000		棔	棧	棕	椶	椒	椄	棗	棣	椥
6010	棹	棠	棯	椨	椪	椚	椣	椡	棆	楹
6020	楷	楜	楸	楫	楔	楾	楮	椹	楴	椽
6030	楙	椰	楡	楞	楝	榁	楪	榲	榮	槐
6040	榿	槁	槓	榾	槎	寨	槊	槝	榻	槃
6050	榧	樮	榑	榠	榜	榕	榴	槞	槨	樂
6060	樛	槿	權	槹	槲	槧	樅	榱	樞	槭
6070	樔	槫	樊	樒	櫁	樣	樓	橄	樌	橲
6080	樶	橸	橇	橢	橙	橦	橈	樸	樢	檐
6090	檍	檠	檄	檢	檣					
6100		檗	蘗	檻	櫃	櫂	檸	檳	檬	櫞
6110	櫑	櫟	檪	櫚	櫪	櫻	欅	蘖	櫺	欒
6120	欖	鬱	欟	欸	欷	盜	欹	飮	歇	歃
6130	歉	歐	歙	歔	歛	歟	歡	歸	歹	歿
6140	殀	殄	殃	殍	殘	殕	殞	殤	殪	殫
6150	殯	殲	殱	殳	殷	殼	毆	毋	毓	毟
6160	毬	毫	毳	毯	麾	氈	氓	气	氛	氤
6170	氣	汞	汕	汢	汪	沂	沍	沚	沁	沛
6180	汾	汨	汳	沒	沐	泄	泱	泓	沽	泗
6190	泅	泝	沮	沱	沾					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6200		沺	泛	泯	泙	泪	洟	衍	洶	洫
6210	洽	洸	洙	洵	洳	洒	洌	浣	涓	浤
6220	浚	浹	浙	涎	涕	濤	涅	淹	渕	渊
6230	涵	淇	淦	涸	淆	淬	淞	淌	淨	淒
6240	淅	淺	淙	淤	淕	淪	淮	渭	湮	渮
6250	渙	湲	湟	渾	渣	湫	渫	湶	湍	渟
6260	湃	渺	湎	渤	滿	渝	游	溂	溪	溘
6270	滉	溷	滓	溽	溯	滄	溲	滔	滕	溏
6280	溥	滂	溟	潁	漑	灌	滬	滸	滾	漿
6290	滲	漱	滯	漲	滌					
6300		漾	漓	滷	澆	潺	潸	澁	澀	潯
6310	潛	濳	潭	澂	潼	潘	澎	澑	濂	潦
6320	澳	澣	澡	澤	澹	濆	澪	濟	濕	濬
6330	濔	濘	濱	濮	濛	瀉	瀋	濺	瀑	瀁
6340	瀏	濾	瀛	瀚	潴	瀝	瀘	瀟	瀰	瀾
6350	瀲	灑	灣	炙	炒	炯	烱	炬	炸	炳
6360	炮	烟	烋	烝	烙	焉	烽	焜	焙	煥
6370	煕	熈	煦	煢	煌	煖	煬	熏	燻	熄
6380	熕	熨	熬	燗	熹	熾	燒	燉	燔	燎
6390	燠	燬	燧	燵	燼					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6400		燹	燿	爍	爐	爛	爨	爭	爬	爰
6410	爲	爻	爼	爿	牀	牆	牋	牘	牴	牾
6420	犂	犁	犇	犒	犖	犢	犧	犹	犲	狃
6430	狆	狄	狎	狒	狢	狠	狡	狹	狷	倏
6440	猗	猊	猜	猖	猝	猴	猯	猩	猥	猾
6450	獎	獏	默	獗	獪	獨	獰	獸	獵	獻
6460	獺	珈	玳	珎	玻	珀	珥	珮	珞	璢
6470	琅	瑯	琥	珸	琲	琺	瑕	琿	瑟	瑙
6480	瑁	瑜	瑩	瑰	瑣	瑪	瑶	瑾	璋	璞
6490	璧	瓊	瓏	瓔	珱					
6500		瓠	瓣	瓧	瓩	瓮	瓲	瓰	瓱	瓸
6510	瓷	甄	甃	甅	甌	甎	甍	甕	甓	甞
6520	甦	甬	甼	畄	畍	畊	畉	畛	畆	畚
6530	畩	畤	畧	畫	畭	畸	當	疆	疇	畴
6540	疊	疉	疂	疔	疚	疝	疥	疣	痂	疳
6550	痃	疵	疽	疸	疼	疱	痍	痊	痒	痙
6560	痣	痞	痾	痿	痼	瘁	痰	痺	痲	痳
6570	瘋	瘍	瘉	瘟	瘧	瘠	瘡	瘢	瘤	瘴
6580	瘰	瘻	癇	癈	癆	癜	癘	癡	癢	癨
6590	癩	癪	癧	癬	癰					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6600		癲	癶	癸	發	皀	皃	皈	皋	皎
6610	皖	皓	皙	皚	皰	皴	皸	皹	皺	盂
6620	盍	盖	盒	盞	盡	盥	盧	盪	蘯	盻
6630	眈	眇	眄	眩	眤	眞	眥	眦	眛	眷
6640	眸	睇	睚	睨	睫	睛	睥	睿	睾	睹
6650	瞎	瞋	瞑	瞠	瞞	瞰	瞶	瞹	瞿	瞼
6660	瞽	瞻	矇	矍	矗	矚	矜	矣	矮	矼
6670	砌	砒	礦	砠	礪	硅	碎	硴	碆	硼
6680	碚	碌	碣	碵	碪	碯	磑	磆	磋	磔
6690	碾	碼	磅	磊	磬					
6700		磧	磚	磽	磴	礇	礒	礑	礙	礬
6710	礫	祀	祠	祗	祟	祚	祕	祓	祺	祿
6720	禊	禝	禧	齋	禪	禮	禳	禹	禺	秉
6730	秕	秧	秬	秡	秣	稈	稍	稘	稙	稠
6740	稟	禀	稱	稻	稾	稷	穃	穗	穉	穡
6750	穢	穩	龝	穰	穹	穽	窈	窗	窕	窘
6760	窖	窩	竈	窰	窶	竅	竄	窿	邃	竇
6770	竊	竍	竏	竕	竓	站	竚	竝	竡	竢
6780	竦	竭	竰	笂	笏	笊	笆	笳	笘	笙
6790	笞	笵	笨	笶	筐					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6800		筺	笄	筍	笋	筌	筅	筵	筥	筴
6810	筧	筰	筱	筬	筮	箝	箘	箟	箍	箜
6820	箚	箋	箒	箏	筝	箙	篋	篁	篌	篏
6830	箴	篆	篝	篩	簑	簔	篦	篥	籠	簀
6840	簇	簓	篳	篷	簗	簍	篶	簣	簧	簪
6850	簟	簷	簫	簽	籌	籃	籔	籏	籀	籐
6860	籘	籟	籤	籖	籥	籬	籵	粃	粐	粤
6870	粭	粢	粫	粡	粨	粳	粲	粱	粮	粹
6880	粽	糀	糅	糂	糘	糒	糜	糢	鬻	糯
6890	糲	糴	糶	糺	紆					
6900		紂	紜	紕	紊	絅	絋	紮	紲	紿
6910	紵	絆	絳	絖	絎	絲	絨	絮	絏	絣
6920	經	綉	絛	綏	絽	綛	綺	綮	綣	綵
6930	緇	綽	綫	總	綢	綯	緜	綸	綟	綰
6940	緘	緝	緤	緞	緻	緲	緡	縅	縊	縣
6950	縡	縒	縱	縟	縉	縋	縢	繆	繦	縻
6960	縵	縹	繃	縷	縲	縺	繧	繝	繖	繞
6970	繙	繚	繹	繪	繩	繼	繻	纃	緕	繽
6980	辮	繿	纈	纉	續	纒	纐	纓	纔	纖
6990	纎	纛	纜	缸	缺					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7000		罅	罌	罍	罎	罐	网	罕	罔	罘
7010	罟	罠	罨	罩	罧	罸	羂	羆	羃	羈
7020	羇	羌	羔	羞	羝	羚	羣	羯	羲	羹
7030	羮	羶	羸	譱	翅	翆	翊	翕	翔	翡
7040	翦	翩	翳	翹	飜	耆	耄	耋	耒	耘
7050	耙	耜	耡	耨	耿	耻	聊	聆	聒	聘
7060	聚	聟	聢	聨	聳	聲	聰	聶	聹	聽
7070	聿	肄	肆	肅	肛	肓	肚	肭	冐	肬
7080	胛	胥	胙	胝	胄	胚	胖	脉	胯	胱
7090	脛	脩	脣	脯	腋					
7100		隋	腆	脾	腓	腑	胼	腱	腮	腥
7110	腦	腴	膃	膈	膊	膀	膂	膠	膕	膤
7120	膣	腟	膓	膩	膰	膵	膾	膸	膽	臀
7130	臂	膺	臉	臍	臑	臙	臘	臈	臚	臟
7140	臠	臧	臺	臻	臾	舁	舂	舅	與	舊
7150	舍	舐	舖	舩	舫	舸	舳	艀	艙	艘
7160	艝	艚	艟	艤	艢	艨	艪	艫	舮	艱
7170	艷	艸	艾	芍	芒	芫	芟	芻	芬	苡
7180	苣	苟	苒	苴	苳	苺	莓	范	苻	苹
7190	苞	茆	苜	茉	苙					

JIS 第二水準文字

3/3

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7200		茵	茴	茖	茲	茱	荀	茹	荐	荅
7210	茯	茫	茗	茘	莅	莚	莪	莟	莢	莖
7220	茣	莎	莇	莊	荼	莵	荳	荵	莠	莉
7230	莨	菴	萓	菫	菎	菽	萃	菘	萋	菁
7240	菷	萇	菠	菲	萍	萢	萠	莽	萸	蔆
7250	菻	葭	萪	萼	蕚	蒄	葷	葫	蒭	葮
7260	蒂	葩	葆	萬	葯	葹	萵	蓊	葢	蒹
7270	蒿	蒟	蓙	蓍	蒻	蓚	蓐	蓁	蓆	蓖
7280	蒡	蔡	蓿	蓴	蔗	蔘	蔬	蔟	蔕	蔔
7290	蓼	蕀	蕣	蕘	蕈					
7300		蕁	蘂	蕋	蕕	薀	薤	薈	薑	薊
7310	薨	蕭	薔	薛	藪	薇	薜	蕷	蕾	薐
7320	藉	薺	藏	薹	藐	藕	藝	藥	藜	藹
7330	蘊	蘓	蘋	藾	藺	蘆	蘢	蘚	蘰	蘿
7340	虍	乕	虔	號	虧	虱	蚓	蚣	蚩	蚪
7350	蚋	蚌	蚶	蚯	蛄	蛆	蚰	蛉	蠣	蚫
7360	蛔	蛞	蛩	蛬	蛟	蛛	蛯	蜒	蜆	蜈
7370	蜀	蜃	蛻	蜑	蜉	蜍	蛹	蜊	蜴	蜿
7380	蜷	蜻	蜥	蜩	蜚	蝠	蝟	蝸	蝌	蝎
7390	蝴	蝗	蝨	蝮	蝙					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7400		蝓	蝣	蝪	蠅	螢	螟	螂	螯	蟋
7410	螽	蟀	蟐	雖	螫	蟄	螳	蟇	蟆	螻
7420	蟯	蟲	蟠	蠏	蠍	蟾	蟶	蟷	蠎	蟒
7430	蠑	蠖	蠕	蠢	蠡	蠱	蠶	蠹	蠧	蠻
7440	衄	衂	衒	衙	衞	衢	衫	袁	衾	袞
7450	衵	衽	袵	衲	袂	袗	袒	袮	袙	袢
7460	袍	袤	袰	袿	袱	裃	裄	裔	裘	裙
7470	裝	裹	褂	裼	裴	裨	裲	褄	褌	褊
7480	褓	襃	褞	褥	褪	褫	襁	襄	褻	褶
7490	褸	襌	褝	襠	襞					
7500		襦	襤	襭	襪	襯	襴	襷	襾	覃
7510	覈	覊	覓	覘	覡	覩	覦	覬	覯	覲
7520	覺	覽	覿	觀	觚	觜	觝	觧	觴	觸
7530	訃	訖	訐	訌	訛	訝	訥	訶	詁	詛
7540	詒	詆	詈	詼	詭	詬	詢	誅	誂	誄
7550	誨	誡	誑	誥	誦	誚	誣	諄	諍	諂
7560	諚	諫	諳	諧	諤	諱	謔	諠	諢	諷
7570	諞	諛	謌	謇	謚	諡	謖	謐	謗	謠
7580	謳	鞫	謦	謫	謾	謨	譁	譌	譏	譎
7590	證	譖	譛	譚	譫					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7600		譟	譬	譯	譴	譽	讀	讌	讎	讒
7610	讓	讖	讙	讚	谺	豁	谿	豈	豌	豎
7620	豐	豕	豢	豬	豸	豺	貂	貉	貅	貊
7630	貍	貎	貔	豼	貘	戝	貭	貪	貽	貲
7640	貳	貮	貶	賈	賁	賤	賣	賚	賽	賺
7650	賻	贄	贅	贊	贇	贏	贍	贐	齎	贓
7660	賍	贔	贖	赧	赭	赱	赳	趁	趙	跂
7670	趾	趺	跏	跚	跖	跌	跛	跋	跪	跫
7680	跟	跣	跼	踈	踉	跿	踝	踞	踐	踟
7690	蹂	踵	踰	踴	蹊					
7700		蹇	蹉	蹌	蹐	蹈	蹙	蹤	蹠	踪
7710	蹣	蹕	蹶	蹲	蹼	躁	躇	躅	躄	躋
7720	躊	躓	躑	躔	躙	躪	躡	躬	躰	軆
7730	躱	躾	軅	軈	軋	軛	軣	軼	軻	軫
7740	軾	輊	輅	輕	輒	輙	輓	輜	輟	輛
7750	輌	輦	輳	輻	輹	轅	轂	輾	轌	轉
7760	轆	轎	轗	轜	轢	轣	轤	辜	辟	辣
7770	辭	辯	辷	迚	迥	迢	迪	迯	邇	迴
7780	逅	迹	迺	逑	逕	逡	逍	逞	逖	逋
7790	逧	逶	逵	逹	迸					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7800		遏	遐	遑	遒	逎	遉	逾	遖	遘
7810	遞	遨	遯	遶	隨	遲	邂	遽	邁	邀
7820	邊	邉	邏	邨	邯	邱	邵	郢	郤	扈
7830	郛	鄂	鄒	鄙	鄲	鄰	酊	酖	酘	酣
7840	酥	酩	酳	酲	醋	醉	醂	醢	醫	醯
7850	醪	醵	醴	醺	釀	釁	釉	釋	釐	釖
7860	釟	釡	釛	釼	釵	釶	鈞	釿	鈔	鈬
7870	鈕	鈑	鉞	鉗	鉅	鉉	鉤	鉈	銕	鈿
7880	鉋	鉐	銜	銖	銓	銛	鉚	鋏	銹	銷
7890	鋩	錏	鋺	鍄	錮					
7900		錙	錢	錚	錣	錺	錵	錻	鍜	鍠
7910	鍼	鍮	鍖	鎰	鎬	鎭	鎔	鎹	鏖	鏗
7920	鏨	鏥	鏘	鏃	鏝	鏐	鏈	鏤	鐚	鐔
7930	鐓	鐃	鐇	鐐	鐶	鐫	鐵	鐡	鐺	鑁
7940	鑒	鑄	鑛	鑠	鑢	鑞	鑪	鈩	鑰	鑵
7950	鑷	鑽	鑚	鑼	鑾	钁	鑿	閂	閇	閊
7960	閔	閖	閘	閙	閠	閨	閧	閭	閼	閻
7970	閹	閾	闊	濶	闃	闍	闌	闕	闔	闖
7980	關	闡	闥	闢	阡	阨	阮	阯	陂	陌
7990	陏	陋	陷	陜	陞					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
8000		陝	陟	陦	陲	陬	隍	隘	隕	隗
8010	險	隧	隱	隲	隰	隴	隶	隸	隹	雎
8020	雋	雉	雍	襍	雜	霍	雕	雹	霄	霆
8030	霈	霓	霎	霑	霏	霖	霙	霤	霪	霰
8040	霹	霽	霾	靄	靆	靈	靂	靉	靜	靠
8050	靤	靦	靨	勒	靫	靱	靹	鞅	靼	鞁
8060	靺	鞆	鞋	鞏	鞐	鞜	鞨	鞦	鞣	鞳
8070	鞴	韃	韆	韈	韋	韜	韭	齏	韲	竟
8080	韶	韵	頏	頌	頸	頤	頡	頷	頽	顆
8090	顏	顋	顫	顯	顰					
8100		顱	顴	顳	颪	颯	颱	颶	飄	飃
8110	飆	飩	飫	餃	餉	餒	餔	餘	餡	餝
8120	餞	餤	餠	餬	餮	餽	餾	饂	饉	饅
8130	饐	饋	饑	饒	饌	饕	馗	馘	馥	馭
8140	馮	馼	駟	駛	駝	駘	駑	駭	駮	駱
8150	駲	駻	駸	騁	騏	騅	駢	騙	騫	騷
8160	驅	驂	驀	驃	騾	驕	驍	驛	驗	驟
8170	驢	驥	驤	驩	驫	驪	骭	骰	骼	髀
8180	髏	髑	髓	體	髞	髟	髢	髣	髦	髯
8190	髫	髮	髴	髱	髷					

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
8200		髻	鬆	鬘	鬚	鬟	鬢	鬣	鬥	鬧
8210	鬨	鬩	鬪	鬮	鬯	鬲	魄	魃	魏	魍
8220	魎	魑	魘	魴	鮓	鮃	鮑	鮖	鮗	鮟
8230	鮠	鮨	鮴	鯀	鯊	鮹	鯆	鯏	鯑	鯒
8240	鯣	鯢	鯤	鯔	鯡	鰺	鯲	鯱	鯰	鰕
8250	鰔	鰉	鰓	鰌	鰆	鰈	鰒	鰊	鰄	鰮
8260	鰛	鰥	鰤	鰡	鰰	鱇	鰲	鱆	鰾	鱚
8270	鱠	鱧	鱶	鱸	鳧	鳬	鳰	鴉	鴈	鳫
8280	鴃	鴆	鴪	鴦	鶯	鴣	鴟	鵄	鴕	鴒
8290	鵁	鴿	鴾	鵆	鵈					
8300		鵝	鵞	鵤	鵑	鵐	鵙	鵲	鶉	鶇
8310	鶫	鵯	鵺	鶚	鶤	鶩	鶲	鷄	鷁	鶻
8320	鶸	鶺	鷆	鷏	鷂	鷙	鷓	鷸	鷦	鷭
8330	鷯	鷽	鸚	鸛	鸞	鹵	鹹	鹽	麁	麈
8340	麋	麌	麒	麕	麑	麝	麥	麩	麸	麪
8350	麭	靡	黌	黎	黏	黐	黔	黜	點	黝
8360	黠	黥	黨	黯	黴	黶	黷	黹	黻	黼
8370	黽	鼇	鼈	皷	鼕	鼡	鼬	鼾	齊	齒
8380	齔	齣	齟	齠	齡	齦	齧	齬	齪	齷
8390	齲	齶	龕	龜	龠					
8400		堯	槇	遙	瑤					

4. こんなときには

ファクスを利用したサービスについて

ファクス情報サービスを利用する

ファクス情報サービスの受け取りかたには、次の2つの方法があります。

- 相手の音声ガイダンスにしたがって操作する方法
- ポーリング受信機能を使う方法

補足

❒ 通話料金は受信側にかかります。また、通話料金のほかに情報料がかかることがあります。

音声ガイダンスにしたがって操作するとき

操作の前に

原稿をセットしないで操作します。

使用している回線がダイヤル回線かプッシュ回線かを確認してください。⇒ファクス機能 応用編「第11章 電話回線の種別を設定する」

参照

スピーカーから聞こえる音量を調整できます。⇒ P.83 「音量を調節する」

1 **ファクス初期画面が表示されていることを確認します。**

補足

❒ 表示されていないときは**【ファクス】**キーを押します。

2 **【オンフック】キーを押します。**



ZFLS120J

補足

❒ **【オンフック】**キーを押してから、一定時間何も操作しないと回線が切断されます。その時間をオンフック解除時間といいます。オンフック解除時間は「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は、「3分」に設定されています。⇒ファクス機能　応用編「第7章　基本設定/調整」

❒ ハンドセット（オプション）を付けているときは、**【オンフック】**キーを押す代わりに、受話器を上げても同様の操作ができます。

3 **情報提供元のファクス番号を指定します。**

指定したファクス番号がすぐにダイヤルされます。

4 **ダイヤル回線をお使いのときは【トーン】キーを押します。**



ZFLS100J

補足

❒ プッシュ回線をお使いのときは、手順**5**に進みます。

5 相手のガイダンスにしたがって操作します。

6 「スタートボタンを押してください」と流れたら、【スタート】キーまたは【手動受信】キーを押します。



ZFLS180J

しばらくすると、受信が始まります。

補足

- ❒ ハンドセット（オプション）を使っているときは、**【スタート】**キーまたは**【手動受信】**キーを押して、受話器を置きます。

ポーリング受信機能を使うとき

情報提供元からポーリング受信（ポーリングモード）を指定されることがあります。そのときは「ポーリング受信」を使います。

参照

ファクス機能 応用編「第1章 ポーリング受信」

マークシートを送信してサービスを受けるとき

銀行のアンサーシステムやレインズシステム（財団法人首都圏不動産流通機構の不動産情報検索システム）をご利用の際に、マークシートを送信するときは、次のように操作します。

1 マークシートにマークを濃くはっきりと記入します。

2 マークシートを原稿ガラスにまっすぐにセットします。

重要

- ❒ 自動原稿送り装置（ADF）<オプション>は使用しないでください。
- ❒ マークシートの向きは、必ず「B5、A4、B4、A3サイズの原稿をセットするとき」のようにセットしてください。向きを間違えたり、斜めにセットすると正しく送信されません。⇒ P.22「原稿をセットする」

3 「文字」が選択されていることを確認します。

補足

- ❒ 文字が選択されていないときは［原稿種類］を押して選択します。

4 相手先を指定します。

5 【スタート】キーを押します。

補足

- ❒ 以上のように操作しても正しく送信できないときは、「文字サイズ」を「小さな字」に、「濃度」をもっとも濃い設定にしてください。それでも送信できないときは、サービス実施店に連絡してください。⇒ P.35「文字のサイズを選ぶ」、P.37「濃度を調整する」

音量を調節する

本体内部のスピーカーから聞こえるモニターやブザーの音量を調整します。

調整できる音は次のとおりです。

❖ **オンフック時**
【オンフック】キーを押したときに聞こえる音です。

❖ **送信時**
送信するときに聞こえる音です。

❖ **受信時**
受信するときに聞こえる音です。

❖ **発信時**
【スタート】キーを押してから相手先のファクスにつながる間に聞こえる音です。

❖ **受信印刷時**
受信文書の印刷が終了したときに鳴るブザーの音です。
⇒ファクス機能 応用編「第5章 印刷終了ブザー」

制限

❒ G4回線（オプション）または増設G3回線（オプション）を使用しているとき、音量調節はできません。

補足

❒ オンフック時の音量は、オンフックキーを押したときにも調整できます。⇒ファクス機能 応用編「第4章 オンフックダイヤル(オンフックを使った送信)」

❒ ハンドセット（オプション）のベル音量も調整できます。⇒ファクス機能 応用編「第11章 ハンドセット（オプション）を設定する」

1 **【初期設定/カウンター】キーを押します。**

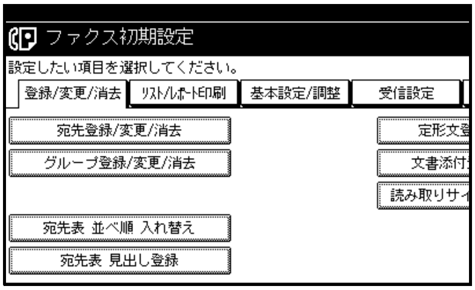


2 **［ファクス初期設定］を押します。**

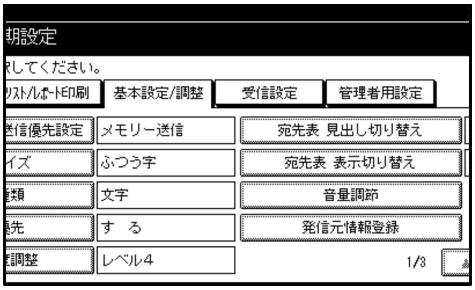


ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 **［基本設定/調整］を押します。**



4 **［音量調節］を押します。**



5 ［小さく］または［大きく］を押して音量を調整します。



補足

- ❒［確認］を押すと、実際に音を確認できます。

4

6 ［設定］を押します。

補足

- ❒［取消］を押すと、設定を取り消して手順4の画面に戻ります。

7 【初期設定/カウンター】キーを押します。

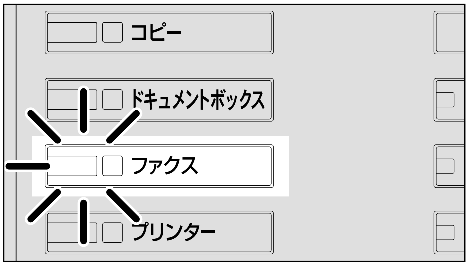


ZFLS110J

待機中の画面に戻ります。

【ファクス】キーが赤く点灯したとき

【ファクス】キーが点灯しているときは、**【ファクス】**キーを押してファクス画面に切り替えてください。その後、次の説明にしたがって対処してください。



ZFLS140J

状態	原因と対処方法
用紙がない。	用紙を補給してください。⇒運用編「用紙をセットする」
排紙先のトレイに用紙が一杯になっている。	トレイから用紙を取り除いてください。
ファクス機能でエラーが発生した。	ファクス機能が故障しています。サービス実施店に連絡してください。このときに画面に表示された番号もお知らせください。カスタマーエンジニアが修理にお伺いいたします。 ⇒ P.86 「いつもと違うメッセージが表示されたとき」 コピー機能は通常どおり使えます。

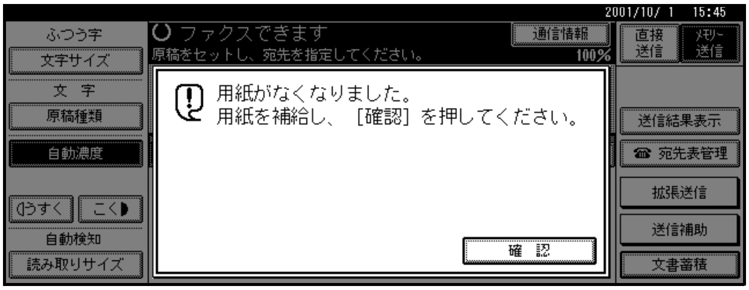
いつもと違うメッセージが表示されたとき

主なメッセージについて説明します。その他のメッセージが表示されたときは、メッセージにしたがって対処してください。

メッセージ	原因と対処方法
エラーが発生したため、送信を中止しました。	直接送信中に原稿がつまったため、送信が中止されました。［確認］を押し、読み取りが終了していないページを送信し直してください。 直接送信中に送信エラーが発生しました。［確認］を押し、送信し直してください。 **補足** ❒ 原因として本機の不具合や電話回線の影響（雑音、混線）などが考えられます。何回も続けてエラーになるときはサービス実施店に連絡してください。
原稿を戻し確認した後、スタートキーを押してください。	メモリー送信中に原稿がつまったため、読み取りが中断されました。読み取りが終了していないページ（つまったページ）をセットし直してください。
原稿サイズがわかりません。 原稿をセットしなおし、もう一度スタートキーを押してください。	セットされている原稿のサイズを自動的に読み取ることができませんでした。送信する原稿をセットし直して、もう一度**【スタート】**キーを押してください。
サービスコール ファクス機能にエラーが発生しました。お手数ですがサービスにご連絡ください。	ファクス機能が故障しています。サービス実施店に連絡してください。このときに画面に表示された番号もお知らせください。カスタマーエンジニアが修理にお伺いいたします。 コピー機能は通常どおり使えます。
メモリーが一杯になりました。 これ以上の読み取りはできません。 読み取ったページのみ送信します。	［確認］を押すと待機中の状態に戻り、蓄積できたページまでの送信を始めます。
下記の排紙先が満杯になりました。 用紙を取り除いてください。	排紙先のトレイに用紙が一杯になっています。 表示された排紙トレイから用紙を取り除いてください。
ほかの機能でスキャナーを使用中のため、ファクス｛読み取り｝できません。	コピー機能またはドキュメントボックス機能での操作が終了していません。終了させてから送信し直してください。 ［確認］を押したあと、**【コピー】**キーまたは**【ドキュメントボックス】**キーを押して、操作が中断されている機能を探します。コピーまたはドキュメントボックスの画面で**【クリア/ストップ】**キーを押し、「ストップキーが押されました。コピーを中止しますか？」または「ストップキーが押されました。読み取りを中止しますか？」と表示されたら［中止］を押してください。

用紙切れ警告表示

いずれかの給紙トレイに用紙がなくなると画面にメッセージを表示します。給紙トレイに用紙を補給してください。



補足

- 他の給紙トレイに用紙があるときは、メッセージが表示されていても通常どおりの受信ができます。
- メッセージを表示するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「しない」に設定されています。⇒ファクス機能 応用編「第8章　パラメーター設定」（スイッチ05 ビット7）

4

おかしいなと思ったら

機械がうまく使えないときは、次の説明にしたがって対処してください。

状態	原因と対処方法	参照先
相手先の受信紙の白い地肌部分が黒っぽく汚れる。 原稿の裏面の画像が透ける。	濃度を薄くします。	「濃度を調整する」⇒ P.37
原稿にないものが送信または印刷される。	自動原稿送り装置（ADF）<オプション>または原稿ガラスが汚れています。汚れている部分を清掃してください。	⇒保守・運用編スキャナーユニットタイプ8100対応版「清掃・調整する」
	修正液やインクなどが完全に乾いた原稿をセットしてください。	—
受信紙の画像がかすれている。	目の粗い用紙や表面が加工されている用紙、湿気を含んだ用紙を使用するとかすれて印刷されることがあります。当社推奨の用紙を使用してください。	⇒保守・運用編スキャナーユニットタイプ8100対応版「用紙に関する注意」
	が点滅しているときは、トナーが少なくなっています。トナーボトルを交換してください。	⇒保守・運用編スキャナーユニットタイプ8100対応版「トナーを補給する」
	相手先に濃度を濃くして送信し直してもらいます。	—
白紙で送信される。	原稿をセットする面がまちがっています。正しくセットし直してください。	「原稿をセットする」⇒ P.22
メモリー送信を取り消す。	読み取り中に取り消すときは**【クリア/ストップ】**キーまたは［読み取り中止］を押します。	「メモリー送信を取り消す」⇒ P.30
	送信中または送信待機中に取り消すときは、**【クリア/ストップ】**キーまたは［送信文書変更/中止］を押します。	⇒ファクス機能 応用編「第2章 送信を中止する」
送信中の直接送信を取り消す。	**【クリア/ストップ】**キーを押します。	「直接送信を取り消す」⇒ P.34
グループ登録時に最大件数まで相手先が追加できない。	テンキーで指定した相手先が、すべてのグループ登録の合計で100件（オプションのFAX機能拡張キット取り付け時は1000件）になりました。宛先表を使用してください。	「直接番号を入力する」⇒ P.40

状態	原因と対処方法	参照先
送信・受信ともにできない。	モジュラーコードが外れている可能性があります。モジュラーコードの接続を確認してください。	—
	TA（ターミナルアダプター）の設定がまちがっています。設定を確認してください。	—
送信できるが受信できない。	NTTとナンバー・ディスプレイの契約をしていると、受信モードがファクスモードまたはファクス優先モードのときは、ファクスを受信できません。受信モードを電話モードまたは電話優先モードに設定し、受信の操作をしてください。	—
	TA（ターミナルアダプター）の設定がまちがっています。設定を確認してください。	—
受信できるが送信できない。	TA（ターミナルアダプター）の設定がまちがっています。設定を確認してください。	—
オンフックダイヤルまたはマニュアルダイヤルを使っているとき、「受信中」と表示されて送信できない。	本機は **【スタート】**キーを押したときに、原稿サイズを検知できないと、受信の動作を行います。［読み取りサイズ］を押して、原稿の読み取りサイズを指定して送信し直してください。また、オンフックダイヤルまたはマニュアルダイヤルを使うことが多いときは、「パラメーター設定」の「手動受信やファクス情報サービスを利用するとき、**【スタート】**キーを押して、受信するかどうか」を「受信しない」に設定することをお勧めします。ただし、手動受信やファクス情報サービスを利用するとき**【スタート】**キーを押して受信することはできません。工場出荷時は、「受信する」に設定されています。	⇒ファクス機能 応用編「第8章 パラメーター設定」（スイッチ17 ビット7）

4

索引

アルファベット索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

重要

- ❒ 本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
- ❒ 本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

おことわり

1. 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本製品（ハードウエア、ソフトウエア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

株式会社リコー
東京都港区南青山1-15-5 リコービル 〒107-8544
(03) 3479-3111(代表)

お問い合わせ先

お買い上げいただきました弊社製品についての消耗品のご注文はお買い上げの販売店にご連絡ください。
故障・保守サービスのお問い合わせは最寄りのサービス実施店にご連絡ください。
転居の際は、販売店またはサービス実施店にご連絡ください。転居先の最寄りの販売店、サービス実施店をご紹介いたします。

ファクス機能の操作方法に関するお問い合わせは、
「リコープリンターコールセンター、IPSiO(イプシオ)ダイヤル」にご連絡ください。

FreeDial **0120-56-1240**(コールはイプシオ)

● 受付時間:9〜12時、13〜17時(土、日、祝祭日、リコーの休業日を除く)

リコーは環境保全を経営の優先課題のひとつと考え、リサイクル推進にも注力しております。本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

リコーは環境に配慮し、説明書の印刷に大豆から作られたインキの使用を推進しています。
この説明書はエコマーク商品に認定された再生紙を使用しています。

2002年1月 G307-8503

IPSiO Color8150 使用説明書〈ファクス機能 基本編〉